教育実践

第67号

新潟市小学校教育研究協議会

教育実践

第 67 号

令和6年2月

新潟市小学校教育研究協議会

教 育 実 践

第 67 号

令 和 6 年 2 月

新潟市小学校教育研究協議会

表紙絵

「光」

令和５年５月に新型コロナウイルス感染症が５類感染症に位置付けられました。それに伴って，マスクを外して活動する子どもたちが増えました。今まで隠れていた口元が見えるようになり，子どもたちの表情がよく分かるようになりました。この絵は，８月に行った自然体験教室のキャンドルファイアでろうそくの光に灯された様子に微笑む子どもの姿を描きました。

亀田西小学校　　吉崎　友子

目　　次

巻 頭 言　　新潟市教育委員会教育長　井 崎 規 之
新潟市小学校教育研究協議会会長　山 田 哲 哉

１　研究発表会・主管事業等の概要…… 5
⑴　研究発表会…… 6
⑵　第３回にいがた子どもサミット（特別活動部）…… 8
⑶　第70回新潟市小学校音楽祭「にじいろ音楽祭」（音楽祭実行委員会）…… 9

２　令和５年度各教科等の研究…… 10
◇　重点研究部
算　　数…… 11
外 国 語…… 14
道　　徳…… 17
◇　副重点研究部
生　　活…… 20
音　　楽…… 23
生 徒 指 導…… 26
◇　重点・副重点以外の研究部
14 研 究 部…… 29

３　令和５年度の組織・事業報告等…… 57
⑴　会　議　等…… 58
⑵　各研究部の事業…… 59

４　付　　録…… 79
⑴　新潟市小学校教育研究協議会のあゆみ…… 80
⑵　新潟市小学校教育研究協議会規約…… 88

あ と が き…… 90

不 易 流 行

新潟市教育委員会
教育長　**井　崎　規　之**

新潟市小学校教育研究会におかれましては，今年度も力強い研究を進め，授業改革に向けて大きな成果を共有したとお聞きしております。日頃の熱意溢れる研究と子どもたちへのご指導に心より感謝申し上げます。

さて，今年５月８日より，新型コロナウイルス感染症が５類相当になり，平時にはコロナ禍前とおおよそ同等の条件下で教育活動が展開されたと推察しております。一方，コロナ禍において，学びの保障という観点から，資質・能力の育成のための教育活動を厳選し，指導を改善し，学びのセーフティーネットの構築に注力したことと思います。そのことは，子どもたちにとって本当に必要なことは何なのかという教育の本質を追求することにつながったと考えます。また，GIGAスクール構想により一人一台端末と高速ネットワーク等の環境整備が飛躍的に進展し，子どもの学びにも大きな変化がもたらされ，学習端末使用頻度は政令市でトップとなりました。端末を活用して，個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ，主体的・対話的で深い学びの実現に各校が取り組むことで成果を上げていると認識しております。校長先生方のリーダーシップの下，そして横のつながりで専門性を高めている小学校教育研究協議会の全市の組織的な取組により，さまざまな工夫をこらしながら，確かな学びを継続してくださったことに対し，心より敬意を表します。

６月に次期教育振興基本計画が閣議決定されました。中教審における，検討の視座が「不易流行」であり，教育基本法の理念等の実現こそが「不易」であるとしています。社会の急速な変化やSociety5.0を見据えた学びの変容はあるものの，立ち返るべきは常に不易であります。ＩＣＴの効果的な活用をはじめとする「流行」を通して，先達が積み重ねてきた150年にわたる学校教育の豊かな蓄積が，さらに価値あるものとなります。いわば，流行を取り入れてこそ不易としての普遍的使命が果たされると考えます。新潟市としては，これまで積み重ねてきた「学習課題とまとめ・振り返り」をベースにした分かる授業は，「これからも」大切にしていく理念である一方，「これからは」ＩＣＴを活用した児童が学び取る授業を追求していくことで，「不易流行」の考えに合致するものと考えます。

大きな教育の潮流の中，多様性を前提にした教育の展開は必須であり，子どもたちが「自分らしさ」を発揮しながら成長するには，授業の在り方もまた，多様化していくことと思います。一人では成し得ないよりよい授業の在り方への追及を，新潟市小学校研究協議会の取組により，今後も力強く推進されていくことと期待をしております。教育に求められる社会からの要請に応えていくために，新潟市小学校教育研究協議会が，より一層一致団結し，質の高い教育の創造を共有し，本市の教育の向上に一層寄与されますことをお願い申し上げるとともに，皆様のますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

登山道を選ぶ
登山道に仕掛ける

新潟市小学校教育研究協議会
会 長 **山 田 哲 哉**

令和５年度の市小研の事業・研修が終わろうとしています。感染症が５類に移行し，従来の実施方法と感染症禍で工夫した新たな実施方法とを目的に応じて使い分けながら，充実した事業・研修が展開されました。

研究発表会（ハイブリッド開催）では，算数部，道徳部，外国語部が提案性の高い発表を行いました。特別活動部主催の「第３回にいがた子どもサミット」（オンライン開催）には，33校254名の児童が参加し，「新潟市こども条例」について熱く語り合いました。音楽部主催の「にじいろ音楽祭」（対面開催）では，41校の子どもたちが，りゅーとぴあのステージで，素敵な演奏を繰り広げました。

各部の授業研究，研修活動等も，必要に応じてオンラインを取り入れながら，意欲的，実践的かつ無理なく行われています。研究推進にご尽力いただいた各研究部の理事・部長をはじめ，研究推進委員の皆様に心から感謝申し上げます。

この「教育実践」第67号には，各部会の自主的，意欲的，先進的な研修の成果の一端が掲載されています。今後の各事業，研修の在り方を考える一助となれば幸いです。

さて，市小研の日は，正副会長会，理事・部長会等に充てられることが多いのですが，12月の市小研の日，図画工作部会に参加できました。３地区の会場をオンラインでつなぎつつ，会場別に実践レポートを持ち寄ったグループ協議が行われました。

私が参加したのは，低学年担任の先生方４名のグループでした。偶然にも，４名とも「ならべて　ならべて」という造形遊びの題材の実践でした。レポートは，「題材との出会いの場の工夫（材料・人・場所）」「表現段階での工夫」「友達との交流の場の工夫」「鑑賞段階での工夫」等の項目に沿った手立てが，端的に分かり易く書かれていました。児童の様子，子どもの振り返り，教師の振り返りの記述から，造形遊びの活動を通して，子どもたちに，「個別最適な学び・（自然発生的な）協働的な学び」が保障されていたこともよく分かりました。

同じ題材でも，ねらい達成に向けた意図やアプローチの仕方が先生方それぞれ違っていて，大変勉強になりました。用いる材料，活動する場，自然に友達の活動の様子に目が向く仕掛け，自然に児童同士のかかわりが生まれる仕掛け，鑑賞の際の視点の与え方等々に，○○先生らしさが表れているのです。

私はよく授業づくりを「登山」に例えます。目指す頂上（ねらい）は同じでも，そこに向かうには何通りもの登山道があり，どの登山口からどの道を通って頂上に向かうかは，授業者が決めるのです。そして，道の途中に，子どもがさらに上を目指したくなるように，意図的な仕掛けをするのです。子どもがわくわくしながら頂上を目指す姿を思い描きながら仕掛けを考えるのは，実に楽しいものです。教師の本分であり，醍醐味だと思いませんか。

部会に参加しながら，こんなことを考えていました。短時間でしたが，実に有意義な時間でした。20の部会全てで，このように充実した部会運営がされていることと思います。

結びに，各研究部へ温かいご指導とご支援を賜りました新潟市教育委員会様，新潟市小学校長会様に心からお礼申し上げます。

1　研究発表会・主管事業等の概要

⑴　研究発表会…… 6

⑵　第３回にいがた子どもサミット（特別活動部）…… 8

⑶　第70回新潟市小学校音楽祭「にじいろ音楽祭」（音楽祭実行委員会）…… 9

(1) 研究発表会

期　日　令和５年８月２日（水）
　　９時00分～11時50分
会　場　新潟テルサ（江南区・西区・発表部）
　　各校（北区・東区・中央区・秋葉区
　　南区・西蒲区）

9:00	9:15	9:30		9:55	10:05	10:20		10:45	11:00		11:25	11:35	11:50
受付	開会式	全体指導	算数部発表	指導・講評	休憩	外国語部発表		指導・講評	道徳部発表		指導・講評	閉会式	

＜算数部の発表＞

＜外国語部の発表＞

＜道徳部の発表＞

⑵　第３回　にいがた子どもサミット　（特別活動部）

令和５年９月20日（水），「第３回にいがた子どもサミット（以下，サミット）」を開催しました。今年度で３回目を迎えたサミットは，昨年度までの模擬学級会での話合いからかたちを変えて，新潟市こども政策課と連携し，令和４年４月施行の「新潟市子ども条例」を話合いの共通テーマとして取り上げることとしました。今年度の活動のねらいは，「新潟市子ども条例に書かれた五つの権利を守るために，それぞれの学校や学級でできることを考えて話し合うことを通して，自校の特別活動をよりよくするための機会にする」でした。

今年度も，オンラインでの開催となりました。33校から250人以上の児童が話合いに参加しました。参加校は昨年度よりも増え，年々より多くの児童が関わる活動となってきています。当日は，19グループに分かれ，グループごとに話合いを進めました。初めは緊張した表情の児童が多かったのですが，コーディネーター（進行役の教員）からの温かい声掛けやアイスブレイクなどを経て，徐々に笑顔が増えてきました。

サミットの議題は，「子ども条例の五つの権利を守るため，学校や学級では何ができるだろうか」でした。児童は，「五つの権利のうち，自分が笑顔で過ごすために特に大切にしたい権利はどれか」ということについて事前に意見を考えており，まずは，自分の意見とそう考えた理由を出し合いました。そして，出た意見を比べ合い，五つの権利の大切さを参加者全員で確認しました。その後，自分のこれまでの経験も踏まえながら，「その権利を大切にするために，学校や学級でどんな取組ができるか」について児童とコーディネーターで考えました。議題について考え，議論する児童の真剣なまなざしが，とても輝いていました。

サミットで経験したことや話合いから得たものを学校に持ち帰り，児童自身により各学校の特別活動や，学級での支持的風土づくりに生かしてほしいと思います。今後も運営方法の工夫や改善を図り，各校のリーダーとして参加する児童が，これまで以上に必要感をもって参加できるとともに，より多くの学校に参加していただける会となるよう，運営に努めてまいります。

⑶　第70回　新潟市小学校音楽祭「にじいろ音楽祭」
～広がれ！友情とハーモニー～（音楽祭実行委員会）

11月８日（水）９日（木）10日（金）の３日間に渡り，市内41校約3100名の子どもたちが参加した「にじいろ音楽祭」を，りゅーとぴあ新潟市民芸術文化会館コンサートホールにて開催いたしました。

合唱や合奏を中心に，手拍子やダンスをしながら歌ったり楽器を演奏したりするなど日頃の音楽授業の成果が表れた素敵な発表ばかりでした。また，地域に根付いた「木遣り」や「創立150周年記念の歌」などオリジナリティあふれる演奏もありました。このように，様々な形態の音楽を聴くことができることも「にじいろ音楽祭」のよさの一つです。

演奏を終え舞台袖に降りてくる子どもたちは，満場の拍手を受け緊張が解けた安堵感，今までの練習の成果を出し切った満足感・達成感で高揚した最高の笑顔でした。「りゅーとぴあ」という素晴らしい会場で，自分の歌声や演奏した音がホールに響き友達の音と一つになっていく喜びや，聴き手と一体となって一つの音楽をつくり上げていく喜びを味わっていました。音楽を通して得た感動体験を，これからの学校生活に生かしていってほしいと願っています。

今年度は，各家庭２名まで保護者の皆様から観賞していただけるようにしました。入場整理券を事前に配付したり，保護者の入場ルートを限定したりしたことについて，ご理解ご協力をいただいたおかげで，滞りなく運営することができました。

「にじいろ音楽祭」を運営するに当たり，各校の校長先生をはじめ役員の先生方，そしてボランティアスタッフとしてご協力いただいた「にじいろ音楽祭応援隊」の皆様から多大なご尽力をいただきました。そして，新潟市音楽芸能協会からは，今年度も多大なご支援をいただきました。この場をお借りして，お礼を申し上げます。

２　令和５年度各教科等の研究

◇　重点教科部
○　算　　数…… 11
○　外　国　語…… 14
○　道　　徳…… 17

◇　副重点研究部
○　生　　活…… 20
○　音　　楽…… 23
○　生 徒 指 導…… 26

◇　重点・副重点以外の研究部
○　国　　語…… 29
○　社　　会…… 31
○　理　　科…… 33
○　図 画 工 作…… 35
○　家　　庭…… 37
○　体　　育…… 39
○　特 別 活 動…… 41
○　総 合 学 習…… 43
○　学校図書館…… 45
○　特別支援教育…… 47
○　保　　健…… 49
○　給食・食育…… 51
○　学 校 事 務…… 53
○　情 報 教 育…… 55

算　　数

部長　樋浦　教之（浜浦小学校）

研究主題
よりよい考えを探求しながら，算数を愉しむ子ども
～数学的な見方・考え方を働かせて，
深い学びを実現させるための手立ての工夫～

１　研究主題設定の理由

算数部では，「既習事項や複数の考えを関連付けて，新たな知識・技能を獲得する学習過程」を「深い学び」と捉え，その深い学びを実現している姿を「よりよい考え方を探求している姿」，そして，「深い学び」の実現に向けて意欲を高め，主体的に学習に臨む姿を「算数を愉しむ姿」と設定し，授業研究に取り組んできた。

また，これまでの実践から深い学びの実現には子ども自身が「数学的な見方・考え方」を働かせることが大切であることが分かってきた。そこで，副題を，「数学的な見方・考え方を働かせて，深い学びを実現させるための手立ての工夫」とした。

２　研究の内容

⑴　「関連モデル」「４つのＱ」を用いた授業づくりについて

算数部では，深い学びが実現している授業の様相を「関連モデル」（図１）として，また関連モデルを実現するために，授業者が事前に想定することが大切な事項を「４つのＱ」（図２）として整理し，授業づくりにおける有効性について検証した。

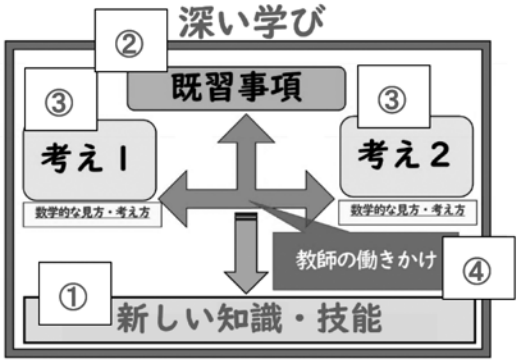


図１「関連モデル」

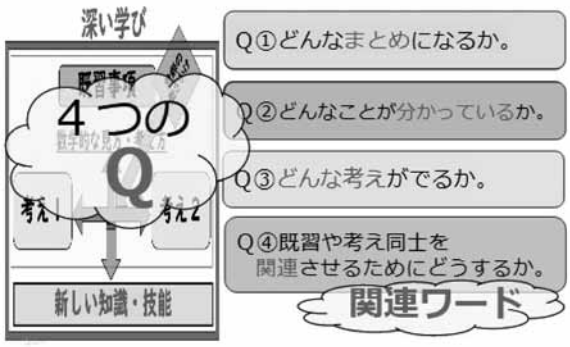
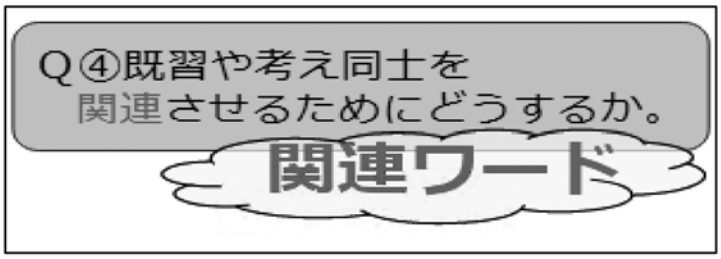


図２「４つのＱ」

⑵　「既習事項や複数の考えを関連付けるための手立て」について

既習事項や複数の考えを関連付けるためには教師の働き掛けが欠かせないことが明らかになってきた。算数部では，その働き掛けの一つを教師による発問「関連ワード」として位置付けた。授業の中で複数の考えが表出した時，どのような「関連ワード」を用いると有効なのか，ということについて検証した。

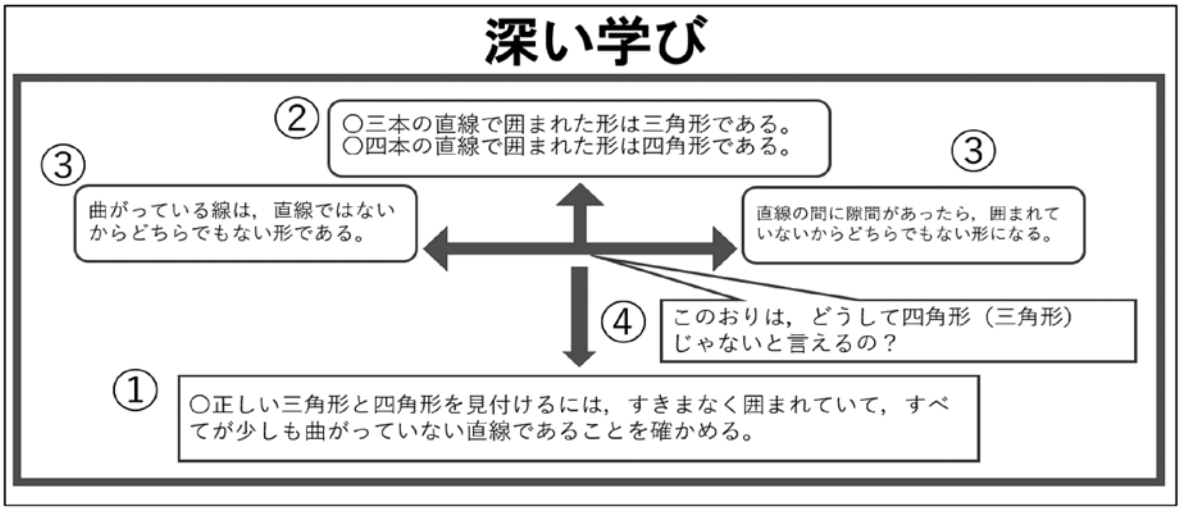


３　研究の実際

令和５年度に研究授業を６実践を行った。そのうちの２実践を以下に紹介する。

⑴　２年「三角形と四角形」の実践から　（授業者　有明台小　安達　友香　教諭）〉

①　授業の構想と工夫



②　本時の実際

ⅰ　本時のねらい

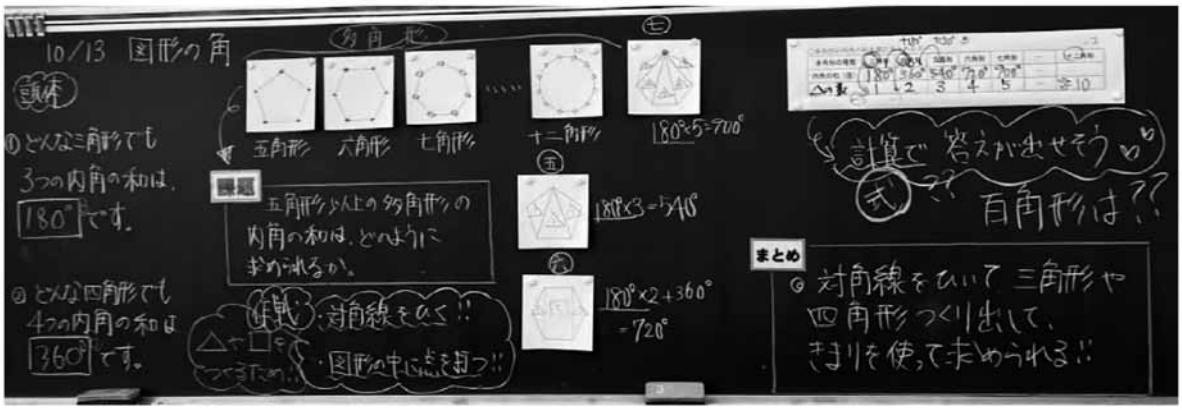
すきまなく直線で囲まれているかどうかに着目し，いろいろな図形の弁別をすることを通して，四角形や三角形の定義を理解することができる。

ⅱ　本時における関連ワードについて

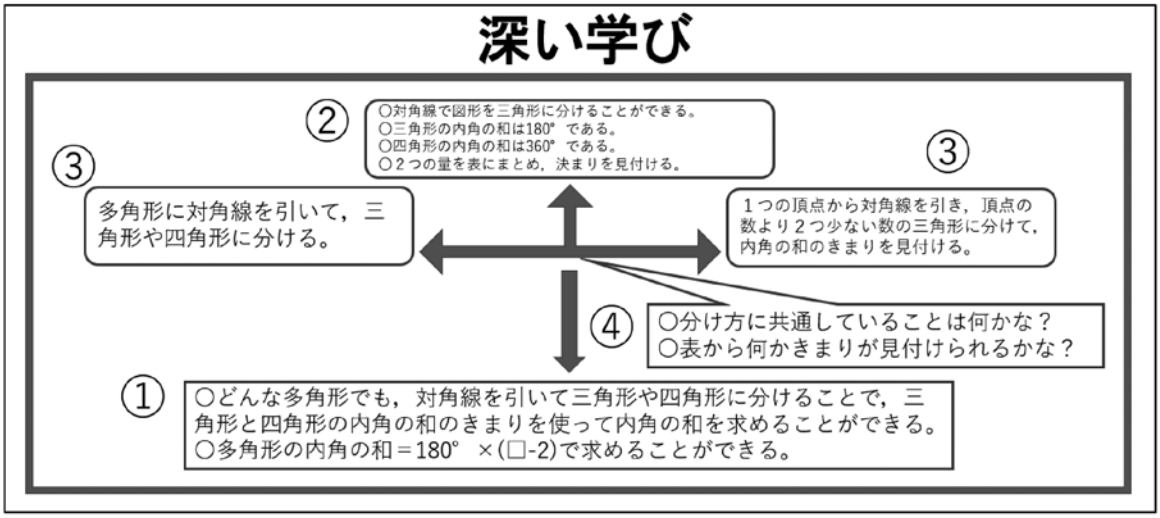
【関連ワード】「このおりは，どうして四角形（三角形）じゃないと言えるの？」

「四角形をかいて，一部を消して動物が外に逃げていくような動作」「囲まれていない」「直線じゃない」「こう（辺が曲がっているジェスチャー）なっている」「角が丸くなっているから三角形ではない」など，生活経験や既習事項に基づき様々な角度から図形を分析していった。児童は，当てはまらない条件を次々に挙げていき，正しい図形を弁別することができた。その後，教師と共に，三角形や，四角形に当てはまる条件を言語化し，定義を理解することができた。その後，定義の適応範囲を拡大・発展させるために三角形を逆さまにして「下にとんがっていても三角形と言えるか」と問うたときに，子どもたちは三角形の条件をより明確にしていくにしていくことができた。

⑵　５年「図形の角」の実践から　（授業者　小針小　教諭　小池　誠一　教諭）〉



①　授業の構想と工夫



②　本時の実際

ⅰ　本時のねらい

様々な多角形の内角の和の求め方について，既習事項を用いたり，解法について比較・検討したりすることを通して，どんな多角形でも対角線を引くことで頂点の数より２つ少ない三角形に分けることができることに気付き，計算で求めることができる。

ⅱ　本時における「関連ワード」について

【関連ワード】「分け方に共通していることは何かな？」

この関連ワードによって，子どもが多角形の内角の和を求めるための様々な方法の共通点を見付け，解法をまとめる姿を目指した。児童は「対角線を引いている」「三角形や四角形を作っている」「三角形や四角形の内角の和を使っている」と気付いていった。その結果，多角形の内角の和は，既習の三角形や四角形の内角の和を用いて求めることを見出すことができた。

【関連ワード】「表から何かきまりが見付けられるかな？」

三角形，四角形，五角形，六角形と書き込んだ表から，三角形の内角の和の増え方の規則性に着目させるために発問した。 児童から，「三角形の数は，○角形の場合，○―２で求められる」という着想が生まれ，「―２」の意味に興味をもち，一般化に向けた話合いが行われた。

４　成果と課題

教師が「関連モデル」「４つのQ」と「関連ワード」を用いることで深い学びに向けた授業を構想することができた。今後は，まず算数部員が「関連モデル」「４つのQ」「関連ワード」を用いて授業構想できるようにしていく。また，関連ワード以外にも，教材や話合いのさせ方などによって考えを関連させる方法について探っていく。

外 国 語

部長　鈴木　陽子（葛塚小学校）

研究主題
指導と評価から迫る「新しい外国語教育」の実現
（４年次）
～自らの学習を調整する力を育てる授業～

１　研究主題設定の理由

教科化された外国語において,「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の３つの資質・能力を育成するためには，どのような場面で，どのように評価を行うのか，そしてその評価を指導改善に生かすにはどうすればよいか，指導と評価の一体化の観点で研修を進めてきた。３年次までで，言語活動の中で繰り返し「軽い評価」と改善を行うことが，教師の指導改善につながることが明確になった。３年次までの成果を基に，４年次は，子どもの学習改善に焦点を当て，自らの学習を調整する力を育てる授業づくりについて研修を進めることとした。

２　研究の概要

⑴　単元の途中で繰り返し行う評価「軽い評価」

単元のゴールの言語活動で必要な英語表現を身に付けさせるために，単元の途中で「軽い評価」を行い，子どもの学習状況を把握して指導に生かす。それを繰り返すことで，子どもが自信をもってコミュニケーションを図る姿につながると考える。「軽い評価」は英語を使って自分の気持ちや考えを伝え合う言語活動の中で行うことが重要である。

教師は子どものつまずきを早期発見するために「こんな英語表現は間違えそう」とあらかじめ予測して評価の視点を絞り,「軽い評価」を行い，子どもの学習状況を把握する。つまずきを予測して短時間で評価し，個別指導や全体指導の充実を図ることが，教師の指導改善につながる。

⑵　「軽い評価」を活かした授業実践

庄瀬小学校 牛腸教諭の実践では，軽い評価で把握した子どもの困り感を次時の冒頭の Small Talk で取り上げて全体指導を行ったことで，単元終末の言語活動に必要な英語表現を身に付けさせることができた。

五十嵐小学校 有坂教諭の実践では，軽い評価で，既習表現と新出表現で混乱していた子どもに寄り添い個別指導を行ったことで，単元のゴールの言語活動で自信をもって取り組む子どもの姿につながった。

南中野山小学校 中矢教諭の実践では，軽い評価をもとに全体指導で視点を子どもと共有した。子どもが視点をもとに自分の紹介文を見直したり，互いにアドバイスし合ったりしながら，よりよい表現に改善することができた。

亀田西小学校 近藤教諭の実践では，相手が読みやすい文を書くための視点を全体指導で共有し，視点をもとに個別指導を行った。視点を意識して手紙を書いたり，視点をもとに相手からもらった手紙を読んだりする子どもの姿が見られた。

子どもたちが「自分のことを伝えたい」「相手の考えを知りたい」という思いをもち，英語を介して自信をもってコミュニケーションを図るために，どこで，どのように「軽い評価」を行うか，どのように指導に生かすかがとても重要である。

子どもと評価の視点を共有し自分の表現を見直したり，子ども同士でアドバイスし合ったりする場面をどう設定するか，教師の指導改善を子どもの学習改善につなげるという観点で，さらに研究を進める必要がある。

⑶　自らの学習を調整する力を育てる授業づくり

子どもの学習改善に焦点を当てて研究を進めるにあたり，主体的に学習に取り組む態度の２つの側面である「粘り強い取組みを行おうとする側面」と「粘り強い取組みを行う中で，自らの学習を調整しようとする側面」の後者に重点を置くこととした。国立教育政策研究所から出されている資料には，自らの学習を調整しようとする側面について，次のように述べられている。

> 「児童生徒が自らの理解の状況を振り返ることができるような発問の工夫をしたり，自らの考えを記述したり話し合ったりする場面，他者との協働を通じて自らの考えを相対化する場面を，単元や題材などの内容のまとまりの中で設けたりする」ことが重要である。
> （「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料　外国語・外国語活動より）

そこで単元のゴールを目指す中で，子どもがそれぞれのゴールの姿を具体的に描き，めあてを達成するために，学習の内容や方法を選択して学習を進めたり，振り返りで自分の学習状況を把握して改善したりできるような手立てを講じることが自己調整力につながると考えた。

３　自らの学習を調整する力を育てる授業を目指した研究の実際

⑴　葛塚小学校　日水　希美　教諭による６年生の実践より

単元名　NHE6 Unit6 Let's think about our food

『満天？葛塚レストラン～わがままなお客さんを納得させよう～』

ア　改善点を明確にするためのモデル動画の活用

教師を「わがままなお客さん」として設定し，要望に合わせた食べ物をグループで紹介する。メニューの紹介動画を作成した後に視点をもたせ，教師が作成したモデル動画を提示し，改善点を児童と検討した。味の感想や食材の説明などの内容を付け足すことに目を向けさせることで，子どもはこれまで取り上げた表現面に加え，内容面の視点で紹介動画を改善する姿が見られた。

イ　子どもが自ら学習状況を把握できる振り返りシートの工夫

動画作成後の振り返りカードに記入する自己評価を「お客さん満足度」と称し，５段階評価を行った。評価の際に「なぜその評価となったのか」と理由を問うことにより，課題解決に向けて，子どもがどのように取り組んだかという自己調整を図る姿を教師が把握する良い指標となった。

ウ　成果と課題

○　発表動画を基に，子どもに客観的に自分の学習状況を把握させたことや自己評価の根拠となる理由を書かせたことは，子ども自身が目標に向かい，英語表現を見直す姿につながった。

△　「誰に向けて」という相手の設定だけでなく，「自分の考えた発表内容で，相手に満足してもらえるのか」といった，相手意識を子どもが持続しながら発表内容や表現の仕方を改善できるような場の設定が必要だった。

⑵　**東山の下小学校　佐々木泰史　教諭による６年生の実践より**

単元名　NHE6 Unit6 Let's think about our food

『YOUは何を食べに日本へ？～おすすめの和食メニューを紹介しよう！～』

ア　児童と一緒に作成したルーブリックでの自己調整

夏休み明けから赴任した新しいALTの依頼を受け，おすすめの和食の魅力を紹介する言語活動を設定した。学級全体のゴールと個人のゴールを設定し，ルーブリックを作成した。ルーブリックは，内容面・言語面の２つに分け，子どもが自分の改善点に合わせて学習を進められるようにした。内容面・言語面から子ども自身が学習状況を評価し，把握できるようにしたことで，どこを改善すればいいのか，視点を基に自分で課題を選択し，紹介する内容や表現を改善する姿が見られた。

イ　個別最適な発表改善の場の設定による自由進度学習

前単元から「外国語レベルアップタイム」と称し，子どもに自分の課題に応じた解決方法を選択させてきた。①きく（手本動画やデジタル教科書の音声，先生への質問）②発表のための個人練習③友達との練習・改善④レベルアップカードの活用の４つである。子どもは自分に合った練習方法を選び，発表内容の改善に取り組んだ。

また，発表動画を撮影する際に自分が改善した点を，見てもらう相手に伝えさせたことで，互いに改善点を共有しアドバイスし合うことができた。

ウ　成果と課題

○　子どもの困り感を想定し，それぞれの課題に応じた解決方法をあらかじめ用意したことで，子どもは自分に合った方法を選択し，解決に向かって自ら取り組む姿が見られた。

△　自分の課題がわからない子どもに，今後，どのように手を差し伸べるべきか，有効な手立てを考えていく必要がある。

道　　徳

部長　本間　智絵（女池小学校）

研究主題
他者とともによりよく生きようとする子ども
～道徳的価値について実感を伴った理解を促す
道徳授業を目指して～

1　研究主題設定の理由

道徳科の中でも大切とされている「実感を伴った理解」。具体的にどのような姿なのか。それは，イメージをもちにくく子どもたちをどのように見取ったらよいかが明確ではない。そこで今年度は，実感を伴って理解した子どもの姿を以下のように設定した。

> これまでの自分の経験と照らし合わせながら，道徳的諸価値の大切さだけでなく，その実現に向けて困難さや課題があることも理解し，これからの生活の中で自分はどのようなことを大切にし，どのように行動していくかについて見通しがもてている。

このような子どもの姿をもとに,「実感を伴った理解」を**「道徳的価値の大切さについて自分との関わりで考え，納得した理解」**と定義した。この定義をもとに，授業の中では具体的にどのような姿として表出するのか，また，表出される場面はどこか，実感を伴った理解を促すためにどのような手立てが有効なのかを検証するために，代表者による研究授業と，マイスターによる提案授業によって研究を進めた。

2　研究の実際

⑴　授業の構想と工夫

＜６年　紫竹山小　山田 潤　教諭＞

【道徳的心情を育む授業】B-⑺親切，思いやり

教材「最後のおくり物」(『きみがいちばんひかるとき６年』光村図書)

教材の内容：俳優を夢見るロベーヌが，誰がくれたか分からないお金を受け取って養成所に通っていた。ロベーヌは，そのお金は守衛のジョルジュじいさんが働いてこっそり届けてくれていたことに気付き，倒れたジョルジュじいさんを看病する。

【主な手立て】

① 「思いやり」についての事前アンケートで学習課題を設定する

本時に入るまでに教材文を読ませた，次のようなアンケートに答えさせた。

> ❶普段から相手を思いやった行動をしていますか。
> ❷「最後のおくり物」の内容と，自分の「思いやり」とを関わらせて考えてみたいことは何ですか。

❶は，自分自身の行動を振り返り，思いやりについて考えさせるための問いである。この問いにより，思いやりについての道徳的価値と実生活を結び付けて考えさせることができる。❷は，自分自身と道徳的価値をつなぐ問いである。これにより，自分の生き方についての考えを深めさせることにつなげることができる。

多くの子どもは，自分が相手に親切にできていることを自覚していた。そこから，思いやりについての問いを個々で立てた。教師は「思いやりって何だろう」という問いが多いことを挙げ，本時の学習課題として設定した。

② ジョルジュじいさんの思いやりの行為が，ロベーヌの立場を考えたものであったこと，さらにロベーヌに希望や勇気を与えたり，ジョルジュじいさんへの思いやりのある行動へつながっていったりしたことを理解させる

学習課題を共有し，教材の内容を確認した。その際，「どういう気持ちで，このような行為を取ったのか。」「このときの（登場人物の）気持ちは分かるか？」などと，発問をした。道徳的な問題を自分との関わりで考えさせるためである。教材の内容を確認した後，「学習課題『思いやりって何だろう』について，話し合ってください」と，３～４人のグループで話し合いをさせた。グループで話し合わせることで，思いやりについての様々な考えに触れさせることができる。授業者が期待した姿は，「思いやりは，相手を変える力がある」という新たな気付きである。あるグループでは次のような考えがあがった。

【学習課題】思いやりって，何だろう
・自分のことよりも相手のことを思って，優しくすること ・相手が嬉しくなることをすること ・相手に恩を返すこと ・中途半端な気持ちではなく，本当に相手を思って行動すること ・相手のこれからを考えること

授業者がねらう姿には至っていない。これは，子どもが道徳的価値の理解を自分との関わりで考えることに弱さがあったと考える。教材の内容を確認する際，「(登場人物の)気持ちは分かるか。なぜ，分かるのか」などと，教材の気付きから更に深く問う必要があった。登場人物の行為の意味を問うことで，子どもは登場人物の行為の裏にある意味を考え，思いやりについてより深く考えていた。

③ 授業前に挙げた自分との関わりで考えた問いに答える形で振り返りをさせる

思いやりは，人が落としたものを拾ったり，手伝ったりするものだと思います。 私は，本当に人を思ってしている思いやりはどんなものか考えていました。心の底から相手のことを思って行動すること，相手が嬉しくなること，相手のこれからを考えていることだと思いました。人のことを思って行動することを意識することを大切にしていきたいです。

この子どもは，「思いやり」について新たに気付いたことを基に，これからのよりよい生き方について考える姿があった。

マイスターによる自作教材を利用した授業提案

＜６年　五十嵐小　渡邉　泰治　教諭＞

【道徳的実践意欲と態度を育む授業】D（20）自然愛護

教材

「ロータス効果を活かした防水スプレー（FK超撥水スプレー）」（ティッシュ実験セット）

「すごい自然のショールームHP」(2007年GOOD DESIN賞・ネイチャーテック研究会作成)
「ネイチャーテック研究会・石田秀輝東北大学名誉教授からのメッセージ動画」

【主な手立て】

授業開始前までのアンケートで，子どもは「自然はすごい，素晴らしい」と思っている。

① 道徳的価値のよさを実感させるノンフィクション教材，楽しい実験とＨＰ，動画

蓮の葉の写真や動画，蓮の葉が水を弾くロータス効果を活かした実験を行った。超撥水スプレーを使った実験である。普通は濡れるとすぐに破けるティッシュペーパーが水をためる場面（ロータス効果）を目の当たりにし，驚き疑問をもった。

このような子どもに，「すごい自然のショールームHP」を紹介し，調べてみるよう促した。このHPには，生活に活かされたり，活かすために研究されたりしているすごい自然が数多く紹介されている。子どもは，思い思いに興味のある自然を調べた。

② より多くの事例を紹介して価値を一般化し，日常につなぐ

自由な調べ学習は，子どもにとって楽しいものであるが，個人差も出やすい。そこで，全ての子どもが確実に多くのすごい自然に触れられるように，授業者が準備したHP内のすごい生物を紹介した。これにより，子どもの学ぶ意欲は高まり，自然をより身近に感じることができていた。

③ 魅力的な人物との出会いを通して，目標や喜び，夢をもたせる

ホームページや本を監修している東北大学名誉教授の石田秀輝さんから子どもたちに向けてのメッセージ動画を用意しておく。自然に関心を寄せ，調べている子どもたちにとって画面の向こうから直接子どもたちに呼び掛けるメッセージは大きなサプライズである。どの子どもにも分かりやすいように，キーワードを太字にするなどの配慮をした。

子どもは，自然の素晴らしさを感じ，更に自然についての知識も広がることで，これからの自然との関わり方を考えていた。

⑵ 成果と課題

２名の実践から，研究主題にかかわって次のような知見を得ることができた。

① 自分との関わりで考えているかどうか

「気持ちは分かるか。なぜ，分かるのか」と，教材の気付きから，さらに深く問うことで，子どもは登場人物に自分自身を重ね合わせて考え始める。また，実際の体験を通して学ぶことで道徳的価値の理解は深まることがある。

② 課題とまとめについて

道徳的価値を問う学習課題の場合，授業で出た複数の考えをまとめと位置付け，納得解を個のまとめ（振り返り）とする。この場合，道徳的価値の理解の深まりが見取れるよう，授業の前後で考えを記述させておくとよい。

生　　活

部長　青池　智美（小針小学校）

研究主題

学びをつなぐ子どもの育成
～「子どもは有能な学び手である」という
子ども観から始まる生活科授業～

1　研究主題設定の理由

子どもは，「こうしたい」「もっとこうしたい」という思いや願いをもっている。その思いや願いを実現しようとするとき，「前に，～した。こうやるとうまくできるよ」などと，活動する。つまり，既有の知識や技能，経験を基にして活動したり考えたりするのである。そして，友達と関わりながらよりよい活動や考えを生み出していく。生活科は「子どもは有能な学び手である」という子ども観に支えられている。この子ども観は，生活科創成期から現在までずっと大切にされてきた。この子ども観を大切にしつつ，前述のような子どもの姿を具現するためには，どのような単元構成や働き掛けが有効なのかを検証するため，２つの授業研究を基に研究を進めることとした。

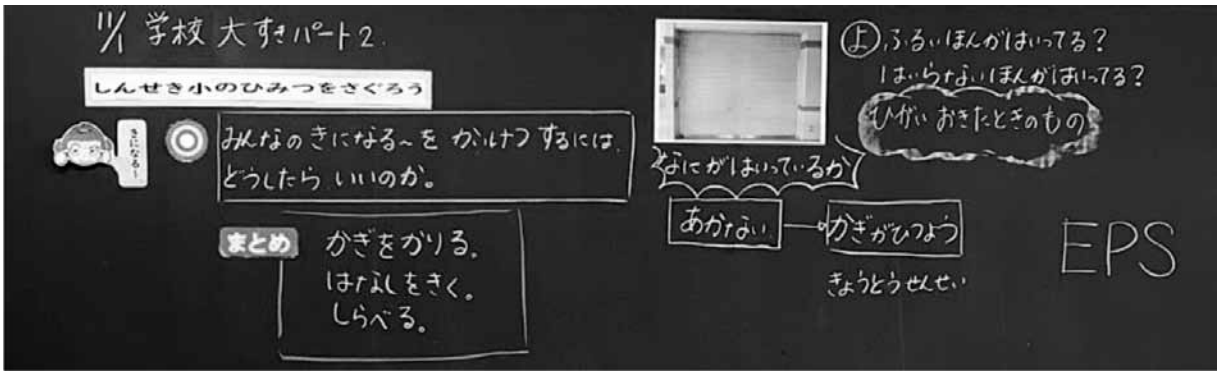
昨年度からの市小研生活科部会の研究主題を，「学びをつなぐ子どもの育成」とした。「学びをつなぐ」子どもの姿とは，次の通りである。

> 既有の知識や技能，経験を基にして活動したり考えたりして，よりよい活動や考えを生み出しながら，思いや願いを実現していこうとする子ども

教師が，「子どもは有能な学び手である」という子ども観に基づき，指導性を発揮することによって，「学びをつなぐ」子どもの姿を引き出すことができると考える。

2　研究の実際

〈１年「がっこうだいすきパート②」　新関小　目黒久美子　教諭〉



手立ての有効性や「学びをつなぐ子ども」の具体的な姿について

〈本時のねらい〉

見つけた「はてな（？）」について，解決に向けて話し合ったり探検したりする活動を通して，先生に聞いたり実際に見せてもらったりすることで分かることに気付き，次の探検への思いを高めることができる。

主な手立てが，本時のねらいを達成することにつながったのか分析をした。

「手立て②新たな疑問を生むための問い返しと解決できたことを称賛する言葉掛け」

手立て②は，目黒教諭の指導性をさらに発揮することによって，子どもの主体性を引き出

すことができると考えた。具体的な場面から理由を述べる。

単元を通して，新関小の秘密を探ってきた子どもたち。多くの子どもは，図書室の付近にあるシャッターの中が気になっていた。そこには，災害時に使用する物品が入っている。本時の導入では，その写真を提示した。その後のやり取りである。

C：図書館にはつながっていなかった。 C：古い本が入っているのかな。 C：図書館に入りきらない本が入っている。 T：どうしたら中に入っているものが分かるかな。 C：開けてもらおう。 C：図書館の先生に聞いてみるといい。

子どもは，図書館に近い場所にあることから図書館に関係する物が中に入っているのではないかと予想している。また，防火責任者の札に司書の先生の名前があることに気付いていた子どもは，「図書館の先生に聞いてみるといい」と考えている。子どもは，「関係する物は近くに存在すること」「学校の物は，担当の先生が管理していること」に無自覚ながら気付いている。

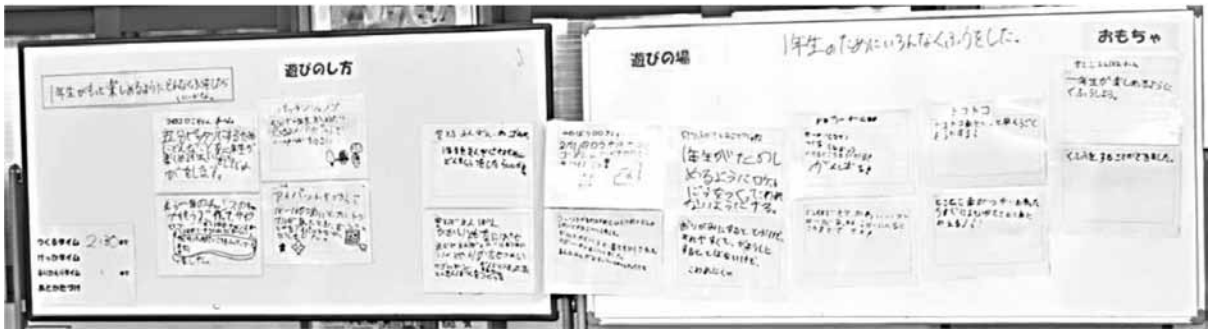
ここで教師の指導性を発揮する必要がある。例えば，「図書館の先生に聞いてみるといい」と考えた子どもに，「どうしてそう思ったの」と問い返す。すると，だって，図書館の近くにシャッターがあるからと答えるに違いない。この姿を見取り，「図書館の近くだから●●先生が知っていると思うなんて，すごいね」などと，称賛するとよい。

既有の知識や経験（教室の物は担任の目黒先生が管理している。必要な物が欲しい時は目黒先生に聞いてみるといい）と目の前の対象（シャッターの中にある物）をつなぎ，予想する（図書館に近いからきっと図書館に関係する物がある）子どもは素晴らしい姿である。他の場面でも，より多くの子どもがこのような予想ができるようにするためにも意図的に称賛したい場面であった。

「手立て③解決することができたことを実感させるための大校舎図の活用」

手立て③は有効であったと判断する。本時で取り上げたシャッターの場所に「はてな（？）」が貼ってあった。子どもたちは，本時の学びにおいてシャッターの中には何があるのかを予想し，どうやったら中を見ることができるかを考えた。そして，教頭先生にお願いして，中を見せてもらうことによって防災備蓄倉庫であることが分かった。本時の終末では，授業者が解決したことが分かるようにシールを貼った。子どもたちは，自然と大校舎図の前に集まった。それは，授業者が意図する「どんどん新関小学校に詳しくなりたいという次の活動への意欲を高めた姿」に他ならない。ある児童は，「理科室にあるガスの元栓は，何のためにあるのかを調べたい」と，次の時間に調べたいことを決めることができた。

〈２年　「うごくうごくわたしのおもちゃ」　下山小　熊谷　遥子　教諭〉



手立ての有効性や「学びをつなぐ子ども」の具体的な姿について

〈本時のねらい〉

１年生に楽しんでもらう遊び場をつくることについて，前時の振り返りを基におもちゃのつくりや遊びの場，ルールを試しながらつくり変えることを通して，より１年生に喜んでもらう工夫をすることができる。

主な手立てが，本時のねらいを達成することにつながったのか分析をした。

「手立て①前回の遊びの会の２年生の満足度や前時の活動の様子の動画から困り感のあるものを提示する」

本時における一人一人の学びに寄り添った手立てにするためにはもう一工夫必要であった。本時では，１回目の交流場面の動画を３本提示した。それらの動画は，１年生がおもちゃでどのように遊べばよいのか迷っているように見えるものであった。そのため，抽出児童は，本時において看板を作っていた。同じグループの男子児童はおもちゃ自体の改良をしていた。授業後に聞いてみると，抽出児童は動画で困っている１年生の姿を見て，看板の必要性を感じたということだった。一方，男子児童は１回目の交流時に１年生からおもちゃの強度についての指摘を受けていた。そのため，本時ではおもちゃ自体の改良をしたということだった。動画の事実を基に本時の工夫をしていた子どもと前回の交流時の気付きを基に本時の工夫をしていた子どもがいることが分かった。

本時のねらいは,「より一年生に喜んでもらう工夫をすること」である。このねらいを達成するためには，次のような場面を設定することも考えられる。

代案１：各グループに，１回目の交流場面の動画を見せる場の設定

代案２：各グループに，１回目の交流場面における１年生の感想を読む場の設定

代案３：１回目の交流を振り返り，何を改善していくとよいのか話し合う場の設定

１回目の交流を基に，どのグループも考えられる場の設定が導入時であることによって，ねらいを達成しやすくなるのではないかと考えた。

グループの工夫を考えた後に，次のような子どもの姿が見られた。空飛ぶ円盤Aグループは，手立て①によって，１年生への関わり方を改善する必要性を感じていた。そこで，ルールを丁寧に教える人と計測する人を決め，役割を明確にし，より１年生と関わろうと考えたようだ。この一連のやり取りは，子どもだけで行われた。「より一年生に喜んでもらう工夫」をするという目的に向かって，友達の気付きをつなぎながら活動している姿である。２回の交流を設定することにより，目的意識と相手意識が高まっていることを感じる場面であった。このような姿が引き出されたのは，熊谷教諭の単元デザインが優れているからにほかならない。

⑵　成果（○）と課題（●）

目黒教諭と熊谷教諭の実践から，研究主題に関わって,「学びをつなぐ」子どもの姿が見えてきた。

○　既有の知識や技能，経験を基にして活動したり考えたりする姿を見取ることができた。「対象とつなぐ」「自分の中でつなぐ」「友達の気付きとつながる」姿を本時や単元で見取ることができた。

●　教師の手立ては，子どもの思いや願いを引き出したり，子どもの活動や思考を支えたりするものである。子どもが何を考えて，どのように進んでいきたいと考えているのかをより丁寧に見取り，手立てを講じていく必要がある。

音　　楽

部長　山田やしほ（亀田小学校）

研究主題

学びをデザイン！
「子どもと」創る「子どもが」創る　音楽授業
（２年次）

１　研究主題設定の意図

「子どもと」創るとは，１時間の授業の学習課題を子どもと教師が一緒に話し合ってつくり授業を進めていく，ということである。その際，「前題材までの学び」「前時の振り返りの内容」など，**子どもが自分自身を評価したもの（＝振り返り）が**手掛かりとなる。教師からの「こんな力をつけてほしい」（＝評価規準）というねらいを示すこともある。このように，子どもと教師が一緒に考えた学習課題に向かって，必要な活動を考えたり，その進捗状況を自分で評価（振り返り）したりしながら，子どもは自己調整して学習に取り組んでいく。

「子どもが」創るとは，演奏した動画や音楽づくりで試行錯誤した学習シートなど「自分の頑張りを可視化したもの」や「１時間の学習で獲得した学び」を，自分自身でまとめていくということである。自分の学びの軌跡を自分でつくることで，「今の自分」の様子が分かり，「これからの自分」を考える手立てとなる。過去を振り返ったり，未来を想像したりしながら，より主体的に学習に取り組む姿が期待できる。

このように，**「子どもと」創る「子どもが」創る**音楽授業が展開されるよう，題材構成を**デザイン**することで，子どもが自ら考え，動き出す主体的な学びの姿が表れると考え，次の３つの視点に沿って研究を進めることとした。

視点１　子どもが学びの軌跡を蓄積するための**「学びの宝箱」**

視点２　**「５つの手立て」**とＩＣＴを組み合わせた授業づくり

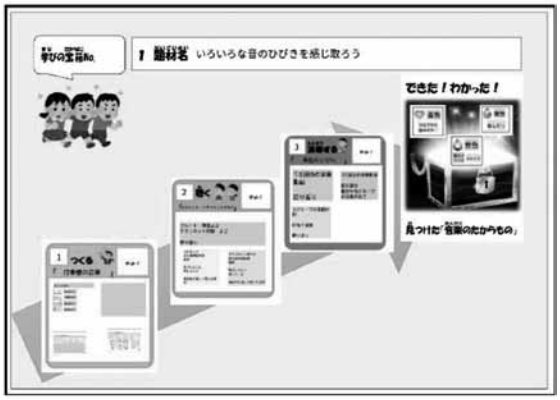
視点３　教材曲のつながりを意識した題材構成を可視化するための**「学びの地図」**

視点１の**「学びの宝箱」**とは，題材全体を１枚のテキストに表したデジタル版ポートフォリオである。授業支援アプリケーションを使って，子どもが１時間１時間の気付きや学びを自分で蓄積していく。

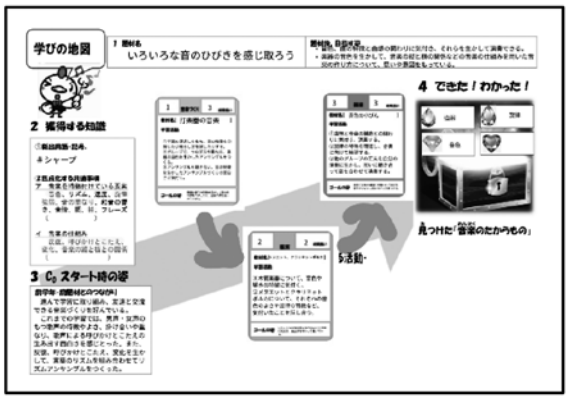
視点２の**「５つの手立て」**とは，市小研音楽部でこれまでに研究してきた「モデル提示・〔共通事項〕の焦点化・音や音楽の可視化・比較・関連付け」のことである。これらを意識した授業を展開し，子どもが考え意図や願いをもち，表現できるようにする。

視点３の**「学びの地図」**とは，授業支援アプリケーションのテキストを使って，題材計画を一目で分かるように可視化したものである。子どもの学びを充実させるためにどのような題材構成にするか，また，子どものゴールの姿はどのような資質・能力を獲得した姿なのか，など考えて，題材が始まる前に教師が作成する。

◎ 学びの宝箱（子どもが使う）



◎ 学びの地図（教師が使う）

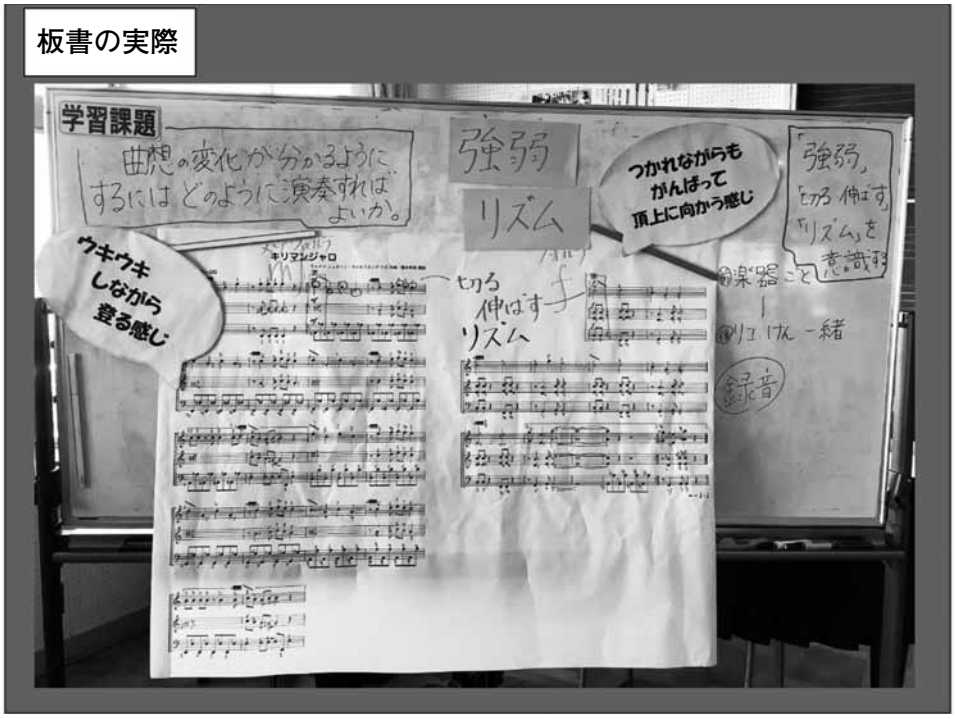


（参照）

新潟県新潟市「先生のみ」→12市小研→市小研音楽部→Ｒ５→学びの宝箱・学びの地図

２　研究の実際

＜実践：５年「曲想の変化を感じ取ろう」（器楽）　　桜が丘小　髙見　夏希　教諭＞



本題材は，全７時間の題材計画である。まず「夢の世界を」（歌唱）では，聴き取り感じ取った曲想の変化を，〔強弱，音の重なり〕に着目させて工夫し合唱をする学習を２時間行う。次に「キリマンジャロ」（器楽）では，「夢の世界を」の合唱で得た学びを生かして合奏をする学習を５時間行う。本時は，「キリマンジャロ」のパート演奏の大体ができるようになっており，さらに曲想の変化を意識した演奏の仕方を工夫する時間である。

⑴　「振り返り」から始めることで学びをつなぐ

本時の導入場面では，「前時に演奏し録音した演奏」を聴き，「楽譜通りに演奏できた」と演奏技能に意識が向いている子どもの振り返りを紹介することからスタートした。①前時での学びを振り返ってできたことを子どもと確認する　②「キリマンジャロ」の１時間目で確認した$\boxed{ア}$と$\boxed{イ}$それぞれの曲想の違いを想起させる　③曲想を表現するために「どのように演奏するか」と本時の学習課題を引き出す。このような流れにしたことで，楽譜通りに演奏することに意識が向いている子どもに「表現の工夫」という新たな学習へとつなげることができた。

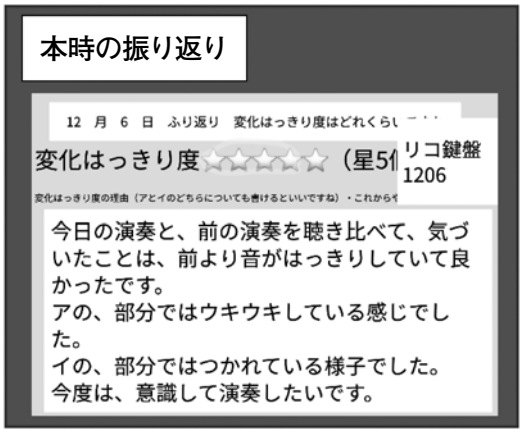
⑵ **「比較」しながら，試す⇔聴く⇔考える**

本時の展開場面では，ア と イ の変化が出るように演奏の仕方を工夫した。そのときに，リコーダー班と鍵盤ハーモニカ班では，ア では歯切れよく吹き イ では息を入れてしっかりのばすこと，また，キーボード班とバスマスター班は，リズムの違いをしっかり出そうと演奏の見通しをもって活動を始めた。そのときに「試して演奏してみる」➡「自分たちの演奏を録音し，**ア と イ を比較聴取する**」➡「ア と イ の違いを確認して，さらに演奏の仕方を考える」というように，**ア と イ を比較しながら**考えるという手立てを講じた。

同じ楽器同士で，合わせて演奏したり録音したりする姿が多く見られた。録音した演奏を ア と イ を比較しながら聴いていたのか，子ども同士の発言からは確認することはできなかった。しかし，じっと耳を傾け聴く姿や，再度試す様子から ア と イ の変化が出るよう表現を工夫する姿を見取ることができた。

⑶ **前時で録音した演奏との聴き比べから振り返り，学びを実感させる**

本時の振り返り場面では，ア と イ に変化を出すためにどのような演奏方法の工夫をしたかについて振り返りタイムを行った。そのときに，前時で録音した演奏と本時で実際に演奏したものを聴き比べながら振り返りをし，本時の学びを実感させた。



子どもの振り返りからは，「前時よりも…」と違いに気付き，できたことを実感している記述が３割あった。「どんな工夫をしたか」について記述した振り返りも多く見られた。しかし，曲想と関連付けた記述は少なかった。子どもの発言を生かしながら，曲想と関連付けた記述例を示す等して，次時へとつながるような記述も加えられるようにするとよかった。

３　成果と課題

○　今回の実践では，「学びの宝箱」に保存した振り返りを生かして学習が進められ，振り返りの大切さを感じることができた。さらに，子どもの言葉を拾い，つなげることで，子どもの「やってみたい」という思い，「もっとこんな工夫ができそうだな」という主体的な姿がさらに増えていく。

○　本実践の展開場面：「比較しながら」聴いて考えさせたことは，子どもの追究活動を支える手立てとして有効であった。さらに，曲のどの部分に注目して聴くのか，焦点化させることで，子どもにとって聴くポイントが絞られ工夫することが明確になる。

○　本題材で使用した「学びの地図」には，振り返りの項目が書かれた振り返りテキスト，比較聴取できる音源，合奏で使う階名が書かれた楽譜を貼り付けた。授業者にとっては，前もって授業の流れを把握でき，題材のゴールイメージをしっかりともつことができた。また，「学びの宝箱」は，子ども自身が自分の学びを実感し，次の学びへと生かすための道具として有効であると感じることができた。これら「学びの地図」「学びの宝箱」をさらに誰でも使いやすいものとなるよう試行錯誤していきたい。

△　感じ取った曲想をどのように演奏に表現していこうかという思いを子どもにもたせるには，その時間だけ想起するのではなく，題材の最初から最後まで常に意識させることが大切である。常に意識付けさせることで，子どもは学びの方向性が見え，自ら動き出そうとする。

生徒指導

部長　佐久間　甲（日和山小学校）

研究主題

心を育てる

～かかわり合い，共に育つ集団を目指して～

１　研究主題設定の理由

近年，社会の急激な変化や核家族化・少子化の影響から児童は社会性を身に付けるには十分な状況にあるとはいえない。また，生徒指導上の諸問題も多岐にわたっており，これらの困難課題対応的生徒指導ケース減少のためには，ケースへの対応も進めつつ，これを生まない発達支持的生徒指導を積極的に行い，「これからの社会で自信をもって自己実現していける子どもを育成すること」が大切である。

新潟市は「発達支持的」・「課題予防的」な生徒指導の一つとして，支持的風土の醸成を進めている。支持的風土については支持的風土便り『テロワール』の中で，「認め合い，助け合い，期待をかけ合い，高め合う，温かい学級風土」と定義している。子どもたちにとってこの支持的風土は，安心して，楽しく，伸び伸びと学校生活を送るためになくてはならないものであり，望ましい人間性は，支持的風土の中で培われていくと述べられている。

この支持的風土を醸成していくためには「傾聴・受容」「支援」「自律」が大切である。また，この３つは並列のものではなく，「傾聴・受容」を入り口として「支援」⇒「自律」と養われる関係性にある。生徒指導部ではこの３つの中でも，支持的風土を醸成していく入り口となる「傾聴・受容」に注目して研究を進めていくことにした。

学級の支持的風土を醸成するための手立てについては，有効であろうというものがいくつも列挙される。部員の先生方へのアンケートでも１００近くに及んだ。しかし，その方法は，多くあるが故に，何から始めるとよいか。今すべきことは何か。継続して行う手立てや特定の時期に行う手立ては何かなど，支持的風土が醸成されていくことについて明らかにされていない。

そこで，生徒指導部では「①全部員による，支持的風土の醸成に有効でありそうな手立ての実践②部員の実践と見取り・児童アンケートの分析から，支持的風土が醸成される過程を検証する」ことにした。本研究が新潟市の先生方により，学級の支持的風土を醸成していく一助になると考える。

２　研究の実際

⑴　これまでの研修について

研究授業を通して，教科の授業としての視点だけではなく，支持的風土を醸成するための授業者の行動や言動や，支持的風土を土台として子ども同士の良好な交流の様子に着目して授業を参観し協議会を行った。新潟小学校 佐久間由希 教諭の実践では，友達の話に反応しながら聞く子どもたちの姿があることで，話し手が相手意識をもって伝えようとする姿が散見された。このことから，日常の授業が支持的風土を醸成する中核の時間であることを確認することができた。

また，五十嵐小学校 我妻善和 教諭の実践では，困っている友達にどんな声がけをするとよいかを考える授業を行った。困っている友達への声掛けの具体的な場面を取り出して授業で扱うことで，優しい声掛けをするとお互いが気持よく生活できることを，実感を伴って理解することができた。友達との関係を良好なものにするためのスキルについて，実感を伴った理解をすることの重要性が見いだされた。

① 令和３年度研究授業

２年 ＜かけ算の意味や仕方を考えよう＞（算数）

日和山小学校 教諭 佐久間 甲

指導者 新潟県政記念館 館長 関根 廣志 様

２年 ＜ありがとうと思える心＞（道徳）

曽野木小学校 教諭 岡村 江里子

指導者 新潟市教育相談センター 指導主事 遠藤 美紀 様

② 令和４年度研究授業

４年 ＜相手の気持ちを考えた，声掛けとは？＞（特別活動）

五十嵐小学校 教諭 我妻 善和

指導者 東新潟中学校 教頭 長谷川 聡実 様

６年 ＜バトンプロジェクト ～笑顔あふれる新潟小学校～＞（特別活動）

新潟小学校 教諭 佐久間 由希

指導者 新潟県政記念館 館長 関根 廣志 様

⑵ 今年度の研修について

① 令和３年度研究授業

演題 「生徒指導と学習指導をつなげる３つの宝箱」

講師 北海道中富良野町立中富良野小学校 教諭 渡邊 雄大 様

生徒指導の目的はクラスが落ち着く，学校を安定させることではなく，一人一人の成長のために行われるものである。授業は学校生活の大半を占める教育活動であることから，基本的な学習指導が大切である。渡邊雄大様が心がけていることについて，資料から一部抜粋する。

○ １学期に行う共通の７つの学習指導

① 話を聞く

② 基本の姿勢を教える。

③ 手を止める。動きを止める。

④ 指示に対して正確に動く

⑤ 聞こえる声で話をさせる。

⑥ 静寂の時間を作る。

⑦ できるところまで自分でやる。

② 講　　演

演題 「新潟市の支持的風土の考え方と生徒指導部の研究について」

新潟市教育委員会　学校支援課　教育課程班　指導主事　齋藤　まゆみ　様

生徒指導と授業の一体化を促すポイントについて新潟市教育委員会の齋藤まゆみ様にご講演いただいた。支持的風土とは何か。支持的風土が醸成されていることで，子どもたちは居心地のよさを感じていること。居心地のよい学級では学びの質が高まっていることをお話しいただいた。

また，生徒指導部の研究についてもご指導いただくことができた。ご指導の中で，生徒指導部の研究が新潟市の考え方と合致していることや，価値のあるものだと労いと励ましをいただいた。

⑶ **令和６年度研究発表の進捗状況について**

① アンケート調査について

１年間を各期に分けて複数回アンケートを実施している。アンケートの種類を以下に示す。

○授業中における「傾聴・受容」に着目した児童アンケート

○各期に部員が担当する学級児童の授業中の支持的風土の見取りアンケート

○各期に部員が行った手立てを「授業中」「授業外」に分けたアンケート

② 分析について

各アンケートを集計・分析している。今後のアンケート結果と分析から見いだされる結果を考察していくことで，学級の支持的風土を醸成していくためには，何から始めるとよいか。今すべきことは何か。継続して行う手立てや，特定の時期に行う手立ては何か等について探っていく。

３　終わりに

生徒指導部では，前回の発表で「授業者が児童と児童をつなぐ」という手立てが支持的風土を醸成していくことに有効であると提案した。今回の発表では研究を進め，学級を支配する雰囲気，空気という，数値化し辛いものを測定し，検証することを通して，子どもの意欲や学び，居心地の良さを向上させるための手立てを明らかにしようとしている。そのために，今年度は全部員が来年度の研究発表に向けて自身の実践を振り返り，量的なデータから支持的風土を醸成する手立てを明らかにしようと取り組んでいる。支持的風土が学級に醸成されていることは，子どもが自分の力をよりよく伸ばすための土台となる。その土台となる支持的風土をどのように醸成していくとよいかについて，生徒指導部は一丸となって研究を進めている。

本研究は新潟市の先生方が，学級の支持的風土を醸成していく一助になると考える。

国　　語

部長　平野　俊郎（浜浦小学校）

研究主題
言葉による見方・考え方を働かせ，
確かな資質・能力を身に付ける子ども
～「深い学び」に着目した授業改善を通して～

1　研究主題設定の理由

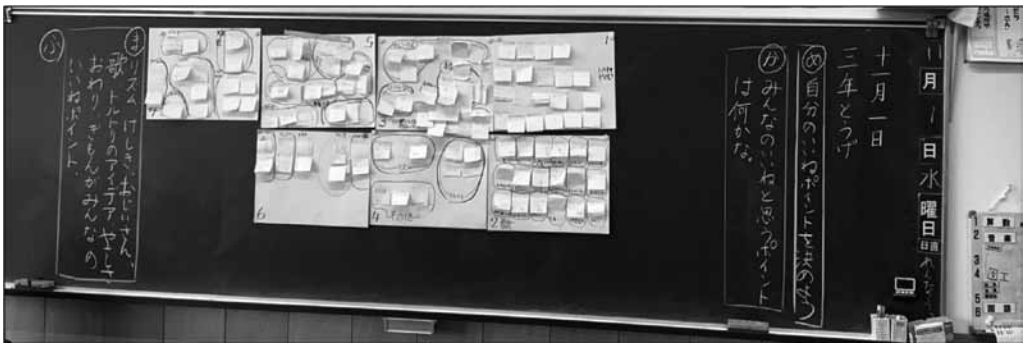
昨年度まで「主体的に学ぶ子どもの育成」を掲げ，「言葉に着目し，言葉にこだわりながら思考する姿」を引き出していくことを大切にしてきた。その結果，言葉にこだわりながら思考することを通して対話の場が設けられ，「対話的な学び」の機会も生まれてきた。

これらの成果を踏まえ，今年度は「深い学び」を研究のキーワードに設定した。先行研究から，「深い学び」の視点を意識して授業改善をしていくことが，児童のより確かな資質・能力を育成することにつながると考えたからである。そのため，国語の授業における「深い学び」をしている具体的な児童の姿を想定し，「知識や情報をつなげて考えること（関連付ける，比較する，順序付ける等）」を手立てとして研究を行うこととした。なお，国語部が提案する「深い学び」をした児童の姿を，以下のものとした。

知識や情報をつなげて考えながら，問題を解決することを通して，自分の変容を実感する姿。

2　研究の実際

〈3年「組み立てをとらえて，民話をしょうかいしよう」　新通つばさ小　村上　清華　教諭〉



(1)　授業の構想と工夫

①　本時のねらい

「三年とうげ」のおもしろさについて，友だちのおもしろいと思ったところを聞いたり，分類したりすることを通して，自分のおもしろさをはっきりとさせることができる。

②　本時における「深い学び」をした姿

自分の「いいねポイント」と友だちの「いいねポイント」を比較したり分類したりしながら，「三年とうげ」のおもしろさについて考える姿。

③　本時における主な手立てと実際

いいねポイントをふせんに書き，班で分類したり全体で共有したりする。

前時までに，自分の「いいねポイント」をふせんに書き，その根拠となる教科書の本文に線を引いて近くにふせんを貼った。それにより「いいねポイント」を発表・分類する際に，自然と教科書を開いて根拠と理由を伝え合う姿を期待した。

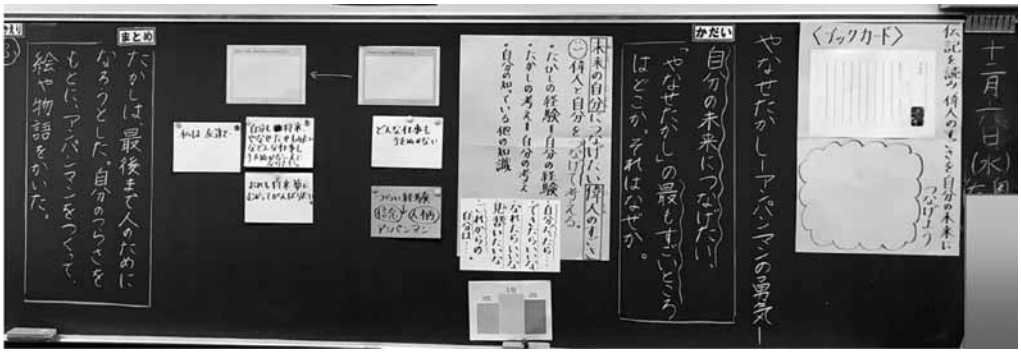
班で「いいねポイント」を紹介し合う場面では，自分の考えを詳しく説明したり，友だちの考えに質問をしながら聞き取ったりする様子が見られた。また，分類する場面では，お互いの考えを確認し合いながらふせんを動かしたり，ラベリングすることができた。

⑵　成果と課題

本授業において「いいねポイント」という共通となる視点を提示することにより，児童が叙述に書かれていることに着目する姿が見られた。また,「紹介カードに『いいねポイント』を書く」という言語活動があったことで，考えを交流する場面では，友達の考えに興味をもって聞いたり，自分にない考えを知って視点を広げたりする姿が見られた。

一方で，児童の「1つに絞る」という課題への意識が弱く，分類する必然性が薄かった。目的意識をしっかりともたせることや，分類の仕方・よさを伝えることで，さらに児童から言葉と言葉，言葉と自分の経験をつなげる「深い学び」をする姿が見られただろう。

〈５年「伝記を読み，偉人のすごさを自分の未来につなげよう」　荻川小　今井 千佳　教諭〉



⑴　授業の構想と工夫

①　本時のねらい

やなせたかしの「最もすごいと思うところはどこか」を考えることについて，根拠となる叙述から，その理由を自分自身の生き方や考え方とつなげながら考え，語り合うことを通して，自分の考えをまとめることができる。

②　本時における「深い学び」をした姿

「最もすごいと思ったところ」を友達と対話していく中で，たかしが生き方で大切にしたことに気付き，今の自分とこれからの自分を偉人とつなげて考え，書いてまとめる姿。

③　本時における主な手立てと実際

考えを語り合うことで，自分の考えの深まりを実感させる。

「未来の自分につなげたい」という視点で「たかしの最もすごいところ」について，自分の考えをもった後に，班で語り合う活動を行う。選んだ理由と自分とをつなげて書きまとめていけるように,「どうしてそう思ったのか」「くわしく教えて」といった「考えをつなぐ言葉」を用いながら対話することを手立てとした。

「たかしのように，亡くなる直前まで好きなことをしたい」と考えたA児は，班で語り合う中で「どうして93歳まで作品を作り続けたのか」という疑問をもった。そして,「たかしが最後までしていたのは，人のためになることだ」ということに気付いた。その結果,「自分も最後まで人のためになることをしたい」と考えを付け足していた。

⑵　成果と課題

全体で読み取る段階で，たかしの功績をXチャートで整理していたことで，児童は「最もすごいところ」と未来の自分とをつなげて考えをもつことができていた。一方，自分の考えと理由が明確になってから語り合いの場を設定したことで，対話を通して考えを深める必然性が薄れてしまった。同じ叙述を選択した児童同士がペアになり，その理由を伝え合う場を設定することで，語り合いに目的意識をもたせることができたと考える。

社　　会

部長　廣川　一輝（豊栄南小学校）

研究主題

問題解決力を高める授業づくり
～「つながり」を根拠に見通しをもたせる
３ステップを通して～

１　研究主題設定の理由

令和元年度までの市小研社会部において，「学習課題の設定」と「追究場面の手立て」について成果を得ることができた。しかし，一方で見通しをもたせる働きかけが不十分であったため追究意欲が高まらなかったことや，追究場面において教師の提示した資料が児童の思考の根拠として不十分だったことが課題としてあげられた。

これを受け，これまで「見通しをもたせる働き掛け」に焦点を当てて研究を進め，「つながり」を意識して授業構想を練ることで子どもたちに根拠をもって予想をもたせることができた。その上で，それを学級で見通しとして練り上げることが必要であることが見えてきた。これらの「つながり」を根拠にした見通しをもたせる働きかけの研究をより確かなものにするために，見通しをもたせる場面を以下の３つのステップに分け，実践を通して検証していくこととした。

ステップ１ 予想する	学習課題に対する自分の予想をもつ。 ※生活経験や既習事項を根拠とした予想を立てさせるようにする
ステップ２ 共有や分類，整理	全体で予想したことを共有する中で，整理や分類をし，学級全体で予想の妥当性について検討する
ステップ３ 内容・方法の選択・判断	共有や分類，整理した予想をもとに必要な資料やその調べ方を各自に選択・判断させる。（教科書・資料集・タブレット・地域の人々や専門家へのインタビュー・現地調査など）

これらの「つながり」を教師が整理し，児童の思考に沿って意図的に授業をデザインすることで，それらが見通しをもつ際の根拠となり，問題解決力を高める授業を行うことができると仮定し，実践を通して検証していくこととした。

２　研究の実際

＜４年「地域で受け継がれてきたもの～新潟市南区の白根大凧合戦～」

上山小　伊藤　美澄　教諭＞

⑴　本時の見通しをもたせる３ステップの構想

前時までに子どもたちは，白根大凧合戦の素晴らしさを学習してきた。しかし，本時は，白根大凧協会事務局長へのインタビューから，白根の大凧合戦を継続するには大変なことが多くあることを知り，それでも続けようと思うのはどうしてかを学習課題として設定している。この課題を解決する見通しとして以下の３ステップを構想した。

①　ステップ１

子どもたちの見通しを以下のように想定し，前時までの学びをデザインした。

・新潟県指定無形文化財に選ばれるくらい大切→伝統を守っていきたいのだと思う。
・みんなで凧合戦するのが楽しい→続けていきたいのだと思う。
・凧合戦に参加したいと思っている人がたくさんいる→続けていきたいのだと思う。
・300年も続いてきた伝統あるもの→ここで終わらせたくないという気持ちがあるのだと思う。

②　ステップ2

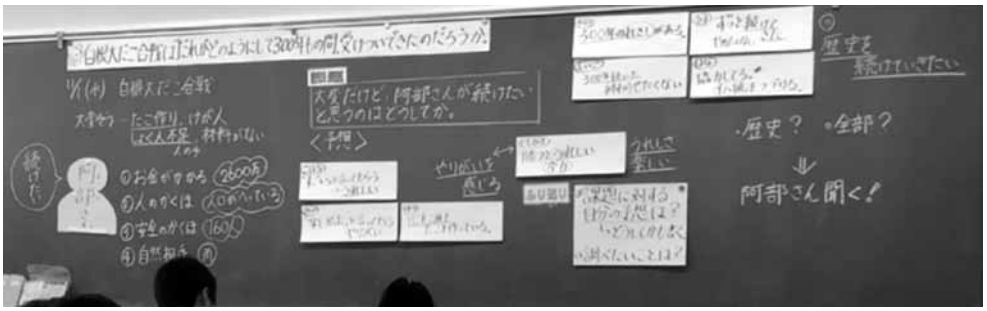
子どもたちが予想したことを，次のように共有，分類，整理する。

・子どもたちの意見を「楽しさ・魅力を伝える」と「伝統を守る」に分けて板書する。

③　ステップ３

子どもたちは次のように追究の内容と方法を選択すると考えられる。

・実際に白根大凧合戦に関わっている白根大凧協会事務局長の阿部さんの話を聞く。



⑵　**成果（○）と課題（●）**

①　ステップ１に関して

○「白根大凧合戦のよさ・すごさ」や本時までの学習の成果物がたくさんあり，既習に基づいて予想することができていた。

●子どもに予想を書かせる時に，根拠を明確にした書かせ方をするとよかった。

②　ステップ２に関して

○子どもたちの考えを紙に書き，黒板上で移動できるようにしたことで，子どもたちの言葉を基に分類することができていた。また，グループ分けしたものをカテゴライズしたことで，阿部さんの話の何を大事に聞けばいいのかの見通しをもてていた。

●もっと子ども主体で分類をしてもよかった。グループや班で分類させるのも一つの手ではないかと考えられる。

③　ステップ3に関して

○本時までに阿部さんに話を聞いたり，インタビュー動画を見たりして，学びを深めることができたため，「阿部さんの話を聞く」という選択ができた。

●分類したことをもとに，阿部さんにどんなことを聞きたいのか子どもの言葉で「内容」を考えることができるとよかった。

この他に，結小学校の渡辺良輔 教諭，鎧郷小学校の眞島拓也 教諭にも実践をしていただいた。３つの実践を通して，授業者が本時の目標を明確にし，子どもたちの「つながり」を想定した３つのステップを手立てとした授業を行うことで，以下の点が成果としてみられた。

①　子どもの予想を想定し，必要となる根拠を単元の中で学べるようにデザインすることで，思いつきではなく，根拠のある予想を子どもたちにもたせることができる。

②　子どもの予想を共有し，整理や分類をすることで，一人一人に課題解決の見通しをもたせることができる。

③　本時までに追究する学習内容・方法の選択を経験し，その振り返りを積み重ねることで，追究に必要な内容・方法を選択・判断させることができるようになる。

また，渡辺教諭の実践から，既習を根拠とした予想を，二次元表を基に全体で分類したことで，誰（「農民」「役人」）が何（「幕府」「外国」）に対して不満をもったのかという見通しをもつことができ，複数の視点から追究を行うことができた。

次年度は，副重点教科の年になる。今年度までの実践を基に，社会科における問題解決力の見通しをもたせるための必要な３ステップを市小研会員に分かりやすく伝えるためにどうすればよいかを考えていき，発表に備えたい。

理　　科

部長　江端　　卓（女池小学校）

研究主題
児童が理科の見方・考え方を働かせて資質・能力を育成する理科授業
～児童が学びを生かして問題解決するための単元づくり～

１　研究主題設定の理由

社会の変化が加速度を増し，複雑で予測困難な時代を迎えている中，目の前の事象から解決すべき課題を見いだし，主体的に考え，多様な立場の者が協働的に議論し，納得解を生み出すことなど，正に学習指導要領で育成を目指す資質・能力が一層強く求められている。特に，理科では「問題を見いだす力」「根拠のある予想や仮説を発想する力」「解決の方法を発想する力」「より妥当な考えをつくりだす力」といった問題解決の力が育成すべき資質・能力に位置付けられており，これらの資質・能力を育む授業づくりが求められている。

これらの資質・能力を育む授業づくりには，児童が主体的に問題と向き合い，生活経験や既習の知識を生かして問題を解決していくことを繰り返していくことが大切である。そこで，今年度の市小研理科部では，「学びを生かす」という視点から単元を構成し，授業改善に取り組み，資質・能力の育成につなげていこうと考えた。

２　研究の概要

⑴　目指す子どもの姿

理科の見方・考え方を働かせながら，理科で学習したことを生活経験と結び付けて考えたり，既習の知識を生かして問題を解決したりする子ども

⑵　研究内容

児童が学びを生かすための有効な単元構成や手立てを探る。

今年度は，３年生，４年生，５年生，６年生，ICTの５つのグループに加え，生活科接続グループ（主に１，２年生を担任している方向け）の６つのグループに分かれて研究を進めていく。その際，研究単元をグループで一単元設定する。その単元について「学びを生かす」という視点から，グループ全員で話し合いながら，単元をつくっていく。例えば，植物や生き物の観察単元ならば，振り返りの中に〇日後の植物（またはメダカの卵）の様子を予想させることによって，今までの学びを生かすことが考えられる。また，実験単元ならば，児童の？（はてな＝疑問）を引き出す事象提示や既習の知識を活用するジャンプ課題の設定，学習したことを日常生活とつなげる単元構成の工夫などが考えられるだろう。

話し合った単元計画や手立てを基に，一人一人が授業を行う。そして，各グループで授業者を一人決め，公開授業と協議会を行い，単元構成や手立ての有効性を探る。年間一単元の授業を数年繰り返し，単元の流れ，授業で使用した資料等を理科部の財産として貯めていき，授業支援アプリケーションなどで新潟市の全職員に提供できるようにする。

３　研究の実際

研究の実際を，５年生グループの実践を例に紹介する。

＜５年「雲と天気の変化」　授業者　東中野山小　佐藤　　剛　教諭＞

今年度，５年生グループでは，「雲と天気の変化」を研究単元に選び，実践を行った。

本単元は，天気の変化の仕方について，雲の様子を観測したり，気象情報を活用したりして調べる活動を通して，日本付近の雲の様子と天気の変化の仕方の特徴を関係付けて捉え，天気の変化を予想することができるようにすることをねらった。

⑴　単元の工夫ポイント

○学校の上空の雲の動きを押さえた後で，日本付近はどうなっているかと視点を広げて考えさせる構成にしたこと。
→実際の学校の屋上での雲の観測と日本付近の雲画像の雲の動きがつながる。
○次の日の新潟の天気を予想させる課題を設定し，自分の予想の根拠を，雲画像や降雨情報などから探す活動を行ったこと。（本時）
→既習（「台風の接近」で行った雲画像と降雨情報の関係，雲は西から東へ動くこと）を生かしながら，必要な情報を取捨選択し，雲の動きと天気の変化を関係付けることができる。

⑵　本時の働き掛け

次の日の新潟の天気を予想させる課題の設定と気象資料の準備

児童は，「台風の接近」の単元で雲画像と降雨情報の関係を学習している。また，前時までに日本付近の雲は，およそ西から東へ動くことを学習している。これら既習の知識を生かしながら，次の日の新潟の天気を予想させる課題を設定した。

教師は，令和５年４月26日の全国の天気予報を提示し，新潟が雨だったことを確認し，次の日の新潟はどんな天気だったと思うか問うた。児童は，晴れや曇り，雨とそれぞれ予想したか，これだけの情報ではよく分からないことに気付いた。教師がほかにどんな情報が必要か問うと，児童からは，「過去の天気」「雲画像」「雨雲レーダー」「気温」という意見が出た。そこで，事前に準備していた４月23日～26日までの資料を授業支援アプリケーションに送り，課題解決をスタートさせた。児童は，送られた資料を取捨選択し，自分が予想した天気の根拠となる資料を選んで，理由を考えることができた。多くの児童が，雲画像と雨雲レーダーの降雨情報を基に，自分の予想の理由を考えていた。

⑶　成果（○）と課題（●）

○４日間連続している資料がよい。傾向が把握しやすく予想のための根拠になっていた。
○ワークシートが見やすかった。予想，画像，理由が１枚になっていてよかった。
●雲画像と雨雲レーダーが連動しているシートの工夫があるとよかった。
●どの資料を選んだのか，根拠を話し合う時間があるとよかった。

図画工作

部長　森林　直美（巻南小学校）

研究主題
見方や感じ方を広げる図画工作科の授業を目指して
（１年次）
～生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力の育成～

１　研究主題設定の理由

図画工作科の教科の目標である「表現及び鑑賞の活動を通して，造形的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を育成すること」を実践するために児童の感覚や行為を大切にし，一人一人の見方を一層重視した授業をする必要がある。

これまでの研究で，授業の３つの段階で具体的な工夫を取り入れることが，児童の見方や感じ方を広げるための手立てになることが明らかになってきた。本年度は，研究主題を「自分の見方や感じ方を広げる図画工作科の授業を目指して」とし，今までの蓄積した授業構想を基に授業実践を行い，研究を深めていくこととした。

２　研究の実際

⑴　児童の見方や感じ方を広げる（資質・能力の育成）ための授業の工夫

低・中・高学年に分かれ，同じ題材の授業を行い，３つの場面から児童の見方や感じ方を広げることができた工夫を共有し学び合った。

①　題材との出合いの段階での工夫

・【材料】　材料との出合わせ方・触れ合わせ方
・【人】　　友達との交流，外部の方たちとの交流，ゲストなど
・【場所】　題材に応じた効果的な場所の選択

②　表現段階での工夫

・【表現方法の選択】　表現方法の提示や選択
・【活動中の交流の仕方】　交流の時間を作る，活動場所の工夫
・【表現を見つける工夫】　自分や友だちの表現の「いいね」を見付ける場の設定

③　鑑賞段階での工夫

・【展示方法】　並べる，吊り下げる，置くなど
・【展示場所】　教室，廊下，他の校舎内，玄関前，屋外，商店街など
・【鑑賞方法】　グループ対話で，タブレット端末で，お気に入りを見付けるなど
・【鑑賞のタイミング】　表現活動の途中での鑑賞，意見交流など

低・中・高で授業実践を行う題材を統一し，上記の３つの工夫から選択して授業の構想・実践に取り入れ，手立ての有効性を検証した。

学年部	題　　材
低（１・２年）	１・２年上『ならべて　ならべて』 １・２年下『つないで　つるして』
中（３・４年）	３・４年上『ひもひも　ワールド』 ３・４年下『つなぐんぐん』
高（５・６年）	５・６年上『形が動く　絵が動く』 ５・６年下『墨と水から広がる世界』

※子どもの反応を中心に見取り，レポートにまとめた。

⑵　実技研修

「見方や感じ方を広げる」とはどのようなことか，講師を迎え実際に実践を体験することで感じたことや考えたことを交流し，理解を深めた。

『見方や考え方を広げる紙コップタワーの演習を通して』

講師　目白研心高校　開成高校　中野区立第五中学校
　　美術教師　　花里　裕子　様

たくさんの紙コップを，制限時間内にできるだけ高く積み上げる活動を行った。全員が両手を使ったり，立ち上がったりできるわけではなく，片手しか使えない人，立って活動してはいけない人，言葉で指示できない人等様々な条件を入れてコップを積み上げることで，子どもたちの多様性を生かした製作活動の可能性を感じることができた。また，自分が与えられた条件のもと活動することで，相手を思いやりながら話したり動いたりすることの大切さにも触れることができる活動になった。

３　成果と課題

授業実践の成果（○）と課題（●）

題材との出合いの段階での工夫	表現段階での工夫	鑑賞段階での工夫
○たくさんの量を用意したり，子どもたちにとって身近なものを材料にしたりすることで，創作意欲を高めることができた。 ○他教科と関わらせたり，地域の人や物と出合わせたりすることで，活動が広がったり深まったりした。 ●子どもたちが思いや考えを深めたり広げたりする活動には，題材に適した広さの場所が必要。	○相手意識や目的をもたせることで，活動が広がったり深まったりした。 ○個人の活動からグループの活動へ広がるように設定することで，人と関わり，その中で思いや考えが深まる様子が見られた。 ●友だちと関わりながら自分の思いや考えを広げたり深めたりさせるには，製作の途中に関わり合いの時間を取り入れることが重要。	○作品を写真に撮って鑑賞する際，上下左右といろいろな角度から撮影させることで，その作品の新たな良さに気付いていた。 ○製作活動の途中に鑑賞タイムを設けることで友だちとの関わりが自然と生まれ，活動に広がりや深まりが生まれた。 ○友だちの作品に題名を付ける活動を通して，自分の作品の新たな良さを感じていた。

今年度は，学年部ごとに同じ題材について授業実践を行うことで，手立ての有効性についてより具体的に検証することができた。また，活動中の子どもの反応を中心にまとめたレポートを基に，手立てがどうであったか意見を交流することで，一人一人の実践をブラッシュアップすることができた。次年度は，今年度蓄積した授業実践の中から，有効であった手立てにさらに磨きをかけ授業実践を行い，研究を深めていきたい。

家　　庭

部長　高橋　優美（桜が丘小学校）

研究主題
できる喜びを感じ，生活をよりよくしようと
工夫する子どもの育成
～家庭とのつながりやＩＣＴ活用を取り入れた指導法の工夫～

１　研究主題設定の理由

市小研家庭部が目指してきた子どもの姿は，「できる喜びを感じ，生活をよりよくしようと工夫する」である。家庭科では，生活の自立の基礎を培うことに重点を置いているが，衣食住に関する知識と技能を習得することで終わるのではなく，それらを基に自分の生活の課題を見つけ，解決する方法を考え実践する力を育てることをねらいとしている。そのためにも，子ども自身が「できた，分かった」「もっとやりたい」「家でもできそう，使いたい」と実感し，自らの生活を振り返り，生活をよりよくするために授業で学んだことを実践するというサイクルを構築することが必要であると考える。

子どもたちがより広い見方・考え方を身に付けるため，家族の取組や考えを調べる活動や家庭での実践などの「家庭とのつながり」，考えを共有したり比較したりするための「ＩＣＴ活用」の仕方についても検討していく。

２　研究の実際

昨年度は，「家庭とのつながり」「ＩＣＴの活用」を強く意識してしまい，子どもたちの「できる喜びを感じる姿」や「生活をよりよくしようと工夫する姿」の変容などの見取りが十分ではなかったことが反省として挙げられた。改めて研究主題である「できる喜びを感じる姿」や「生活をよりよくしようと工夫する姿」に目を向け，実践を進めていくことを確認した。

そのためにも，まずは継続的な実践につながるように，授業の中で「試しの活動」や「実感を伴う体験的な活動」を行い，「授業を通してできたこと，分かったことを家庭生活に生かす」という思いが高まるよう，工夫をしていきたい。

研究の進め方としては，昨年度に引き続き，家庭科授業担当の有無に関わらず，全員で研修ができるよう，グループでの授業検討を進める。家庭とのつなげ方，タブレット端末の活用法を工夫しながら，題材を通した学習の流れを検討する。そのうちの１時間分の授業構想カードを作成し，グループ内の家庭科を担当している先生がその構想カードを基に授業を行う。授業後，子どもたちの変容について振り返る。

＜５年：物を生かして住みやすく　（６時間目／全７時間）＞
２－⑵よごれに合ったそうじをしよう（３時間／全３時間）

①　導入（１時間目）

健康で快適に生活するためには住まいの掃除をする必要があることを押さえる。その上で「健康・快適・安全」をキーワードに，掃除をする理由を考えたり，学校で汚れ探しを行ったりする。汚れ探しは学校独特の汚れではなく，家の中にもありそうな汚れ（ほこり，水あか，カビなど）に限定し，家庭での実践と関連させる。

②　展開～まとめ（２・３時間目）

「汚れに合った掃除について，グループで話し合ったり，試しに落とす活動をしたりすることを通して，よりよい方法に気付くことができる」ことをねらいとした。グループ内で，

落としたい汚れを落とす方法を出し合い，実際に落とす実践計画を立てる。授業での掃除は「試しの活動」として，時間を１分間に限定する。掃除前後の写真を見て，結果を比較できるようにする。

③　家庭とのつながり

１時間目の後には，グループで決めた汚れの落とし方について，家族にインタビューして調べる活動を取り入れる。また学校での実践後には，長期休業中に「わが家のクリーン作戦」を行う。自分たちや他のグループの掃除の結果を基に，個で掃除の計画を立て，家庭で実践させる。

＜６年：冬を明るく暖かく　（３時間／全５時間）＞

①　導入（１時間目）

事前に調べてきた家での暖かく住まうための工夫を全体で出し合う。そこで出てきた問題点（困っている子）については，本時につなげていくようにする。その後，教科書に載っている「月別電気使用量」について，項目を隠して提示し，冬に電気を使っていることに目を向けさせる。本題材では，環境に配慮した住まい方について考えていくことを確認する。

②　展開

本時のねらいを「暖房器具を使った冬の住まい方について，教室の温度調べや換気の必要性を話し合うことを通して，より快適に過ごすための住まい方について考えることができる」とした。「寒いときは暖房を使えばいい」というところから，より快適に過ごすために自分たちでもできることがないか，温度の計測という数値の変化を根拠に考えていく。教室の上下や窓側・廊下側の温度が分かるように温度計を吊り下げ，元々の温度差と空気の循環による温度変化について視覚的に判断できるようにする。

また通風や換気では，結露やカビ・ダニ等の発生の防止などについても扱い，室内の空気環境の学習につなげていく。

③　家庭とのつながり

予め，家庭生活での暖房器具の使い方や快適な住まい方について調べ学習を行い，生活の営みに係る見方・考え方を働かせるための土台を作っておく。また授業では家庭と教室を結び付けるような言葉掛けや発問を行い，授業実践から家庭への取組につなげるようにする。

３　成果と課題

今年度の２実践では，学校で実践したことがその後の家庭生活での実践につなげられるように，家庭と学校（教室）を結び付けるような発問や言葉掛けを意識した。学校で実践したり調べたりした結果をそのまま家庭での実践に結び付けられるような授業構成となるよう工夫することができた。「家族のために」という目的意識を明確にしたり，授業で学習したことを実践する場を設けたりすることを継続して行うなど，家族とのつながりを意識させながら学習することは，子どものよりよい生活にしようという工夫する姿を育むために有効であるといえる。それぞれの家庭環境や家族の協力にも差があるので，授業の場で実践の経験をすることやそれが直接家庭生活につながるようなものであることなど，だれもが「できた」と思える活動になるよう，配慮が必要となってくる。

家庭部では，年々部員数が減少しているが，これからも全員で授業研究に向き合い，授業案を蓄積していく。今後も少人数でも実施可能な研修方法を考えていく必要がある。

体　　育

部長　熊野　昌彦（沼垂小学校）

研究主題
自己の身体を見つめる力を高める児童

1　はじめに

市小研体育部では，昨年度の８月に教育研究発表会で成果発表を行い，６年間を見通した一つの授業構想モデルである「３本の矢」をデジタル化し，新潟市内の先生方全員に授業支援アプリケーションとして配付することができた。

しかし,「３本の矢」は，器械運動領域（マット運動），陸上運動領域（走の運動），ボール運動領域（ゴール型），表現運動領域（表現）の４種類で，全ての運動領域を網羅できてはいない。また，体育部の先生方も「３本の矢」を活用しながらの授業実践ができておらず,「３本の矢」の内容についての十分な検証ができていない。

そこで今年度は，体育部の先生方全員に「①新研究グループ」「②新３本の矢作成グループ」「③３本の矢活用グループ」の中から一つ選んでもらい，三つのグループに分かれて研修を進めることにした。

2　新研究グループ

今年度から,「自己の身体を見つめる力を高める児童」という研究主題を設定した。

市小研体育部版メタ認知能力として定義した「自己の身体を見つめる力」を，児童がどの学年でも・どの運動領域でも働かせ続けることでこの力を高め，豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成することができるという研究デザインを描いた。

そのために，どの学年でも・どの運動領域でも「①自分に合った課題や解決方法を設定するための手立て」「②自分が体感したことを他者に伝えるための手立て」「③学んだことを自分なりの言葉で表現するための手立て」の三つの手立てを講じながら，授業研究に取り組むことにした。

【提案授業】　新潟市立小針小学校　三本　雄樹　教諭

日　時：令和５年７月５日（水）　14：30～15：15

単元名：器械運動（マット運動）

手立て

① 「止まらずに前転２回」の連続技と「そのままの姿勢で開脚前転・前転」の組み合わせ技を実際に試し，自分で選んだ技に生かせそうなつなぎ方を選択する。

② 自分の感覚を言語化する「一人で練習する場」と，友達と感覚を共有する「友達と伝え合う場」を設定し，二つの場を児童一人一人が自由に選択しながら連続技や組み合わせ技に取り組む。

③ 「できたメーターを取り入れた OPP シート」を用いて本時を振り返り，知識・技能について自己評価したり，体感したこと（できるようになったことや課題）を言語化して表現したりする。

【公開授業】　新潟市立桃山小学校　田村　真輝　教諭

日　時：令和５年11月１日（水）　14：30～15：15

単元名：体つくり運動（多様な動きをつくる運動）

手立て

① 「シャッターが空いたら入る」「前の人が跳んだら入る」「片足ジャンプ，片足着地」「走りながら跳ぶ」「走って出る」「急いで出る」などの言葉の中から，自分に合った解決方法を選択する。

② 共通の運動課題を設定し，それを達成するための跳び方について，評価（アドバイス）し合う。

③ 他の学級や学年に伝えるという明確な目的をもち，自分の体感と近い言葉を選んだり，必要な動きを言語化して表現したりしながら説明する。

【成果（○）と課題（●）】

○ 学年に応じて，運動を通して体感したことを自分なりのコツとして言語化したり，教師が示したキーワードを活用しながら自分の学びを表現したりすることができた。

● 「自己の身体を見つめる力を高める児童」の具体的な姿を，１時間の授業の中で見取ることが難しかった。

３　新３本の矢作成グループ

昨年度に引き続き,「器械運動領域（跳び箱運動）」と「ボール運動領域（ネット型）」の２種類の「３本の矢」を新たに作成した。

【成果（○）と課題（●）】

○新しい運動領域にも着手し，学習指導要領の学びを焦点化しながら，系統性を整理したことで，学びの道筋を明確に示すことができた。

○活動を中心としながら「３本の矢」の内容を検討したことで，児童に身に付けさせたい動きとそのための方法について，より具体的に話し合い，練り上げることができた。

●「３本の矢」のゴールを明らかにした後に「低・中・高」のそれぞれの矢を検討したが，系統性や検討の視点がぶれることがあった。

●運動が得意な教師で内容の検討を行ったため，運動が苦手な児童の考えがイメージしにくかった。

４　３本の矢活用グループ

昨年度作成した「器械運動領域（マット運動）」「陸上運動領域（走の運動）」「ボール運動領域（ゴール型）」「表現運動領域（表現）」の４種類の「３本の矢」を実際の授業で活用し，成果と課題を踏まえながら内容の修正を行った。

【成果（○）と課題（●）】

○「３本の矢」を基に，授業づくりに対する考えを広げたり深めたりすることができた。

○一人１実践を行ったことで,「３本の矢」をよりよく活用するための視点を見付けたり，内容の修正を行ったりすることができた。

●「３本の矢」を活用するための視点を，さらに検討・整理する必要がある。

●体育部以外の先生方からも「３本の矢」を活用してもらえるように，再度，情報発信をしたり，内容をより分かりやすく示したりする必要がある。

特別活動

研究主題
多様性を認め合い合意形成するための教師の指導

部長　篠木　　格（上所小学校）

１　研究主題設定の理由

学習指導要領が示す，特別活動において育成を目指す資質・能力を育成するために整理された三つの視点は,「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」である。これらは相互に関わり合っていて，明確に区別されるものではない。しかし，これらはどれも集団の中で育まれていく視点である。集団の中での人間関係をよりよいものへと形成するためには，個人と個人あるいは個人と集団という関係性の中で，考え方や意見の違いを理解し，認め合い，互いのよさを生かす関係をつくることが大切である。

そこで，市小研特別活動部では，三つの視点の中で「人間関係形成」に重点を置いて研究を行う。この視点を身に付けさせるためには,

> 自分自身及び自分と違う考えや立場にある多様な他者と，互いを認め合いながら，助け合ったり協力し合ったり，進んでコミュニケーションを図ったり，協働したりする資質・能力

を育むことが大切である。このような資質・能力を身に付けることは，学校教育全体やこれからの社会で学び続ける児童を育てることができると考える。さらに，学級会について,

> 学級会では，学級や学校の生活上の諸問題を解決していくために，提案理由を基によりよい解決方法や実践内容について話し合い，少数意見の考えも考慮するなど多様な意見をまとめ，合意形成を図っていく。話し合って決まったことは学級全体で共通理解し，協力して実践し，振り返りを行う。

と示されている。このように，合意形成を図る場合，その前に多様な意見をまとめる必要がある。つまり，児童同士が，多様性を認め合った状態で合意形成することが求められていると考える。

２　研究の実際

研究主題設定の理由から，次の２点に重点を置いて研修に取り組んできた。

> ○　学級会において，児童が多様性を認め合うための教師の出場
> ○　合意形成を図ることができるようにするための教師の出場

＜６年　「６年１組の最高の思い出をつくろう～１年生との交流を通して～」

早通南小　斎藤　和輝　教諭＞

⑴　授業の構想と工夫

①　本時において，児童が多様性を認め合うための教師の出場

> ・出し合いタイム，比べ合いタイムでの教師の問い返し
> ・仲良し度の数値化→自由交流の場の設定

教師が「どうしてそう思ったの？」「似た経験があったの？」と，問い返し，根拠を深掘りすることで，それぞれの活動のよさと心配な点に目を向けられるようにする。

また，現在の「仲良し度」を数値化させ，「深め合いタイム（自由交流）」の場を設定し，関わり方のコツについて話し合わせることで，よりよい関わり方について気付けるようにする。

② 合意形成を図ることができるようにするための教師の出場

・学級で目指す理想の関わり方の焦点化

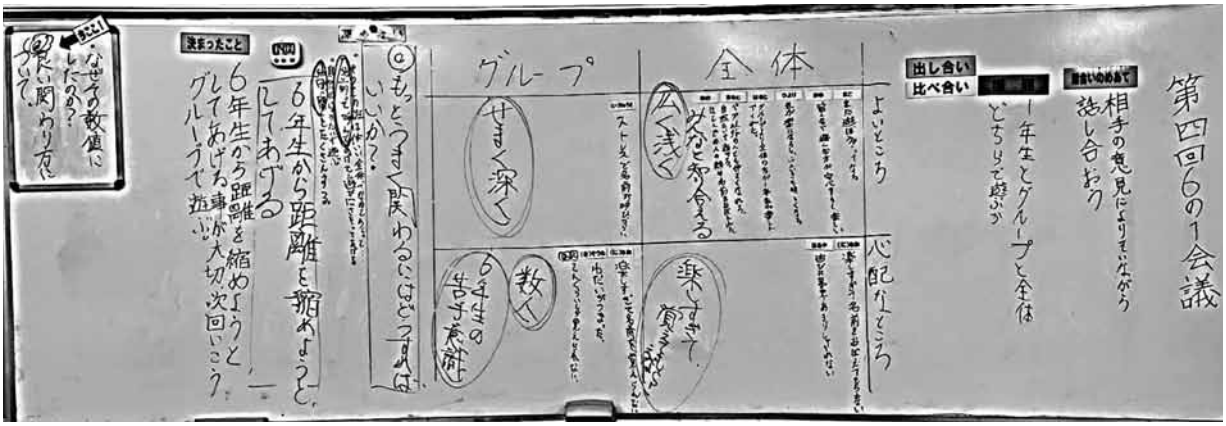
よりよい関わり方について学級全体で共有した後，拡散している関わり方を整理し，学級で目指す理想の関わり方を追求する。そこで，全体・グループどちらの交流になったとしても，１年生に寄り添う気持ちが大切であることに気付けるようにする。

⑵ **成果（○）と課題（●）**

○ 児童の発言に対して，教師が「みんなもそういうことあった？」「○○の人どれくらいいる？」「その時の様子を教えて」などと問い返したことで，一人の思いを学級全体に広げることができた。

○ 自分の１年生との関わり方を数値化したことで，その理由や，なりたい自分の姿を言語化する姿が見られた。「数値化→自由交流の場」を設定したことで，一人一人の思いを表出させることができた。また，１年生とどのように交流したらよいかを考えさせることができた。

● 自由交流の場で児童は困った経験について話し合った。それをもっと引き出し，児童に語らせることができれば，課題解決に向かって考え，なりたい自分の姿を思い描く時間を多く確保することができた。



総合学習

部長　内山　雅俊（白山小学校）

研究主題
子どもが自ら探究する総合的な学習の時間の創造
（４年次）
～課題を自分事として捉える単元・授業の工夫～

１　研究主題設定の理由

本研究は４年次を迎える。これまで，子どもの探究を進めるためには，単元の見通しをもつことが大切だと考え研究を進めてきた。単元で育みたい子どもの姿を授業者がもつことを第一とし，子ども一人一人の学びのストーリーを大切にしながら，単元の要所で育みたい資質・能力を思い描き，単元・授業をデザインした。

令和４年度は，２本の授業研究を行う中で,「子どもが自ら課題をもつこと」について議論が集中した。「単元の課題」を自分事にすることが必要であることが確認された。

そこで，本年度の副題を「課題を自分事として捉える単元・授業の工夫」とした。子どもが自ら設定した課題や学習対象を自分の生活と関連付けて捉え直すことにより,「なぜ○○になっているのだろうか」「○○を解決するために，□□に取り組みたい」等，より明確な課題設定につなげ，その後の探究活動を持続させる原動力にしたいと考えた。

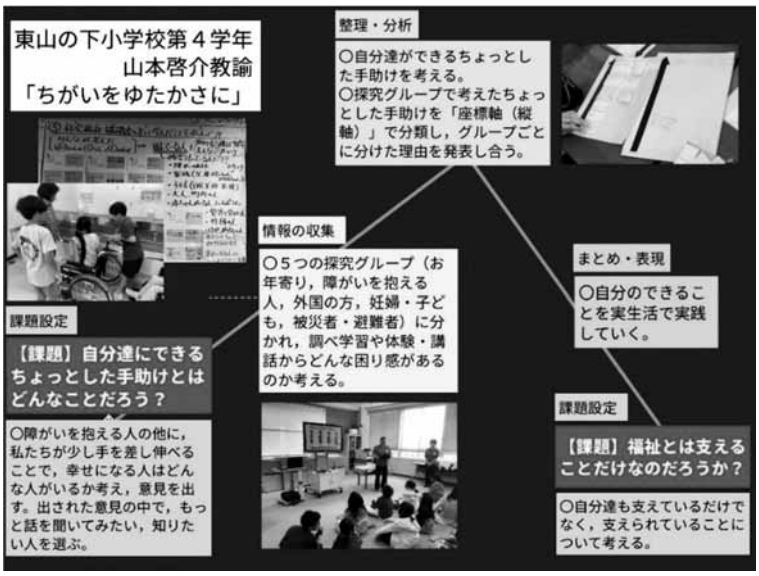
そこで子どもが，課題を自分事として捉えられるようにするために，次の２点に着目することにした。第１は，子どもの考えと学習対象の間にある「ずれ」を感じさせる場面を設定すること，第２は，課題を繋げて探究の軸をつくることである。これらを単元構想に意図的・計画的に位置付けることが有効と考え，具体的な指導方法や単元デザインの在り方を検証した。

２　研究の実際

＜４年「ちがいをゆたかさに」　東山の下小　山本　啓介　教諭＞

⑴　単元構想の工夫

単元の初めに，障がいについて理解を深めるための体験活動を行った。この時点で子どもは,「福祉とは，障がいを抱える人に何でもしてあげることである」と考えをもっていた。子どもの感想を聞いた社会福祉協議会の方からは「障がいを抱える人だけでなく，身近なところにもちょっとした支援を必要とする人がいる。『ふくし』は『ふだんのくらしのしあわせ』である」という話を聞いた。専門家と自分たちとの考えのずれを感じた子どもは，その後の話合いで，小単元の課題「自分たちにできるちょっとした手助けとはどんなことだろう？」を立てた。



課題を見いだした子どもは「障がいを抱える方」「お年寄り」「外国の方」「妊婦・赤ちゃんがいる方」「被災した方・避難している方」の５つのグループに分かれて調べ学習や講話，体験活動を行った。その後，それぞれの立場で支援を必要とする方の困り感について自分たちができることを考え，他のグループの友達と考えを共有し，

自分ができることを整理・分析した（本時）。すると，子どもが福祉について多面的に捉え始め，次の小単元の課題「福祉とは支えることだけなのだろうか？」が実践後に見えてきた。

⑵　授業の構想と工夫

本時は，５グループに分かれて行った調べ活動の経験を基に，子どもが日常的にできる支援を考えられるように話合いを行う場面である。以下の３つの手立てを講じた。

①　本時の活動とこれまでの活動をつなぐ掲示物やデータを活用

子どもは，福祉「ちょっとした手助け」によって支えられていることは専門家から聞いて知っているが，意識して活動してはいなかった。そこで，ノートや学習支援ツールのデータ，掲示した学びの足跡を振り返られるようにした。子どもはそれらを見返し，専門家の言葉の意味とこれまでの活動を関連付けながら考えることができた。

②　思考ツール「座標軸チャート」を活用した考えの整理

子どもは，支援を必要とする方の困り感から，考えられる支援の仕方について付箋に書き出した。しかし，書いた付箋は支援の方法があらゆる視点から書かれており，自分だけの力では実現が難しいものも含まれていた。そこで，付箋を座標軸チャートで「自分ができる・できない」の視点で分けて整理した。すると子どもは，自分ができることとその根拠について考え始めた。

③　自他の意見の共通点を基にした自分ができることの分析

自分の考えをもち始めた子どもは友達の考えを知りたいと考えた。そこで，互いの座標軸シートを見合い，付箋の内容や座標の位置を比較し，共通点を考えさせた。すると子どもは，友達の意見を比較しながら，自分ができるちょっとした手助けは，「だれでもすぐに，ちょっとした勇気でできそうなこと」という共通点を見出した。

⑶　成果と課題

本時の授業では，子どもの発言の中に「ちょっとした手助け」や「自分たちにできること」などの声が出て，小単元の課題が一人一人に意識されてきたことが分かった。また，「自分が」と考えていた子どもが，友達の考えにふれて対話することで「自分たちが」と思考を変化させたことが分かった。今後の授業で，自分たちと相手側の意識の「ずれ」を感じることのできる手立てを打つことで「福祉とは支えられることだけなのだろうか？」という次の課題につながると考えられる。

子どもの考えと学習対象の間にある「ずれ」を感じさせる場面を意図的に設定し，課題をもたせることで，子どもは後の探究場面でも課題を意識しながら学びを深めることが分かった。教師は子どもの姿を見とりながら，次の課題設定に向けた働き掛けを用意する。その連続で課題が繋がり，より豊かな単元構想ができることが分かった。

学校図書館

部長　坂井　みどり（白根小学校）

研究主題
本に親しみ，情報を活用できる子ども
～教諭と司書の連携を通して～

1　研究主題設定の理由

教諭部・司書部の２部構成になっている当部は，それぞれの専門性を発揮しながら研修を進め，成果を積み上げてきた。今年度は今までの成果に加え，両部が共通の認識のもとに，子どもの読書活動推進や情報活用能力の育成を図っていきたいと考えた。そこで，研究主題を「本に親しみ，情報を活用できる子ども～教諭と司書の連携を通して～」とした。

司書は学校図書館経営に欠かせない存在である。新潟市は現在，学校図書館の司書配置が100％であり，学校図書館を活用するための人的環境は整備されているといえる。このような恵まれた環境の中で，教諭と司書が互いの専門性を理解し，学習指導を計画・展開することで，「本に親しみ」「情報を活用できる」子どもの具現化が可能となると考える。

そこで，各部での柱を次のように設定して研修を進めた。

⑴　教諭部

「アニマシオン」や「おすすめの本紹介」など，技能を高める研修のほか，「司書との連携を工夫した授業実践」「子どもが本から必要な情報を取り出し，整理・活用できるための実践」「子どもが本の楽しさを感じられる実践」の３つの中から１つを選び，一人一実践を行う。また，代表者の授業を参観し協議することで，研究主題についての自分の学びを深める。

⑵　司書部

教諭との連携を進めるにあたり，高めておきたい専門的な技能について，地区ごとに分かれ研修を行う。また，司書の技能について広く知ってもらい，連携の幅が広がるよう，「司書のできること（仮）」の作成を目指す。今年度は一年次として，まず司書が実際に行ってきたことを集約し，そこからどの司書もできることをまとめ，土台作りを行う。

2　研究の実際

⑴　授業の工夫と実際

＜総合的な学習の時間「魅力がいっぱい　五十嵐浜」

五十嵐小　平岡 明子　教諭　　綱嶋 幸恵　司書＞

①「調べ学習ミニレッスン」の実施

未利用魚とはどんなものかを調べるためには，調べ方そのものを理解する必要がある。そこで，司書による「調べ学習ミニレッスン」を３回行った。１回目は「百科事典の使い方」，２回目は「情報カードの書き方（図書資料）」，３回目は「情報カードの書き方（ネット資料）」というように，司書と相談しながら単元の中に位置づけた。

毎時間，司書の説明を聞いた後に実際に自分で調べてみる流れで取り組んだ。インプットしたことをすぐにアウトプットする経験を繰り返すことで，情報の収集に慣れる様子が見られた。司書が子どもの活動の様子を見ながら，担任と共に必要な手助けをした。

② 調べたことを生かした話合い

未利用魚のおいしさを地域の方に知ってもらうために，調べ活動で蓄積してきた情報を根拠として方策を考えた。他の地域での未利用魚の活用方法を本やインターネットで知り，それらについて「自分たちにもできそう」「難しそう」と話し合い判断する活動は，情報の整理・分析に当たる。根拠となる情報があることで話合いの焦点が定まり，子どもたちに次の活動への見通しをもたせられたといえる。

＜総合的な学習の時間「レッツ！ワーキング」～君たちはどう生きるか～

結小　五十島 律子　教諭　　渡部 規久子　司書＞

① 司書とのイメージ共有

単元計画を立てる段階で，単元を通して身に付けさせたいことや，大切にしたい考えを司書と共有した。共通のイメージのもとに意図的な図書館活用を行うことで，学びの質が高まっていくといえる。

② アクティブ・ブック・ダイアログ（ABD）で生み出す共通の課題意識

自分の生き方を見つめ直すために，まずは「なぜ働くことが必要なのか」から考えさせた。ABDの手法を用い，全員が同じ土台で考えを関わらせるようにし，課題を生み出した。司書が授業を参観し，子どもたちの課題解決のヒントになりそうな内容の本を選ぶことができた。

③ 司書によるブックトークの実施

調べ学習の導入で，司書が選書しブックトークを行った。シナリオも司書が作成した。前時までの様子を見ながら子どもたちの課題意識に沿うブックトークをすることで，その後の調べ活動が焦点化された。

⑵ 教諭と司書の合同研修

毎年１回，講師を招聘して講演会を行っている。今年度は関屋小学校　川又 健司校長先生から「図書館に足を運ばせるささやかな工夫から」という演題でご講演いただいた。参加者からは，紹介された実践を自校でもやってみたいという声があがった。

その後，教諭と司書が小グループになって，「教員と司書の連携について」というテーマで情報交換を行った。各校での取組内容や，現在の課題などについて自由に話し合うことで，両者が連携する重要性について改めて確認した。

⑶ 成果と課題

両部とも，「本に親しみ，情報を活用できる子どもを育てる」という同一の目標のもと，それぞれの立場でできることを考え研修を進めることができた。今後，教諭部は，図書のより効果的な活用に向けて，単元構想や授業展開を考えていく。また，司書部は，「司書のできること（仮）」の作成に向け，さらに司書の専門的な技能を高めていく。

特別支援教育

部長　清水　和正（横越小学校）

研究主題
児童一人一人が主体的に学ぶ授業づくり
（２年次）

１　研究主題設定の理由

特別支援教育に対する意識や関心が高まり，特別支援学級・特別支援学校の児童は増える一方である。また，通常の学級にも特別な支援を必要とする児童が多数在籍しており，教育現場は，インクルーシブ教育システムの構築を目指し，多様な児童が共に学ぶ環境づくりが求められている。

特別な支援を望む児童・保護者の増加に伴い，支援や相談の内容も多岐に渡り，特別支援教育部の部員に対する期待は大きくなってきている。

これまで,「多様性を認めあえる学級づくり・授業づくり」を研究主題に掲げ，日々の授業実践に目を向け，研修を行ってきた。昨年度は，そこに「授業づくり」の視点を強化し,「児童一人一人が主体的に学ぶ授業づくり」を研究主題に掲げ，多様な児童に配慮した授業・環境づくりを目指し，スキルアップを図ってきた。ICTの活用も求められる中，一人一人の実践から学ぶ機会，各学校・各地区の実情に応じた内容の講演やアドバイザーによるアドバイスを聞く機会等を通じて得られた知識を自らの実践に取り入れてきた。

今年度は，昨年度までに蓄積したことを基に「授業づくり」に重点を置き，より一層，部員のスキルアップを図りたいと考えた。児童の学びたい・できるようになりたいという思いを叶えるための学級づくり・授業づくりは，学校生活の基盤となるものである。一人一人が学ぶことを楽しいと感じ,「分かった・できた」と実感できる授業が実現すれば，子どもたちは自信をもってさらに意欲的に学びたいという思いをもつことができると考える。

そこで，今年度も研究主題を「児童一人一人が主体的に学ぶ授業づくり（２年次)」とした。児童一人一人の主体的な学びを保障するためのアセスメントとニーズの把握はどのようにすべきか，様々な特性のある児童への教材作りや提示の仕方，より有効な支援の方法はどうすべきか，児童が満足感や達成感を味わえる授業を行うために私たちにはどのようなスキルが必要なのか，研修を深めることで，部員の専門性を高めたいと考える。

２　研究の実際

⑴　全体研修（６・７・12月）

６月	７月	12月
研修計画の検討・確認	講演会 「学習への困り感を抱える児童へのICT支援」 新潟市障がい者ICTサポートセンター　山口 俊光 様	講演会 「ポジティブな支援で居心地のよい学級づくり・授業づくりPart２」 上越教育大学 大学院学校教育研究科 准教授　関原 真紀 様

⑵　地区・班別研修（９・11・１月）

	９月
A　北・東区	講演会「特性に応じた教科学習での教材の工夫」
B　中央区	講演会「学校と福祉の連携について」
C　西区	講演会「愛着障害について」
D　江南・秋葉区	講演会「特別支援学級の学級経営」
E　南・西蒲区	講演会「学習に困難を示す児童への支援」

F　病弱・弱視・肢体不自由	中学校での支援の実際と進路指導等について
G　通級指導教室	「読み書き」のアセスメント

	11月	1月
A　北・東区	タブレット端末の活用と情報交換会	講演会 実践発表 情報交換 反省 次年度役員選出
B　中央区	学校におけるICTを使用した授業実践紹介	
C　西区	講演会「通級指導教室の紹介」	
D　江南・秋葉区	教材・実践紹介	
E　南・西蒲区	講演会「中学校での特別支援学級の様子及び卒業後の進路について」	
F　病弱・弱視・肢体不自由	実践紹介・情報交換会	
G　通級指導教室	グループ別研修「教室施設見学・教室運営等」	

⑶　特別支援学校班

夏季休業中に東・西特別支援学校各校で，読み書きの支援などについて研修を行った。1月には，両校の実践を互いに発表し合う研修を行った。

3　成果と課題

⑴　成果

今年度も，「授業づくり」に焦点を当てて，児童が「分かった・できた」と実感できる授業の実現を目指して研修を進めてきた。

３回の班別研修では，日々の実践や教材・教具を紹介する，中学校の先生を講師に招いて小中の円滑な引継ぎや進路指導などを話題にする班もあった。通級指導教室班や病弱・弱視・肢体不自由班では，教室運営やアセスメントについて，より専門性を高める研修を行うことができた。

７月の全体研修では，児童の学びを保障するためのアプリケーションやタブレット端末の機能，様々な小道具の使い方などを，参加者が実際に手に取りながら確認することができた。また，12月の全体研修では，上越教育大学の関原真紀様と新潟テルサの会場をオンラインでつないだライブビューイング形式の研修を行った。応用行動分析の手法を用い，児童の行動の情報収集を適切に行い，望ましい行動を増やすことで，望ましくない行動を減らしていく手法を学ぶことができた。

⑵　課題

特別支援教育への児童・保護者のニーズは高まり，より専門性を求められるようになってきている。また，全職員で子どもたちを育てるという観点から，個への支援だけでなく，集団を育てることで個の望ましい行動を増やしていくという視点も必要となってくる。

そこで，来年度は，授業づくりの内容に，「自立と社会参加に向けて」という視点を加え，個に応じた支援や多様性を認め合える集団作りについても研修の幅を広げていきたいと考えている。

保　　健

部長　阿部　綾子（鳥屋野小学校）

研究主題
新たな健康課題に対応する力を高める子どもの育成
～ヘルスリテラシーを育む保健教育の実践と
ICT活用の推進～

1　研究主題設定の理由

⑴　ヘルスリテラシーを育む授業づくり

文部科学省の『現代的な健康課題を抱える子どもたちへの支援』では，現代的な健康課題へ対処していく力が求められていることが示されている。令和３・４年度，保健部では保健に関わる原理・原則や概念を根拠として対処を考えたり，判断したりする力を「ヘルスリテラシー」とし，保健教育を通してヘルスリテラシーを育むことが必要であると考えた。そこで，知識と行動の間に「判断すること」を取り入れることを大切にし，授業の中で「ヘルスリテラシーを発揮して子どもが考える場面」を設定した。望ましい行動を選択・判断する，身近な生活を想起して考える，考えの理由や変化を記述する，といったヘルスリテラシーを発揮して子どもが考える場面を授業に取り入れたことで，知識や概念，原則を基に望ましい行動を選択・判断する子どもの姿が得られた。今後も，新たな健康課題に対応するため，より望ましい行動を選択・判断する子どもの育成が求められる。

そこで，今年度はこれまでの研究を継続し，ヘルスリテラシーを発揮して子どもが考える場面を取り入れた授業づくりを行い，授業実践を積み重ね，成果を検証・評価していきたい。そして，子どもたちのヘルスリテラシーを育み，新たな健康課題に対応する力を高めていきたい。

⑵　保健教育におけるICT活用の推進

タブレット端末は子どもが分かりやすい授業を実現するための手段であり，養護教諭にとっても効率的に授業準備が進められる良さがある。昨年度までの部員の意見でも，作成した指導案を共有したい，ICTの効果的な活用について知りたいとの要望が多く寄せられていた。そこで，タブレット端末を活用した授業実践とICTに関する様々な情報の共有を図るため，保健教育共有ドライブの整備やICT活用の推進を図る。

2　研究の実際

〈５年「性の多様性～性別にも個性があるのだろうか～」　巻北小　橋本　直美　養護教諭〉

⑴　授業の構想と工夫

目指す子どもの姿「新たな健康課題に向け，望ましい行動を選択・判断する子ども」に迫るため，次の視点で検証する。

① 資料や発問は，子どもに望ましい行動を選択・判断させるためのものであるか。

導入に身近なアニメのキャラクターを用い，見た目で性別を区別していることに気付かせる。心・好きになる性別については，思春期保健相談士から講話を聞く機会があり，ある程度理解しているが，そこに表現する性も加えて「性のものさし」でよりよく理解ができるようにする。また，アニメのキャラクターや out in Japan の鈴木茂義さんのメッセージを伝え，自分と違う性別であるということが差別やいじめにつながってはいけないと考えることができるようにする。

② 子どもは，ヘルスリテラシーを発揮し，望ましい行動を選択・判断できるか。

男が男のアイドルを好きになる事例を通して，性を問わず様々な感じ方や考え方があり，どのように声を掛けると相手が傷付かないかを考えさせる。個人の考えをもたせた

後，グループで話合いを行わせる。友達の多様な考えに触れることで，自分と異なる性への感じ方など共感できることや違いに気付くことができるようにする。

⑵ **成果（○）と課題（●）**

① 選択・判断させるための発問や資料は有効であったか。

○ アニメのキャラクターで性別を考えた後，人間の性別を考える場面で，多様な性を表現している芸能人を紹介した。当初児童は「人間の性別は見た目ですぐ分かる」と答えていたが，芸能人を紹介すると「分からなくなってきた」「価値観がゆらぐ」とつぶやく姿が見られ，児童の思考のずれを生み出すことができた。

○ 性の多様性については，思春期健康相談士による講話で学習済みであった。「性のものさし」を使うことで，性は男女ではっきり分けなくてもよい，グラデーション上に位置付いていることをより理解していた。

○ 動画で当事者の声を聞いたりメッセージを伝えたりすることで，当事者の思いを受け止め，差別やいじめはいけないこと，性の話を打ち明けられた場合は相手を受け入れるとよいことを理解していた。

● 同性のアイドルが好きな先輩の事例を提示すると，児童は「難しい」「言われたことがないから困る」という反応を見せた。児童にとって身近ではない事例を扱う場合は，最初から資料の全てを提示するのではなく，一部を隠して児童に想像させながら提示するなど，児童が段階を追って思考することができるような働き掛けをするとよりよかったのではないかと思われる。

② ヘルスリテラシーを発揮した子どもの姿がみられたか。

○ 同性のアイドルが好きな先輩の事例は，生活経験の中で遭遇しない事例であったため，最初から一人で考えるのは難しいものであった。そこで，先輩と後輩の気持ちをそれぞれ全体で考えた後，自己解決の時間を設けた。それぞれの気持ちを考えたことで「生まれ持った性があるから気にしなくていいよ」「同じ性別の人を好きになるのは悪いことじゃない」「好きになる人は自分の自由だよ」など，多様な性についての知識をもとに，当事者に寄り添う言葉掛けを考えることができた。

○ 上記のような言葉掛けを考えることができていた一方で，グループでの話し合いは表面的な意見に終始している様子が多く見られた。そのため机間指導や意見の全体共有時に「実際に自分の友達から同じように言われたらどう思うか」と尋ねて，本音を引き出してから，動画を見たりメッセージを伝えたりした。振り返りには「最初は女の人が女の人を好きになるなんておかしいと思っていましたが，性について学んで，個性は人それぞれだからと思うことができました。」等の記述があり，性についての考え方が変容した様子が認められた。

● グループでの話合いは，友達の多様な考えに触れて考えを深めることを目的としたが，意見の共有で終わるグループが多数であった。話合い活動が活発化するような発問の追加や，共有ノートや思考ツールを使ってグループの考えをまとめる方法など，さらなる工夫を考える必要がある。

給食・食育

部長　長谷川　綾子（木崎小学校）

研究主題
食の楽しさや大切さに気付き，望ましい食生活を
送ることのできる子どもの育成
～実践化のための食に関する指導のあり方～

1　研究主題設定の理由

私たちにとって食は，生きていくために不可欠であると同時に，心や身体を満たす喜びや楽しさを伴うものである。しかしながら，現代においては，ライフスタイルや価値観の多様化，環境の変化等から，食に関する多くの問題が生じている。そのような中で，児童がこれからの社会をたくましく生き抜くには，食に関する正しい知識を身に付けることが重要である。また，食の知識や体験活動で得たことを生かし，課題解決のための意思決定をし，実践することが大切であると考え，研究主題を設定した。

2　研究の実際

主題に沿って課題を解決するためには，学校全体で組織的に食に関する指導を行うことが不可欠である。その中で栄養教諭等は，学級担任や教職員と連携し指導を行う必要がある。その際，一時間の授業で終わるのではなく，家庭や地域，各教科や特別活動における指導に繋げ，継続的な指導を行うことが求められる。

そのためには，カリキュラム・マネジメントの視点をより深く認識し，体系的に食育を進められるよう，実態把握を基に目標を定めることが重要である。

また，市小研給食・食育部としては，実際に児童に指導するための授業力の向上は欠かすことができない課題である。

このようなことから，一人一人が指導力の向上を図る授業実践と，組織的に食育を推進するための研修を軸に，今年度の活動を行った。

⑴　授業実践について

公開授業において研究主題を具現化するため，グループで指導案検討を重ねた。また，ICTの活用によって，子どもが考えを広げ深めることができる効果的な方法を探った。

公開授業に関わる部員以外は，各自授業構想カードを作成し，小グループ内で助言を得ながら実際の指導にあたった。

幅広く多くの学年・学級の指導を行うべき栄養教諭等にとって，限られた時間の中で児童の食への意識を変容に導く指導力や観察力，ICTを活用する力等が，より一層必要であると思った。

⑵　組織的に食育をすすめるための研修

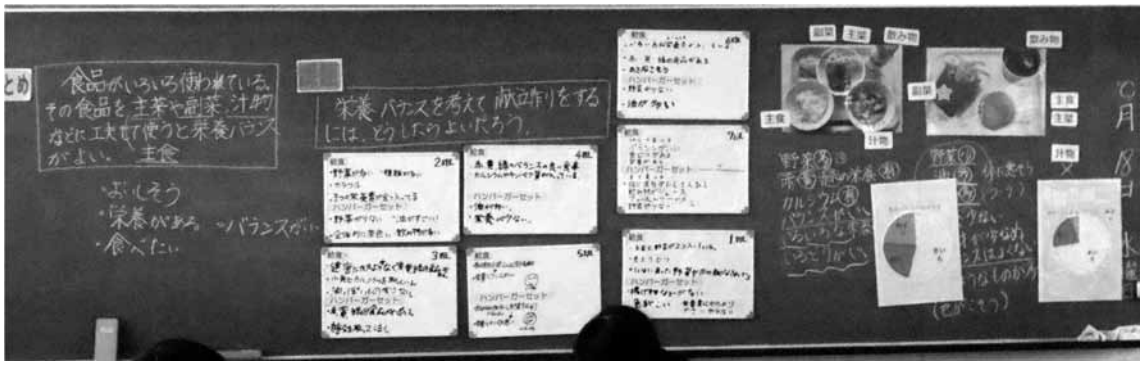
全体研修として，新潟医療福祉大学教授　森泉　哲也様より，カリキュラム・マネジメントや授業づくりについてご講演をいただいた。

食に関する指導の全体計画は，実態把握を基に目標をしっかりと設定し，実施後は検証を行い改善し，焦点化していくことが重要であることを学んだ。また，各学校の教育目標や理念に沿った食育を展開していくことが必要である。そこで，児童の実態を理解することによって，児童が課題を自分事として捉え，実生活に生かすことができる指導に結び付けて取り組んだ。

授業実践

〈６年　家庭科 「まかせてね　今日の食事」

授業者　坂井東小　吉川　貴子　教諭（Ｔ１）・小林　愛　栄養教諭（Ｔ２）〉



⑴　授業の構想と工夫

導入では，昨年度６年生が立てた給食の写真を提示し，給食の条件について考えた。

児童からは「給食＝栄養バランスのよい食事」という意見が多く挙がった。学級担任から「次の時間に１食分の給食の献立作成を行う」と説明を受けると「自分たちも栄養バランスのよい献立を考えたい」と学習へ向かう意欲が高まった。学習課題は「栄養バランスを考えて献立作りをするにはどうしたらよいだろう」である。

展開では，昨年度６年生が立てた給食とハンバーガーセットとの比較を行った。個人から班，班からクラスで意見を共有する活動を通じて，栄養のバランスや，使用している食品について考えを深めることができた。また，栄養教諭が主食・主菜・副菜・汁物の視点を与えることで，給食はそれらを組み合わせていることに気付くことができた。続いてスプレッドシートを活用し，給食とハンバーガーセットについて，３つの食品群別の使用量についての円グラフを児童へ示し，比較した。主食・主菜・副菜・汁物を組み合わせることで，栄養のバランスが整うこと（まとめ）への理解につながった。

⑵　成果（○）と課題（●）

○　給食とハンバーガーセットの比較は，児童にとって身近な食事内容であったことと,栄養バランスの違いにおいて差が明確である点から，児童が意欲的に取り組むことができ有効だった。

○　振り返りの部分で，授業では触れていなかった家庭での食事についても考え，発表している児童がいた。班で意見を交換することによって，友達の考えを共有し,自分と違う考え方に気づき，考えを深めることにつながっていた。

●　給食とハンバーガーセットとの比較の場面で児童からよい意見がたくさん出た。給食についての意見を主食・主菜・副菜・汁物に関連付けながら指導ができると，給食は主食・主菜・副菜・汁物がそろっていること，バランスがよいことへの児童の気付きにつながったのではないか。

●　ICTの活用について，スプレッドシートを取り入れ，給食とハンバーガーセットの栄養バランスについての比較が視覚的にできたのでわかりやすかった。課題として，スプレッドシートについては，栄養教諭だけでなく，児童がタブレット端末にて操作できるようになるとよい。（本時で２つの献立について比較する場面や，今後自分が考えた献立について栄養バランスの確認が可能になるため。）

学校事務

部長　近藤　　聡（葛塚小学校）

研究主題　「学校事務の可能性を追究して」

1　事務職員自らの資質向上及び実務能力を高める
2　連携による効率化と学校事務の標準化
3　働き方改革，多忙化解消に向けた取組の実践
4　自ら参画，提言できる事務職員の育成

1　研究主題設定の理由

事務職員はチーム学校の一員として，学校経営に積極的にかかわることが求められている。そのことから，各自が主体的に研修し，自らの資質向上を図るための研修体制を組んだ。そして，市小研の研修で得た知識や成果を学校で提案できる事務職員を目指し，その可能性を追究するためにこのような研究主題を設定した。

2　研究の実際及び成果と課題

(1)　テーマ別班別研修

①　実務・財務市費班「財務事務について知識を深め，学校財務健全化に繋げる」

授業支援アプリケーションを使いどのように財務研修ができるか，実際にタブレット端末を操作して確認した。また，市会計処理について留意点の確認，チェック項目の見直しを行った。ポイントを一覧にまとめたことにより，理解を深めることができ効率化にも繋がった。

②　実務・財務諸校費班「諸校費の効率化かつ各学校の課題解決を図る」

各校での諸校費事務の進め方や，教材費の取扱いについて研修した。資料を持ち寄り，教材費の調整や文書作成の仕方について意見交換し，課題解決に向けて取り組んだ。

③　実務・内申事務班「実務をとおして内申事務の知識を深める」

臨時職員を採用する際の事務手続き一覧の作成を行った。必要書類や事務処理の流れを確認することができ，今後の事務効率化に繋がる研修となった。また，各校からの事例共有や，事例を想定した事務手続きの確認作業を行い，新たな知識の獲得と内申事務に対する理解が深まった。

④　実務・給与班

「採用退職に係る厚生年金保険・雇用保険等の事務手続きについて理解を深める」

教育職員課の通知をもとに研修を行った。各校の事例も参考にし，採用・退職の手続一覧表や記載例を作成することで，手続きに関する知識を深め実務能力を高めることができた。

⑤　実務・旅費班

「旅費の職員向け資料を作成しながら，旅費の手続きについて理解を深める」

新採用向けの旅費資料と，自然教室・修学旅行の旅費資料の作成をテーマに２つのグループに分かれ研修を進めた。旅費資料の作成や各校の事例の共有を通じて，旅費事務について再確認し，理解を深めることができた。

⑥　実務・服務勤務班「業種別の服務勤務について知識を高める」

育児短時間勤務，男性の育児休業，部分休業制度，夏季休業中の服務勤務文書，療養休暇・分限休職についての資料の読み合わせを行った。また週休日の振替事例研修を行った。通知文の読み合わせや事例研修を行うことにより，些細な疑問の解決に繋がり，確かな知識が身に付いた。

⑦　実務・情報管理班「ＩＣＴ活用による業務の効率化」

多忙化解消・事務負担軽減を図るため，各校のＩＣＴを活用した業務改善事例を紹介し，共有を行った。授業支援アプリケーションの活用研修を行い，各機能についての理解を深めた。また，情報セキュリティーの観点から生成ＡＩについての通知を読み合わせた。

⑧　実務・学籍・教科書班「学籍・教科書事務について知識を高める」

統合型校務支援システムで行う転出入に関する事務作業と教科書事務執行管理システムの実務研修を行った。使ったことがない班員がほとんどだったため，実際に作業をしてみることで学籍・教科書の事務処理について理解を深めることができた。

⑨　学校福祉班「学校の福祉に関わる事務について様々な視点から知識を身に付ける」

児童福祉や障がい者福祉などの様々な福祉がある中で，学校の福祉を改めて考え，外部機関との連携，就学援助委任，福利厚生の３つの小班に分かれて研修を行った。ＩＣＴを活用した情報収集や情報交換を行い，学校福祉に関わる知識を広げ，理解を深めることができた。

⑩　事務改善効率化班「多方面からの情報を吸収し，校務のDX化を進める」

現状の様々な業務をより効率的に進めるために，企業や官公庁で取り入れられているデジタル技術（ＡＩやＲＰＡなど）について学んだ。またデジタル化することで，業務の効率化を図れるものについて考え，実践し，共有することで新たな発見へと繋がった。

⑪　キャリアスタート班「学校事務の基礎基本の定着」

知識や理解が十分ではない業務を共有し，それらの業務の中から班員がそれぞれテーマを決定し資料を作成した。作成した資料をすべての班員が根拠通知などを基に検証し，話合いと修正を重ねることで，問題解決への方策を実践的に学ぶことができた。

〈研修の様子〉

⑵　全体を通して

一人一人が主体的に活動内容を考え参加できるよう，研修は各自が希望する班に所属し班別で行った。また，班長経験のない部員から班長を担ってもらうことによって，必要な段取りやファシリテーションなどを学ぶ機会とした。１月の全体研修会はオンラインで実施し，所属班以外の研修の様子や成果・課題を共有した。

新潟市中学校教育研究協議会との連携の一環として，11月の一斉研修に希望する部員が参加した。参加者からは「中学校の実情に応じた発表内容は小学校のみの勤務経験の私にとって大変勉強になった。」「職員向けに作成した休暇制度ハンドブックや休暇簿の記入例など，校種を超えて利用できるものがありすぐにでも活用したい。」というような感想が聞かれた。学校事務において専門性を高め実践するためにも，連携を継続していく。

今年度から事務職員にもタブレット端末が貸与された。学校事務部として学校事務に有用であることを，実践を通して発信していく必要がある。様々な変化に対応でき，学校経営に積極的に関わる事務職員を目指し，学校事務の可能性を探っていきたい。

情報教育

部長　水越　泰宏（真砂小学校）

研究主題
Next GIGAに向けた情報活用能力の
着実な育成を目指して

１　研究主題設定の理由

GIGAスクール構想が本格的に始まって２年が経過し，子どもの学びの環境がドラスティックに変化した。また，社会が急激に変化し，Society5.0 時代の下，対話型生成AIサービスをはじめとする生成AIも登場した。現代社会では，ツールを組み合わせると，誰でも簡単に，そして無限にコンテンツを創り出すことができるようになった。

それでは，子どもたちは，何を，どのように学ぶとよいのだろうか。そこで，情報教育部では，上記に掲げた研究主題の下，３つの研修テーマを設けた。

２　研究の実際

今年度は，全部員が授業実践から学びを得ることができるよう，研修を２つのパターンに分けた。一つは，小グループで協働して一つの指導案を作成し，それを全員で実践するという研修である。もう一つは，代表授業である。これにより，全員が研修で学んだことの実践を通して，体験的に活用できると考えた。

⑴　３つのグループに分かれてのテーマ別研修

①　情報活用能力

子どもが，情報と情報とを結び付けて整理し，その単元で重視されるべき概念的知識を獲得するまでの授業を構想して実践する。

②　プログラミング

学習指導要領で求められている算数と理科の実践を基礎としつつ，他教科におけるプログラミング的思考を育成する授業づくり，micro:bit の活用を中心とする授業を構想し，実践する。

③　デジタル・シティズンシップ

デジタル社会をより善く生き抜くための資質を育成するための授業づくりを構想し，実践する。

⑵　代表授業

代表者を１名立てて，指導案について全員で検討し，授業後は全員で協議会を行う。１つの授業を，部員全員で見つめることで，それぞれの部員がもつ授業の視点を共有し，情報活用能力を育成する授業について考えていく。

３　授業実践

⑴　授業の構想と工夫

〈２年国語「馬のおもちゃの作り方」　内野小　伊藤慎太郎　教諭〉

①　本時のねらい

おもちゃの作り方を説明する文章について，カードを並び替えてフローチャートを作る活動を通して，順序通りに書くことや，順序を表す言葉の重要性に気付くことができる。

② 情報活用能力を育成する手立て

文章を基に作業の順序を並び替える活動を組織し，フローチャートで手順を表す場を設定する。

③ 本時の流れと実際

○ 本時の見通しをもつ。

まず，前時までに学習した教材文について，順番が間違っていておもちゃをうまく作ることができなかったことを共有する。

○ 「上手」の定義を理解し，学習課題をつかむ。

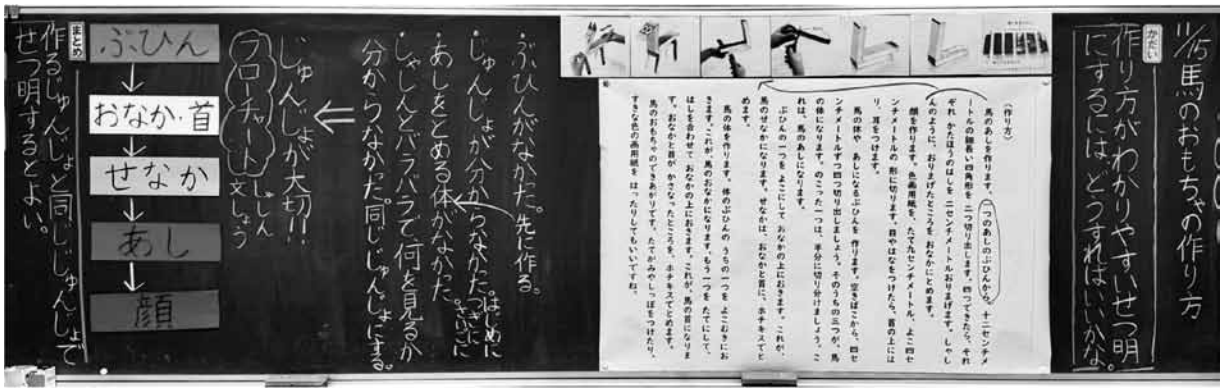
「簡単に」「早く」作ることを「上手に作る」という意味であることを定義し，子どもが課題を捉える際の土台をつくる。

○ 接続詞を基にフローチャートを作る。

教材文に示されている，「まず」「次に」などの接続詞に注目させ，正しい順序になるように，教材文を並び替える。その際に，フローチャートのようにカードを順序どおりに並び替えることを意識させる。

○ 振り返りを書く。

> 今日はフローチャートを勉強しました。フローチャートを使うと，並べやすいことが分かりました。次は，正しい順序で（馬のおもちゃを）作りたいです。



⑵ 成果と課題

【成果】

- フローチャートがあったおかげで，順序立てて理解することができた。
- 子どもたちが，文章の組み立てについて，他者と同じか違うかを判断することができたのは，フローチャートで自分の考えを整理して，表現していたからだろう。
- まとめに繋がる，「作る順序と同じ順序で説明するとよい」ことは，フローチャートで並び替える活動があったからこそ起きた学びのまとめであると言える。

【課題】

- フローチャートに写真があった方が，子どもは並び替えやすかったのではないか。
- 今回は，単線のフローチャートであったが，それが本当に正しい情報整理の仕方だったかは，今後検討しなければならない。
- 情報を整理するためのツールとして，何がどのような活動に有効なのか検証する必要がある。

３　令和５年度新潟市小学校教育研究協議会の組織・事業報告等

(1)　会 議 等…… 58

(2)　各研究部の事業…… 59

⑴ 会　議　等

【１期】

４・10（月）　評議員会（令和４年度事業・決算報告，令和５年度事業計画・予算案）
４・12（水）　理事・部長会（令和５年度　組織と運営，各研究部の事業推進）
５・10（水）　市小研の日（各研究部役員会　年間事業計画等の検討）
６・７（水）　市小研の日
６・19（月）　理事会（第２期市小研事業の決定）
７・５（水）　市小研の日
７・11（火）　「市小研だより」第117号　発行

【２期】

８・２（水）　研究発表会（国語部，体育部，保健部）
　　市小研の日（希望する研究部のみ，午後）
９・６（水）　市小研の日
９・13（水）　理事・部長会（オンライン）（第３期市小研事業の決定）
９・20（水）　にいがた子どもサミット（オンライン）

【３期】

10・25（水）　理事会（オンライン）
　　（第４期市小研事業の決定,令和６年度事業計画の大綱案）
11・１（水）　市小研の日
11・８（水）　にじいろ音楽祭
　～10（金）
11・10（金）　「市小研だより」第118号　発行
12・６（水）　市小研の日

【４期】

１・17（水）　市小研の日
２・７（水）　市小研の日（各研究部役員会　年間事業計画等の反省）
２・９（金）　理事・部長会（令和５年度事業報告，令和６年度事業計画案）
２・27（火）　「教育実践」　第67号　発行

⑵　各研究部の事業

	国　　語　　部
５月	＜役員会＞ 　会場：浜浦小 ・役員組織、事業計画の確認・研究計画の検討
６月	＜オンライン研修＞ 　会場：各勤務校 ・役員組織・事業計画・研究計画の提案 ・授業者の紹介
７月	＜オンライン研修＞ 　会場：各勤務校 ・講演会 　講師　富山国際大学　岩崎　直哉　様
８月	午前 ・市小研発表会 午後 ・指導案検討会（授業者，役員，授業検討部） 　他の部員は活動なし
９月	＜オンライン研修＞ 　会場：各勤務校 ・指導案検討
11月	＜地区別研修＞ ・研究授業並びに協議会 【西地区　下学年部】 　授業者　新通つばさ小 教諭　村上　清華　指導者　新飯田小　校長 畑　智　様 【西地区　上学年部】 　授業者　茨曽根小　教諭 長谷川　わかな　指導者　味方小　校長 佐々木 啓介 様 【東地区　上学年部】（オンライン） 　授業者　竹尾小　教諭　太田　真美　　指導者　牡丹山小　校長 中村 雅芳 様 ・中央地区・東地区下学年部（オンライン） 　会場：各勤務校 　１月以降の単元についての構想検討会
12月	＜地区別研修＞ ・研究授業並びに協議会 【中央地区　下学年部 　授業者　万代長嶺小 教諭　山代　仁美　　指導者　附属新潟小 教諭 中野 裕己様 【中央地区　上学年部】 　授業者　荻川小　　教諭 今井　千佳　　指導者　大鷲小　校長 柴澤　明子 様 【東地区　下学年部】（オンライン） 　授業者　新津第三小 教諭 佐々木 温子　　指導者　小合小　校長 松島 慎一郎 様 ・西地区・東地区上学年部（オンライン） 　会場：各勤務校 　１月以降の単元についての構想検討会
１月	＜オンライン研修＞ 　会場：各勤務校 ・今年度の研究・運営について総括 ・今年度の研究、運営，来年度の研究，運営についてのグループ協議
２月	＜オンライン役員会＞ 　会場：各勤務校 ・今年度の反省及び来年度の組織，事業計画についての検討

<table>
<tr><th></th><th colspan="3">社　　会　　部</th></tr>
<tr><td>5月</td><td colspan="3">＜役員会＞
オンライン開催
ホスト校：大形小学校（Zoom運営に携わる役員のみ参集）
事業計画・研究計画の検討，協議</td></tr>
<tr><td>6月</td><td colspan="3">＜全体会＞
対面開催
会場：巻文化会館
役員組織・事業計画・研究計画の提案，承認</td></tr>
<tr><td rowspan="2">7月</td><td colspan="3">＜ブロック別部会＞　オンライン開催</td></tr>
<tr><td>Aブロック
ホスト校：葛塚東小学校
研究授業指導構想検討会
グループ協議及び指導者による指導</td><td>Bブロック
ホスト校：亀田小学校
研究授業指導構想検討会
グループ協議及び指導者による指導</td><td>Cブロック
ホスト校：黒埼南小学校
研究授業指導構想検討会
グループ協議及び指導者による指導</td></tr>
<tr><td rowspan="2">8月</td><td colspan="3">＜ブロック別部会＞　対面開催</td></tr>
<tr><td>Aブロック
会場校：結小学校
有志会員による指導案検討会</td><td>Bブロック
会場：白根大凧の館
有志会員による巡検
（研究授業該当単元の教材収集等）</td><td>Cブロック
会場校：黒埼南小学校
有志会員による指導案検討会</td></tr>
<tr><td rowspan="2">9月</td><td colspan="3">＜ブロック別部会＞　オンライン開催</td></tr>
<tr><td>Aブロック
ホスト校：葛塚東小学校
研究授業指導案検討会
グループ協議及び指導者による指導</td><td>Bブロック
ホスト校：亀田小学校
研究授業指導案検討会
グループ協議及び指導者による指導</td><td>Cブロック
ホスト校：黒埼南小学校
研究授業指導案検討会
グループ協議及び指導者による指導</td></tr>
<tr><td rowspan="2">11月</td><td colspan="3">＜ブロック別部会＞　対面開催『研究授業』</td></tr>
<tr><td>Aブロック
会場校：結小学校
授業者：渡辺 良輔 教諭
授業公開・グループ協議・指導者による指導</td><td>Bブロック
会場校：上山小学校
授業者：伊藤 美澄 教諭
授業公開・グループ協議・指導者による指導</td><td>Cブロック
会場校：鎧郷小学校
授業者：眞島 拓也 教諭
授業公開・グループ協議・指導者による指導</td></tr>
<tr><td rowspan="2">12月</td><td colspan="3">＜ブロック別部会＞　Aブロックオンライン開催　B・Cブロック巡検</td></tr>
<tr><td>Aブロック
ホスト校：黒埼南小学校
実践・情報交換会
グループ協議・共有</td><td>Bブロック
会場：新潟市歴史博物館
（みなとぴあ）
学芸員の方による説明・案内
教材活用方法の情報交換</td><td>Cブロック
会場：新川排水機場
施設職員の方の説明・案内
教材活用方法の情報交換</td></tr>
<tr><td>1月</td><td colspan="3">＜全体会＞
対面開催
会場：白根学習館
60歳を迎えられる校長先生の講演会
講師：新潟市立豊栄南小学校 校長 小林 淳英 様
新潟市立日和山小学校 校長 宇ノ井 修二 様
新潟市立小瀬小学校　校長 布施 浩春 様</td></tr>
<tr><td>2月</td><td colspan="3">＜役員会＞
対面開催
会場：未定
今年度の反省及び来年度の組織・事業計画についての検討，協議
令和７年度全体発表のシナリオ検討</td></tr>
</table>

	算　　数　　部
５月	〈役員会〉※Zoomによるオンライン形式 ・令和５年度の役員組織・全体計画・研究計画の検討 ・授業社の選定方法について
６月	〈全体会〉※Zoomによるオンライン形式 ・令和５年度の役員組織・全体計画・研究計画の説明，及び質疑応答 ・教育研究発表会の発表内容，及び発表方法についての説明
７月	〈全体会→ブロック部会〉※Zoomによるオンライン形式 ・教育研究発表会リハーサル（全体会） ・11・12月の指導構想検討会（ブロック部会）
８月	・研究発表会参加（午前　全部員） ・指導案検討会（参加者は，授業者・算数部役員のみ）　会場：浜浦小学校
９月	〈ブロック部会〉※Zoomによるオンライン形式 ・今年度実施予定の研究授業についての指導案検討会
11月	〈ブロック部会〉※Zoomによるオンライン形式 ・授業協議会　※授業を視聴後，オンラインによる授業協議会 【低学年ブロック】 第２学年　単元名「三角形と四角形」 授業者：有明台小学校　　教諭　安達　友香 指導者：岡方第一小学校　校長　川又　由香　様 【中学年ブロック】 第３学年　単元名「円と球」 授業者：巻南小学校　　教諭　太田　泰仁 指導者：南万代小学校　　校長　平山　　誠　様 【高学年ブロック】 第５学年　単元名「図形の面積」 授業者：小針小学校　　教諭　小池　誠一 指導者：巻南小学校　　教諭　市川　　啓　様
12月	〈ブロック部会〉※Zoomによるオンライン形式 ・授業協議会　※授業を視聴後，オンラインによる授業協議会 【低学年ブロック】 第１学年　単元名「ひき算」 授業者：庄瀬小学校　　教諭　西脇　詩織 指導者：岡方第一小学校　校長　川又　由香　様 【中学年ブロック】 第４学年　単元名「分数」 授業者：中之口西小学校　教諭　本田　寛起 指導者：南万代小学校　　校長　平山　　誠　様 【高学年ブロック】 第６学年　単元名「データの活用」 授業者：新津第二小学校　教諭　風間　亜子 指導者：巻南小学校　　教諭　市川　　啓　様
１月	〈ブロック部会〉※Zoomによるオンライン形式 ・個人実践シート発表会（ブレイクアウトルームを用いた小グループによる）
２月	〈役員会〉※Zoomによるオンライン形式 ・令和６年度の役員組織・全体計画・研究計画の検討

	理　　科　　部
５月	＜役員会＞ 　会場：新津第三小学校 ・今年度の役員組織 ・今年度の事業計画 ・今年度の研究計画
６月	＜全体会＞ 　各グループの会場をオンラインで結んで実施 　　【３学年】葛塚東小学校　【４学年】巻北小学校　【５学年】下山小学校 　　【６学年】新津第三小学校　【ＩＣＴ】日和山小学校　【生活科接続】荻川小学校 ・今年度の役員組織 ・今年度の事業計画 ・今年度の研究計画の提案 ・質疑応答 ・グループごとの役割分担（授業公開者選出、授業公開単元協議、年間計画検討）
７月	＜グループ別研修＞ 　　【３学年】山田小学校 　　【４学年】東青山小学校 　　【５学年】新通つばさ小学校 　　【６学年】新津第三小学校 　　【ＩＣＴ】日和山小学校 　　【生活科接続】女池小学校 ・授業公開に向けた指導計画検討
８月	＜全体会＞ 　会場：新潟テルサ ・情報教育部と合同研修会 　　情報活用能力に関するブース（情報教育部担当） 　　デジタル・シティズンシップに関するブース（情報教育部担当） 　　プログラミングに関するブース（理科部） ・授業公開に向けた指導計画検討
９月	＜グループ別研修＞ 　各グループの会場 　　【３学年】山田小学校 　　【４学年】和納小学校 　　【５学年】新通つばさ小学校 　　【６学年】新津第三小学校 　　【ＩＣＴ】日和山小学校 　　【生活科接続】女池小学校 ・授業公開に向けた指導計画検討
11月	＜グループ別研修＞ 　各グループの会場 　　【３学年】山田小学校 　　【４学年】東青山小学校　授業協議会　授業者：東青山小学校　吉澤芙美子　教諭 　　【５学年】東中野山小学校　研究授業　授業者：東中野山小学校　佐藤　剛　教諭 　　【６学年】新津第三小学校 　　【ＩＣＴ】日和山小学校 　　【生活科接続】女池小学校 ・授業協議会、研究授業以外のグループは、授業公開に向けた指導計画検討
12月	＜グループ別研修＞ 　各グループの会場 　　【３学年】山田小学校　研究授業　授業者；山田小学校　景山　芳章　教諭 　　【４学年】東青山小学校 　　【５学年】新通つばさ小学校 　　【６学年】西内野小学校　研究授業　授業者；西内野小学校　尾崎龍士郎　教諭 　　【ＩＣＴ】中野山小学校　研究授業　授業者；中野山小学校　丸山　貴利　教諭 　　【生活科接続】女池小学校 ・研究授業以外のグループは、今年度の活動の振り返り
１月	＜全体研修＞ 　会場：江南区文化会館　多目的室 ・一年間の活動の振り返り，情報交換 ・次年度の活動についての提案 ・指導：担当理事　新津第三小校　校長　川合　千尋　様
２月	＜役員会＞ 　会場：新津第三小学校 ・今年度の活動の総括 ・次年度の役員組織 ・次年度の事業計画 ・次年度の研究計画の検討

	生　　活　　部
５月	10日　役員会　（15：00～　会場：東曽野木小学校） ・今年度の組織，運営，活動計画の検討　　・研究計画の検討
６月	７日　全体研修　（15：30～　会場：白根学習館ルーム１・2） ・今年度の組織，運営，活動計画について　　・研究計画について ・ブロックごとの役割分担
７月	５日　全体研修　（15：00～　会場：黒埼市民会館多目的ルーム） ・生活・総合におけるICT活用講座 講師：大野小学校　校長　片山　敏郎　様 ・研究計画に基づいた単元構想（グループ協議）
８月	２日　市小研発表会（　９：00～　会場：新潟テルサまたは各校オンライン参加） 指導案検討会（14：00～　会場：未定）※総括役員と授業者のみ 21日　指導案検討会（　９：00～　会場：小針小学校）※総括役員と授業者のみ
９月	６日　幼稚園と連携した研修（15：30～　会場：【A：沼垂幼稚園】【B：西幼稚園】） ・施設見学，写真撮影→思考ツールを用いたまとめと振り返り ・幼稚園教諭との情報交換
11月	１日　【Aブロック：おもちゃづくり研修】（15：00～　会場：鳥屋野小学校） ・身近な材料を用いたおもちゃづくりの実技研修・情報交換 【Bブロック：研究授業・協議会】（14：00～） ・授業者　新関小学校　教諭　目黒　久美子 「がっこうだいすきパート②」
12月	１日　【Bブロック：おもちゃづくり研修】（15：00～　会場：亀田西小学校） ・身近な材料を用いたおもちゃづくりの実技研修・情報交換 【Aブロック：研究授業・協議会】（14：00～） ・授業者　下山小学校　教諭　熊谷　瑶子 「うごくうごくわたしのおもちゃ」
１月	13日　全体会（15：00～　会場：各校オンライン参加） ・講演 講師：元 文部科学省主任視学官・前 文教大学教授　　嶋野　道弘　様 ・今年度の研修についてのアンケート
２月	７日　役員会（15：00～　会場　東曽野木小学校） ・今年度の運営，活動についての反省 ・来年度の研究計画，組織の検討

	音　　楽　　部
5月	＜役員会＞ 会場：葛塚東小学校 ・今年度の事業計画と研究全体計画の検討 ・仕事内容の確認と分担等
6月	＜全体会＞ 会場：亀田西小学校・各校（zoom） ・今年度の事業計画について ・全体研修①「学びの地図・宝箱を使ってみよう！」 　　②「今月の歌動画を作ってみよう！」
7月	＜全体研修会＞ 会場：各学校（zoom） ・全体研修「楽しさを思い出そう～歌声を取り戻すために～」 　講師　作曲家　富澤　裕　様
8月	＜全体発表会＞ 会場：新潟テルサ・各学校（zoom） ・全体発表視聴「算数部」「外国語部」「道徳部」
9月	＜ブロック別研修＞ 会場：Aブロック　大形小学校・亀田小学校（zoom） 　　Bブロック　立仏小学校・真砂小学校（zoom ・代表授業についての指導案検討 ・一人一実践「学びの地図」についての意見交流
11月	＜ブロック別研修＞ 会場：Aブロック　木戸小学校・各校（zoom） 　　・代表授業協議会 　　授業者：木戸小学校　山上莉奈　教諭 　　Bブロック　上山小学校・各校（zoom） 　　・「学びの地図」づくり
12月	＜ブロック別研修＞ 会場：Aブロック　葛塚東小学校・各校（zoom） 　　・「学びの地図」づくり 　　Bブロック　桜が丘小学校・各校（zoom） 　　・代表授業協議会 　　授業者：桜が丘小学校　髙見夏希　教諭
1月	＜全体研修会＞ 会場：Aブロック　葛塚東小学校　　Bブロック　上山小学校 ・今年度の研修の成果と課題 ・「学びの地図」「学びの宝箱」を用いた実践の交流 ・常時活動のアイディアの交流
2月	＜役員会＞ 会場：葛塚東小学校 ・今年度の反省と次年度の計画

	図　画　工　作　部
５月	＜役員会＞ 会場：巻南小学校 ・役員組織・事業計画・研究計画についての検討
６月	＜オンライン全体研修＞ 会場：下山小学校（北ブロック）　曽野木小学校（東ブロック）　小林小学校（西ブロック） ・令和５年度の組織・事業計画の説明 ・研究計画の提案
７月	＜実技研修会＞ 会場：早通南小（北ブロック）　亀田西小（東ブロック）　小林小学校（西ブロック） 「見方や考え方を広げる紙コップタワーの演習を通して」 講師　目白研心高校　開成高校　中野区立第５中学校　美術教師　花里　裕子　様
８月	発表会のみ
９月	＜美術館鑑賞研修（選択）＞ 新潟市美術館　　「前衛　写真の精神　なんでもないものの変容」 新潟市万代島美術館 「ヨシタケシンスケ展」
11月	＜講演会＞ 会場：日和山小（北ブロック）　亀田西小（東ブロック）　小林小学校（西ブロック） 「見方や感じ方の広がりと共感することについて］ 　～池田記念美術館での子どもたちとの出来事から～ 講師　上越教育大学　教授　松尾　大介　様
12月	＜オンライン研修会＞ 会場：早通南小（北ブロック）　亀田西小（東ブロック）　小林小学校（西ブロック） ・実践報告会
１月	＜講演会＞ 会場：天寿園 ・講演 「図工大好き、図工は大事、図工はダイナミックに」講師　小針小学校　校長　山田哲哉　様 「つくりつくりかえつくりつづける＜わたし＞」　講師　赤塚小学校　校長　南　伸裕　様
２月	＜役員会＞ 会場：巻南小学校 ・今年度の反省及び来年度の組織・事業計画・研究計画についての検討

	家　　庭　　部
5月	＜役員会＞ ・会場：白根小学校 ・役員組織・事業計画・研究内容の検討
6月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・役員組織・事業計画・研究内容の提案 ・グループ顔合わせ（題材や分担決め）
7月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・研修計画のグループ検討①（研修計画、授業構想カードの検討）
8月	発表会のみ
9月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・研修計画のグループ検討②（授業構想カードの検討）
11月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・研修計画のグループ検討③（授業構想カードの検討、デジタルカードの作成）
12月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・動画撮影（裁縫：ミシンの使い方、しつけの仕方、まち針の仕方）
1月	＜全体会＞ ・会場：白根小学校 ・研修計画のグループ検討④（授業実践の成果と課題の検討）
2月	＜役員会＞ ・会場：白根小学校 ・「活動の記録」綴じ作業及び今年度の反省 ・来年度の役員組織・事業計画・研究内容の検討

	体　　育　　部
５月	＜役員会＞ 　会場：沼垂小学校　（研究推進委員のみ） ・役員組織・事業計画・研究計画の検討・発表内容の検討
６月	＜全体会＞ 　会場：秋葉区文化会館 ・役員組織・事業計画・研究計画の提案・発表内容の検討
７月	＜グループ別研修＞ 【新研究グループ】小針小：三本研推委員長による提案授業・協議会 【新３本の矢作成グループ】沼垂小：ネット型・跳び箱の検討 【３本の矢活用グループ】内野小：４つの領域について検討
８月	＜研究発表会＞ 　会場：新潟テルサ・各校オンライン ＜グループ別研修＞ 【新研究グループ】小針小：三本研推委員長による提案授業　振り返り 【新３本の矢作成グループ】沼垂小：ネット型・跳び箱の検討 【３本の矢活用グループ】内野小：４つの領域について検討
９月	＜グループ別研修＞ 【新研究グループ】桃山小：田村教諭の公開授業　検討会 【新３本の矢作成グループ】沼垂小：ネット型・跳び箱の検討 【３本の矢活用グループ】内野小：４つの領域について検討
11月	＜グループ別研修＞ 【新研究グループ】桃山小：田村教諭の公開授業・協議会 【新３本の矢作成グループ】沼垂小：ネット型・跳び箱の検討 【３本の矢活用グループ】内野小：４つの領域について検討
12月	＜グループ別研修＞ 【新研究グループ】小針小：研究についての振り返り 【新３本の矢作成グループ】沼垂小：ネット型・跳び箱の検討 【３本の矢活用グループ】内野小：４つの領域について検討
１月	＜全体会＞ 会場：江南区文化会館 全体研修会　研修のまとめ
２月	＜役員会＞ 　会場：沼垂小学校（研究推進委員のみ） ・今年度の反省及び来年度の組織，事業計画についての検討

	道　　徳　　部
５月	＜役員会＞ 　会場：女池小学校 ・役員組織、事業計画、研究発表会プレゼン検討
６月	＜オンライン研修＞ 　会場：女池小学校及び各所属校 ・役員組織、事業計画、発表内容の提案・協議
７月	＜オンライン研修＞ 　会場：女池小学校及び各所属校 ・研究発表会に向けて、プレ発表会と協議
８月	＜市小研研究発表会＞ ・道徳部発表
９月	＜授業公開＞ 　会場：【西区、中央区の部員】五十嵐小学校 　　【その他の部員】各所属校 ・マイスターによる提案授業及び、講演会 　教材名：「すごい自然のショールーム（オリジナル教材）」 　授業者：五十嵐小学校　教諭　渡邉　泰治 　演題：「オリジナル道徳授業の作り方」
11月	＜講演会＞ 　会場：黒埼市民会館 ・演題：「子供の創造性を育む　一歩先を行く道徳授業づくり」 　講師：東北芸術工科大学　非常勤講師　佐藤　幸司　様
12月	＜オンライン研修＞ 　会場：女池小学校及び各所属校 ・授業公開及び協議会　※授業を撮影した動画をYouTubeにより事前配信 　教材名：「最後のおくり物」 　授業者：紫竹山小学校　教諭　山田　潤 　指導者：上越教育大学　特任准教授　菅原　友和　様
１月	＜ブロック別研修＞ 　会場：【Aブロック】黒埼市民会館　多目的ホール１ 　　【Bブロック】黒埼市民会館　多目的ホール２ ・「私の道徳授業」実践報告 ・今年度の活動について総括 　ご指導：女池小学校　校長　田中　修二　様
２月	＜役員会＞ 　会場：女池小学校 ・今年度の反省 ・来年度の組織、事業計画、研究計画の検討

	特　別　活　動　部
5月	＜役員会＞ 会場：ゆいぽーと ・今年度の組織・活動計画について ・各部の活動計画（研究推進部・子どもサミット部・特活タイム部）
6月	＜全体研修＞ 会場：西川多目的ホール ・今年度の組織・活動計画の提案 ・研修計画について ・「にいがた子どもサミット」について ・特活タイム①
7月	＜全体研修＞ 会場：西川多目的ホール ・授業実践から学ぶ 　講師：新潟大学付属新潟小学校　　村越　千紋　教諭 ・「にいがた子どもサミット」について ・特活タイム②
8月	＜担当者部会＞ 【研究推進部】 会場：各学校（オンライン） ・授業構想検討会 【子どもサミット部】 会場：各校（オンライン） ・「にいがた子どもサミット」打ち合わせ
9月	＜全体研修＞ 会場：各学校（オンライン） ・「にいがた子どもサミット」リハーサル ・授業構想検討会 ・特活タイム③
11月	＜全体研修＞ ・研究授業 【下学年】授業者　新潟市立下山小学校　　坂井　孝太郎　教諭 【上学年】授業者　新潟市立早通南小学校　　斎藤　和輝　　教諭
12月	＜全体研修＞ 会場：各学校（オンライン） ・レポート研修 ・特活タイム④
1月	＜全体研修＞ 会場：各学校（オンライン） ・研究のまとめ（研究授業のその後についても含む） ・「にいがた子どもサミット」の振り返り ・特活タイム⑤
2月	＜役員会＞ 会場：ゆいぽーと ・今年度の反省 ・来年度の計画の検討

	総　合　学　習　部
５月	〈役員会〉 会場：鳥屋野小学校 ・役員組織・事業計画・研究計画の検討
６月	〈対面研修〉 会場：鳥屋野小学校 ・役員組織・事業計画・研究計画の提案 ・今年度の各校の総合学習の単元計画の交流
７月	〈対面研修〉 会場：鳥屋野小学校 ・単元のサイクルと、課題設定を意識した各校の総合学習の単元計画の交流
９月	〈グループ別研修〉 会場：各グループの校区等 ・各グループ代表の単元計画に基づいた地域教材開発
11月	〈対面研修〉 会場：東山の下小学校　授業者　山本　啓介　教諭 ・研究授業公開・協議会
12月	〈オンライン研修〉 会場：各校 ・全部員による実践報告会
１月	〈オンライン研修〉 会場：各校 ・全部員による実践報告会
２月	〈役員会〉 会場：鳥屋野小学校 ・今年度の反省及び来年度の組織、事業計画についての検討

	外　国　語　部
５月	＜役員会＞ 　会場：天寿園大広間 ・役員組織・事業計画・研究計画の検討
６月	＜オンライン全体会＞ 　会場：亀田小学校（Zoom運営に携わる役員のみ） ・役員組織・事業計画・研究計画の提案 ・８月発表スライド視聴
７月	＜講演会＞ 　会場：亀田小学校（Zoom運営に携わる役員のみ） 　・演題「授業改善の現状と課題 　　～あんた，その評価に「愛」はあるんかい？～」 　講師　岐阜聖徳学園大学教育学部　准教授 加藤　拓由　様
８月	＜市小研　発表＞ 　会場：新潟テルサ
９月	＜講演会＞ 　会場：天寿園 ・演題「新潟市小学校外国語教育のこれまでとこれから 　　～Back to the Future～」 　講師　新潟市立葛塚小学校　教頭　茂木　智弘　様
11月	＜オンライン・直接参観＞ ・公開授業 　会場：葛塚小学校・東山の下小学校（Zoomと直接参観のハイブリッド開催） 　①単元名　NHE６ Unit６ Let's think about our food 　　『YOUは何を食べに日本へ？～おすすめの和食メニューを紹介しよう！～』 　　授業者：東山の下小学校　佐々木泰史（６年） 　　指導者：新潟市立葛塚小学校　教頭　茂木　智弘　様 　②単元名　NHE６ Unit６ Let's think about our food 　　『満天？葛塚レストラン～わがままなお客さんを納得させよう～』 　　授業者：葛塚小学校　日水　希美　教諭（６年） 　　指導者：新潟市教育委員会学校支援課　指導主事　村上　大樹　様 ・協議会
12月	＜オンライン全体会＞ 　会場：亀田小学校（Zoom運営に携わる役員のみ） ・研究授業の振り返り
１月	＜オンライン全体会＞ 　会場：亀田小学校（Zoom運営に携わる役員のみ） ・今年度の研修のまとめ ・新年度の教科書研修
２月	＜役員会＞ 　会場：天寿園大広間 ・今年度の反省及び来年度の組織，事業計画についての検討 ・来年度の研修発表の検討

	学校図書館部（教諭部）	学校図書館部（司書部）
5月	＜役員会＞ 会場：横越地区公民館 ○役員組織・事業計画・研究計画の検討	
6月	＜全体研修＞ 会場：横越地区公民館 ○役員組織・事業計画・研究計画の提案	＜地区別研修＞ 【A 北区・江南区】亀田西小 【B 東区・秋葉区】荻川小 【C 中央区・南区】紫竹山小 【D 西区・西蒲区】岩室小 【E 全体幹事　　】鳥屋野小 ○各地区別研修計画の決定
7月	＜全体研修＞ 会場：横越地区公民館 ○読書指導技能研修 講師　学校図書館支援センター 石山　さおり　様 演題「アニマシオンについて」	＜全体研修＞ 【A 北区・江南区】松浜小 【B 東区・秋葉区】小須戸小 【C 中央区・南区】新飯田小 【D 西区・西蒲区】立仏小 【E 全体幹事　　】東山の下小 ○書評研修，司書の実践の集約と確認
9月	＜教諭部と司書部の合同研修＞ 会場　白根学習館　ラスペックホール ○読書指導技能研修 講師　新潟市立関屋小学校　校長　川又　健司　様 演題 「図書館に足を運ばせるささやかな工夫」 ○情報交換会 テーマ 「教員と司書の連携について」	
11月	＜オンライン研修＞ ○授業公開 ①五十嵐小学校 平岡 明子 教諭と綱島 幸恵 学校司書 ４年生総合的な学習 ②結小学校 五十島律子 教諭と渡部規久子 学校司書 ６年生総合的な学習 それぞれの録画を視聴しながら，ブレイクアウトルームで協議。	＜地区別研修＞ 【A 北区・江南区】岡方第一小 ○国語教科書単元のブックトーク研修 【B 東区・秋葉区】荻川小 ○図書館実務集作成（本に親しむ） 【C 中央区・南区】鏡淵小 ○テーマ別選書研修 【D 西区・西蒲区】黒埼南小 ○国語教科書掲載図書紹介・ブックトーク研修 【E 全体幹事　　】各勤務校（オンライン会議） ○教諭部研修授業の参観 ※全地区「私のすすめる本」提出
12月	＜全体研修＞ 会場：味方小学校 ○おすすめの本情報交換	＜地区別研修＞ 【A 北区・江南区】曽野木小 ○国語教科書単元のブックトーク研修 【B 東区・秋葉区】大形小・新津第一小 ○図書館実務研修作成（情報活用） 【C 中央区・南区】白根小 ○選書図書発表，読み聞かせ・ブックトーク記録交換 【D 西区・西蒲区】内野小 ○国語教科書掲載図書紹介・ブックトーク研修 【E 全体幹事　　】牡丹山小 ○ブックトーク研修（高学年にすすめる本）
1月	＜オンライン研修＞ 会場：各勤務校（オンライン会議） ○図書館活用授業実践発表 ブレークアウトルームで実践発表 ○１年間の反省 オンラインアンケートフォームで回答	＜地区別研修＞ 【A 北区・江南区】各勤務校（オンライン会議） 【B 東区・秋葉区】各勤務校（オンライン会議） 【C 中央区・南区】浜浦小 【D 西区・西蒲区】各勤務校（オンライン会議） 【E 全体幹事　　】白山小 ○今年度のまとめ及び次年度の研修内容立案
2月	＜役員会＞ 会場：横越地区公民館 ○今年度の反省及び次年度研修計画の検討	

	生　徒　指　導　部
5月	＜役員会＞ 　会場：日和山小学校 ・今年度の研修計画づくり
6月	＜オンライン研修＞ 　会場：中地区公民館 ・研究計画の提案
7月	＜オンライン講演会＞ 　会場：日和山小学校（役員のみ）　部員は各所属校 ・演題「生徒指導と学習指導をつなげる3つの宝箱」 　講師　北海道中富良野町立中富良野小学校 　教諭　渡邊　雄大様
8月	＜市小研研究発表会＞ 　会場：新潟テルサ　各所属校（Zoom参加の学校）
9月	＜全体研修＞ 　会場：江南区文化会館 ・研究の概要説明 ・部員アンケート（教師の手立てについて）
11月	＜オンライン研修＞ 　会場：豊坂地区公民館（役員のみ）　部員は各所属校 ・研究の概要説明 ・部員アンケート（教師の手立てについて） ・情報交換
12月	＜オンライン研修＞ 　会場：スポーツ医科学センター ・演題「新潟市の支持的風土の考え方と生徒指導部の研究について」 　新潟市教育委員会　学校支援課　教育課程班 　指導主事　齋藤　まゆみ様
1月	＜役員会＞ 　会場：日和山小学校（役員のみ）　部員は各所属校 ・今年度の研修のまとめ ・部員アンケート（担当学級の見取りについて）
2月	＜オンライン役員会＞ 　会場：日和山小学校（役員のみ） ・今年度の反省及び来年度の組織，事業計画についての検討

	特 別 支 援 教 育
5月	＜役員会＞ 　会場：新潟テルサ　特別会議室 ・役員組織・事業計画・研究計画の検討
6月	＜全体研修＞ 　会場：北区文化会館　ホール ・役員組織・事業計画・研究計画の提案
7月	＜全体講演会＞ 　会場：秋葉区文化会館　ホール 　講演　「学習への困り感を抱える児童へのICT支援」 　講師　新潟市障がい者ICTサポートセンター　　山口　俊光　様
8月	8/2　研究発表会（ハイブリッド）に参加（各自） 【特別支援学校】8/24　オンライン「「『できない』『したくない』には理由がある～困難の背景を探り，子どもと一緒に学び方を探していく～」
9月	＜班別研修＞ 【北・東区】　北地区コミュニティーセンター 　講演会「特性に応じた教科学習での教材の工夫」講師：室澤 瑛 先生（葛塚東小） 【中央区】　新潟テルサ 　講演会「学校と福祉の連携について」 　講師：多田 比外美 様（機関相談支援センター中央） 【西区】　オンライン　講演会「愛着障害について」講師：青木 武史 先生（小針小） 【江南・秋葉区】曽野木コミュニティーセンター 　講演会「特別支援学級の学級経営」講師：阿部 直子 先生（上山小） 【南・西蒲区】　オンライン 　講演会「学習に困難を示す児童への支援」講師：木村 杏子 先生（鏡淵小） 【病弱・弱視・肢体不自由】新潟小学校　「中学校特別支援Coの先生との情報交換会」 　パネラー：高橋 映子 先生（鳥屋野中）、牛腸 奈穂 先生（東新潟中） 【通級指導教室】巻南小学校　情報交換「読み書きのアセスメント」 　情報提供：岡田 敏通（内野小） 　「通級指導教室設置状況等調査2023」結果報告
11月	＜班別研修＞ 【北・東区】　北地区コミュニティーセンター　　情報交換会「iPadの活用」 【中央区】　新潟テルサ　　実践紹介「学級におけるICTを使用した授業実践紹介」 【西区】　坂井輪地区公民館 　講演会「通級指導教室」講師：山田 園美 先生（巻南小通級指導教室） 【江南・秋葉区】新津地域学園　　教材・実践紹介 【南・西蒲区】　白根学習館 　講演会「中学校での特別支援学級の様子及び卒業後の進路について」 　講師：宮村 祥子 先生（赤塚中） 【病弱・弱視・肢体不自由】関屋小学校　　実践紹介・情報交換会 【通級指導教室】言語・難聴　白根小学校　　教室施設見学・教室運営等 　発達　　黒埼南小学校　教室施設見学・教室運営等
12月	＜全体講演会＞ 　会場：新潟テルサ　ホール 　講演「ポジティブな支援で子どもが育つ学級づくり・授業づくり Part２」 　上越教育大学　准教授　　関原　真紀　様
1月	＜班別研修＞ 【北・東区】　オンライン 　講演会「卒業後の進路について」 　講師：岸本 ルミ子 様（江南高等特別支援学校） 【中央区】　新潟テルサ　研修室　　テーマ別実践紹介 【西区】　オンライン　「校内UD化について情報交換」 【江南・秋葉区】亀田地区コミュニティーセンター　教材・実践紹介 【南・西蒲区】　白根学習館　情報交換・実践発表 【病弱・弱視・肢体不自由】オンライン　情報交換会 【通級指導教室】言語・難聴　内野小学校　教室施設見学・教室運営等 　発達　　荻川小学校　教室施設見学・教室運営等 【特別支援学校】東特別支援学校「令和５年度の校内研修のまとめ（ポスター発表）」 　西特別支援学校「令和５年度の校内研修のまとめ（ポスター発表）」
2月	＜役員会＞ 　会場：新潟テルサ　中会議室 　・今年度の反省と次年度の研修計画検討・引継

	保　　健　　部
5月	＜役員会＞ ・事業計画，研究計画の検討
6月	＜オンライン全体会＞ ・事業計画，研究計画の提案 ・講演 「NITS伝達講習：現代的な健康課題に対応する力を高める保健教育」 　講師：保健給食課　指導主事　本間　道子　様 ＜地区班別研修＞ ・研究計画についての質疑 ・職務の情報交換
7月	＜ハイブリット班別研修（集合orリモート）＞ 題材班別（メディア・がん教育・性・コミュニケーション力）・ICT推進班 ・先行実践の把握、共有 ・指導内容の検討（目指す子どもの姿等） ・ICTの効果的な運用方法についての検討
8月	＜研究発表会参加＞
9月	＜ハイブリット班別研修（集合orリモート）＞ 題材班別（メディア・がん教育・性・コミュニケーション力）・ICT推進班 ・授業構想カードの検討 ・指導内容の検討 ・ICT活用調査
11月	＜ハイブリット班別研修（集合orリモート）＞ 題材班別（メディア・がん教育・性・コミュニケーション力）・ICT推進班 ・指導案の作成と検討 ・ICTに関する情報提供
12月	＜ハイブリット班別研修（集合orリモート）＞ 題材班別（メディア・がん教育・性・コミュニケーション力）・ICT推進班 ・授業実践後の振り返り ・アプリに関するミニ講習会
1月	＜オンライン全体会＞ ・今年度の市小研の活動についてのまとめ ・班別研修の部内報告会 　ご指導：保健給食課　指導主事　倉澤　由紀子　様 ＜ハイブリット班別研修（集合orリモート）＞ ・今年度の班別研修まとめ　授業公開者選定
2月	＜役員会＞ ・今年度の反省及び来年度の事業計画、研究計画についての検討

	給 食・食 育 部
5月	＜役員会＞ 　会場：新潟テルサ会議室 ・役員組織・事業計画・研究計画の検討
6月	＜オンライン全体会＞ 　会場：新潟県学校生活協同組合 ・講演会「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくり」 　講師：新潟医療福祉大学　教授　森泉　哲也　様 ・班別研修・役割分担の確認・公開授業の計画
7月	＜班別研修＞ 　会場：新潟県学校生活協同組合　及び　４人程度の小グループ研修 ・授業構想カードの作成・検討 ・指導案検討
8月	＜指導案検討会＞ 　会場：坂井東小学校 ・指導案検討（指導案検討班のみ活動）
9月	＜班別研修＞ 　会場：坂井東小学校　及び　４人程度の小グループ研修 ・授業構想カードの作成・検討・授業改善報告 ・指導案検討
11月	＜公開授業研究協議会＞ 　会場：坂井東小学校　及び　４人程度の小グループ研修 ・オンラインによる授業動画視聴・協議会・ご指導 　指導者：保健給食課　指導主事　斎藤　雅敏　様 　　保健給食課　指導主事　安齊　香織　様
12月	＜班別研修＞ 　会場：新潟県学校生活協同組合　及び　４人程度の小グループ研修 ・小グループごとに今年度の研修の反省・意見の集約
1月	＜オンライン全体会＞ 　会場：各校zoom　（Zoom運営に携わる役員のみ内野小学校） ・今年度の研修および公開授業等のまとめ ・小グループ活動の発表
2月	＜役員会＞ 　会場：内野小学校 ・今年度の反省及び来年度の組織，事業計画についての検討

	学　校　事　務　部
５月	＜役員・幹事・班長会＞ 会場：新潟県学校生活協同組合 ・今年度の組織，運営，研修計画の検討
６月	＜全体会＞ 会場：新潟市立総合教育センター大研修室 ・前年度活動報告，会計報告 ・今年度の組織，運営，研修計画，活動日程，予算について ＜班別研修会＞ ・今年度の研修計画（テーマ，内容決め）について
７月	＜班別研修会＞ 【内申事務班】黒埼南小学校，オンライン　【服務勤務班】大野小学校 【情報管理班】日和山小学校　【学校福祉班】味方小学校，秋葉区役所 【事務改善効率化班】丸山小学校　【キャリアスタート班】巻南小学校 【その他の班・役員会】秋葉区役所，オンライン，亀田東小学校（ホスト会場） ・テーマ別班別研修
８月	なし
９月	＜班別研修会＞ 【財務市費班】新通つばさ小学校　【内申事務班】黒埼南小学校，オンライン 【服務勤務班】大野小学校　【情報管理班】日和山小学校 【学籍・教科書班】鳥屋野小学校　【学校福祉班】味方小学校，秋葉区役所 【事務改善効率化班】市役所ふるまち庁舎　【キャリアスタート班】巻南小学校 【その他の班・役員会】秋葉区役所，オンライン，亀田東小学校（ホスト会場） ・テーマ別班別研修
11月	＜班別研修会＞ 【財務市費班】小須戸小学校　【内申事務班】曽野木小学校，オンライン 【服務勤務班】大野小学校　【情報管理班】日和山小学校 【学籍・教科書班】鳥屋野小学校　【学校福祉班】味方小学校，秋葉区役所 【事務改善効率化班】丸山小学校　【キャリアスタート班】巻南小学校 【その他の班・役員会】秋葉区役所，オンライン，亀田東小学校（ホスト会場） ・テーマ別班別研修
12月	＜班別研修会＞ 【内申事務班】黒埼南小学校，オンライン　【情報管理班】日和山小学校 【学籍・教科書班】鳥屋野小学校　【事務改善効率化班】市内民間企業 【その他の班・役員会】総合教育センター，オンライン，亀田東小学校（ホスト会場） ・テーマ別班別研修
１月	＜全体研修会＞ 会場：各校（オンライン）　ホスト会場：新潟県学校生活協同組合（役員・幹事・発表者） ・班別研修報告，まとめ，次年度の活動について
２月	＜役員・幹事・班長会＞ 会場：新潟県学校生活協同組合 ・今年度の研修の振り返り、会計報告 ・次年度の組織，事業計画の検討

	情　報　教　育　部
５月	〈役員会〉 会場：黒崎市民会館 ・事業計画および研究計画の検討
６月	〈オンライン全体会〉 会場：大野小学校（Zoom運営に携わる役員） ・研究推進委員会による研究についての説明
７月	〈全体研修〉 会場：新潟テルサ 講演「渋谷区における実践」（渋谷区立千駄谷小学校　主幹教諭　鍋谷正尉　様） 　「デジタル・シティズンシップ　はじめのいっぽ」 （高森町立高森北小学校　司書　宮澤優子　様） 　「プログラミング教材体験」（ユーレカ工房　斎藤博　様） ＊選択研修
８月	〈合同研修〉 会場：新潟テルサ ＊理科部との共催。各部が内容の異なるグループを設定し、それぞれの部員が希望したグループに参加。 【情報教育部】情報活用能力またはデジタル・シティズンシップについての講演動画を視聴 【理科部】micro：bitの体験
９月	〈オンライン指導案検討会〉 会場：大野小学校（Zoom運営に携わる役員）
11月	〈オンライン研修〉 会場：各地区ごとに会場を設定 ＊各会場に部員が集まり、ホスト校から配信されるZoomを見ながら研修 研修テーマ「生成AIについて」
12月	〈オンライン研修〉 会場：上所小学校（Zoom運営に携わる役員） ・オンライン授業公開および協議会　＊Googleドライブに保存した授業動画を視聴 第２学年　国語「馬のおもちゃの作り方」 授業者：内野小学校　伊藤慎太郎　教諭
１月	〈オンライン研修〉 会場：上所小学校（Zoom運営に携わる役員） ・グループごとに、各部員がこれまで実践してきた内容の紹介および協議
２月	〈役員会〉 会場：真砂小学校 ・今年度の反省と次年度の方向性の検討 （組織、事業計画、研究計画　等）

４　付　　録

(1)　新潟市小学校教育研究協議会のあゆみ……　80

(2)　新潟市小学校教育研究協議会規約……　88

(1) 新潟市小学校教育研究協議会のあゆみ

代	会　　長	研　究　の　あ　ゆ　み	研究部数	教育実践	
				号	発行年度
初	長谷川　　清	市小研結成　昭和24年７月21日 市内小学校全教員の自主的参加の下に結成 国語，社会，算数，理科，音楽，図工，体育，家庭，生活指導，学校図書館，特殊教育の11の部が自主的に活動。			
2	栃　倉　　巧	会全体としての活動が初めて計画される ２回の講演会を実施　講師　松宮克也（ＮＨＫ解説員），幸田文（作家） ８教科，生活指導，図書館，特殊教育で活動	(11部) (11部) (11部)	1 2 3	32 33 34
3	巻　口　政　吉	会員約1000名，新学習指導要領完全実施前年として新教育課程づくりに全力を注ぐ	(11部)	4	35
4	松　浦　雅　公	道徳，特別教育活動部新設 生活指導部解消　地区別研究体制の開始（８地区） 生活指導部新設	(13部) (12部) (12部) (13部)	5 6 7 8	36 37 38 39
5	佐　藤　彰　治	学校行事部新設	(14部) (14部)	9 10	40 41
6	岩　野　　厳	指導要領改訂に伴うカリキュラム研究を各部で開始	(14部) (14部)	11 12	42 43
7	渡　部　忠　一	新教育課程移行措置対策委員会を特設	(14部)	13	44
8	日　浦　儀一郎	学校行事部解消，学校事務部新設 当協議会の略称を「市小研」と決め，全市的な活動を行う「市小研の日」を設置（５～２月の９回）	(14部) (14部) (14部)	14 15 16	45 46 47
9	樋　浦　辰　治	養護部新設	(15部) (15部)	17 18	48 49
10	羽二生　恵太郎	教育実践20号記念座談会開催	(15部) (15部)	19 20	50 51
11	佐　藤　三　郎	会員約1600人の大世帯に　効果的な運営方法について検討を開始	(15部) (15部)	21 22	52 53
12	鈴　木　　健	養護部を保健部と改組 生活指導部を生徒指導部と改称	(15部) (15部) (15部)	23 24 25	54 55 56
13	若　林　　栄	栄養職員を保健部へ	(15部) (15部)	26 27	57 58
14	宮　島　　新	会員数1700名を超える	(15部)	28	59
15	松　山　正　男	市小研総会で講演会を実施　講師　ＮＨＫ新潟放送局小林局長	(15部) (15部) (15部)	29 30 31	60 61 62
16	西　脇　　進	学校経営部新設	(15部) (16部)	32 33	63 平元
17	本　間　道　夫	生活科研究委員会新設 生活科研究委員会解消，生活科研究部新設	(17部) (17部)	34 35	2 3
18	田　澤　一　穂	保健部を保健部と給食部に分離	(18部) (18部)	36 37	4 5

代	会　　長	研　究　の　あ　ゆ　み	研究部数	教育実践	
				号	発行年度
19	関　矢　　恂		(18部)	38	6
		学校週５日制に伴う，組織・運営の改善	(18部)	39	7
		学校経営部解消，情報教育部新設	(18部)	40	8
20	高　橋　二　郎		(18部)	41	9
		創立50周年記念事業の計画検討	(18部)	42	10
21	里　村　辰之助	創立50周年記念総会・公演会（オペラ歌手　中沢　桂）	(18部)	43	11
22	大　津　隆　一		(18部)	44	12
		特殊教育部を障害児教育部に改称	(18部)	45	13
23	山　岸　　巖	総合学習部新設	(19部)	46	14
			(19部)	47	15
24	品　田　　稔		(19部)	48	16
			(19部)	49	17
		市町村合併に伴い，会員数約2600人に，研究発表会を午前，午後の二部制で実施	(19部)	50	18
25	本　多　博　行	障害児教育部を特別支援教育部に改称	(19部)	51	19
26	杉　中　　宏	研究発表会を報道機関に公開	(19部)	52	20
		研究発表会を保護者に公開	(19部)	53	21
		新潟市小学校音楽祭を「にじいろ音楽祭」と命名する	(20部)	54	22
		外国語活動部新設	(20部)	55	23
27	近　藤　文　男	図工部が「水と土の芸術祭小学校プロジェクト」と連携し公開授業を実施	(20部)	56	24
28	梅　津　玲　子	研究発表会を中学校事務職員，社会教育関係者に公開	(20部)	57	25
29	田　中　賢　一	研究発表会を中教研に公開	(20部)	58	26
		秋葉区ふれあい音楽会が合流し，全区の小学校参加による「にじいろ音楽祭」の開催			
		研究発表会を学校図書館支援センターに公開	(20部)	59	27
30	吉　原　修　英	給食部を給食・食育部に改称	(20部)	60	28
31	渡　辺　　徹	社会部の社会科副読本の編集と市小研主管事業への位置付け 市小研の法人化と印税対応措置 講師，助教諭，臨時職員の会費の免除	(20部)	61	29
32	大　井　　隆	市小研70周年記念事業の準備開始 市小研主管事業，委託事業の見直し	(20部)	62	30
		市小研70周年記念式典及び講演会（３会場），リーフレット発刊，70年の歩みを振り返る映像作成，記念祝賀会を行う。	(20部)	63	令元
		新型コロナ感染症の影響により研究発表会を中止。オンライン研修推進ためのZoomアカウント有料契約を取り交わす。	(20部)	64	令２
		各部新型コロナ感染症の状況を考慮しながら，人数を制限したり，オンラインで開催したりと工夫して運営 研究発表会はオンラインと対面のハイブリッド方式で実施（午前の部のみ） 「児童による情報交換会」は「にいがた子どもサミット」改称し，オンラインで開催	(20部)	65	令３

代	会　　長	研　究　の　あ　ゆ　み	研究部数	教育実践	
				号	発行年度
33	山　田　哲　哉	新型コロナウイルス感染症の状況を考慮しながら，対面では人数を制限したり，オンラインで開催したりと工夫して運営をした。５類移行後の部会は，オンラインと対面のハイブリッドで運営をした。 研究発表会はオンラインと対面のハイブリッドで，午前の部１回のみの発表とした。 「にいがた子どもサミット」は，オンラインで開催した。 科学研究発表会・理科作品展の運営は，新潟市総合教育センターへ移行された。 「社会科副読本」の電子版の運用を開始し，内容の改訂をした。	（20部） （20部）	66 67	令４ 令５

◇研究発表会等

代	研究発表会 期日・会場	内容（数字は発表者等の数）	重点研究部門
初			
2	33. 2 日報ホール	発表　図工１　理科１ 講演　幸田　文	
	34. 2．18 日報ホール	発表　音楽１　国語１　算数１ 生活指導１ 講演　木村　毅	
	35. 2 日報ホール	発表　家庭１　社会１　体育１	社会　算数　体育
	36. 2 日報ホール	発表　理科２　音楽１　生活指導２	理科　音楽　生活指導
3	37. 2 日報ホール	発表　国語１　図工２　家庭２	国語　図工　家庭
4	38. 2 日報ホール	発表　理科　道徳	理科　道徳　体育　特活
	39. 9．12 日報ホール	発表　道徳１　体育１ パネル　道徳　体育１	道徳　体育　算数　社会
	40. 2．10 日報ホール	発表　社会１　算数１ パネル　社会　算数	社会　算数　国語　図工
5	41. 2．9 市公会堂	発表　国語１　図工１ パネル　国語　図工１	国語　図工　音楽　家庭
	42. 2．15 市公会堂	発表　音楽２　家庭１　パネル　家庭	音楽　家庭　理科　特活
6	43. 2．14 市公会堂	発表　特活１　理科３　パネル　特活	特活　理科　社会　体育 特殊
	44. 2．12 市公会堂	発表　社会１　体育１ パネル　特殊　図書館	図書館　社会　体育　特殊 図書館　算数　音楽　行事 生活
7	45. 2．4 市公会堂	発表　算数１　学校行事１ パネル　生活指導　音楽	算数　音楽　生活　行事 国語　家庭　道徳
8	46. 2．3 市公会堂	発表　国語　家庭　道徳（各３）	国語　家庭　道徳　理科 図工　特活
	47. 2．2 市公会堂	発表　理科　図工　特活（各３）	理科　図工　特活　社会 体育　図書館
	48. 2．7 市公会堂	発表　社会　体育　学校図書館（各3）	社会　体育図書館　国語 家庭　特別活動
9	49. 2．6 市公会堂	発表　国語　家庭　特活（各３）	国語　家庭　特活　算数 音楽　道徳
	50. 2．6 市公会堂	発表　算数３　音楽２　道徳	算数　音楽　道徳　図工 体育　生活指導
10	51. 2．4 市公会堂	発表　図工２　体育３　生活指導	図工　体育　生活指導　社会 理科　特殊
	52. 2．2 市公会堂	発表　社会２　特殊２　理科３	社会　特殊　理科　国語 家庭　学校図書館
11	53. 2．1 音楽文化会館 東北電力グリーンプラザ 県民会館小ホール	発表　国語　研究３　実践２　パネル 発表　家庭　研究１　実践２ 発表　学校図書館　研究２　実践２	国語　家庭　学校図書館 算数
	54. 2．7 市公会堂 音楽文化会館	発表　算数　研究４　パネル 発表　音楽　研究３　演奏１　合唱１	算数　音楽　図工　特別活動
12	55. 2．6 市公会堂 音楽文化会館	発表　図工　研究３　授業１ 発表　特活　研究４　パネル	図工　特別活動　社会　体育

代	研究発表会 期日・会場	内容（数字は発表者等の数）	重点研究部門
12	55. 12. 2 市公会堂 音楽文化会館	発表　社会　研究４　映画１　パネル 発表　体育　研究４　授業１	社会　体育　理科　道徳
	56. 12. 2 市公会堂 音楽文化会館	発表　理科　研究４　パネル１ 発表　道徳　研究３　講演１	理科　道徳　国語　保健
13	57. 12. 1 市公会堂 音楽文化会館	発表　国語　研究４　パネル１ 発表　保健　研究４　シンポ１ デモンストレーション１	国語　保健　算数　家庭 生徒指導
	58. 11. 30 市公会堂 県民会館 音楽文化会館	発表　算数　研究４　協議 発表　家庭　研究５　協議 発表　生徒指導　研究４　協議	算数　家庭　生徒指導　社会 音楽　特殊教育
14	59. 11. 28 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　社会　研究５　パネル 発表　音楽　研究３　協議 発表　特殊教育　研究４ アトラクション　パネル	社会　音楽　特殊教育
15	60. 11. 27 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　図工３　協議 発表　特活２　ＶＴＲ発表 フロアーディスカッション 発表　学校図書館３　パネル	図画工作　特別活動 学校図書館
	61. 11. 27 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　理科３　ＶＴＲ発表 パネルディスカッション３ 発表　体育４　ＶＴＲ発表　協議 発表　道徳４ パネルディスカッション４	理科　体育　道徳
	62. 11. 25 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　国語３ パネルディスカッション６ 発表　家庭２　ＶＴＲ発表　全体協議 発表　学校事務２ パネルディスカッション７	国語　家庭　学校事務
16	63. 11. 30 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　算数４ 発表　音楽４ 発表　保健６（養教２　栄養４）	算数　音楽　保健
	平成元. 11. 29 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　社会６ 発表　学校図書館５ 発表　生徒指導６	社会　学校図書館　生徒指導
17	２．11. 28 市公会堂 音楽文化会館 附属養護学校	発表　図画工作６ 発表　特別活動６ 発表　特殊教育４	図画工作　特別活動 特殊教育
	３．11. 26 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　道徳４ 発表　理科３ 発表　体育４	道徳　理科　体育
18	４．11. 25 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　国語５ 発表　家庭３ 発表　学校経営４	国語　家庭　学校経営

代	研究発表会		重点研究部門
	期日・会場	内容（数字は発表者等の数）	
18	5．11．24 市公会堂 音楽文化会館 県民会館	発表　算数５ 発表　生活３ 発表　学校事務４	算数　生活　学校事務
19	6．11．30 新潟テルサ 音楽文化会館 県民会館	発表　社会６ 発表　音楽５ 発表　保健３	社会　音楽　保健
	7．11．29 新潟テルサ	発表　図画工作３ 発表　特別活動11 発表　生徒指導15	図画工作　特別活動 生徒指導
	8．12．4 新潟テルサ	発表　理科４ 発表　体育28 発表　学校図書館５	理科　体育　学校図書館
20	9．12．3 新潟テルサ	発表　給食25 発表　道徳８ 発表　国語５	給食　道徳　国語
	10．12．2 新潟テルサ	発表　情報教育17 発表　特殊教育15 発表　算数12	情報教育　特殊教育　算数
21	11．12．1 新潟テルサ	発表　生活８ 発表　音楽７ 発表　家庭10	生活　音楽　家庭
22	12．12．6 新潟テルサ	発表　学校事務７ 発表　図画工作６ 発表　社会11	学校事務　図画工作　社会
	13．12．5 新潟テルサ	発表　保健５ 発表　特別活動４ 発表　理科３	保健　特別活動　理科
23	14．12．4 新潟テルサ	発表　体育８ 発表　生徒指導５ 発表　国語８	体育　生徒指導　国語
	15．8．26 新潟テルサ	発表　算数４ 発表　道徳６ 発表　学校図書館６	算数　道徳　学校図書館
24	16．8．25 新潟テルサ	発表　音楽５ 発表　給食５ 発表　情報教育５	音楽　給食　情報教育
	17．8．24 新潟テルサ	発表　生活４ 発表　図画工作５ 発表　障害児教育６	生活，図画工作，障害児教育
	18．8．23 新潟テルサ	発表　家庭３ 発表　学校事務４ 発表　社会５	家庭，学校事務，社会

代	研究発表会		重点研究部門
	期日・会場	内容（数字は発表者等の数）	
25	19. 8. 22 新潟テルサ	発表　総合学習９ 発表　特別活動９ 発表　保健５	総合学習，特別活動，保健
26	20. 8. 20 新潟テルサ	発表　体育５ 発表　理科８ 発表　国語６	体育，理科，国語
	21. 8. 19 新潟テルサ	発表　道徳８ 発表　算数５ 発表　生徒指導７	道徳，算数，生徒指導
	22. 8. 18 新潟テルサ	発表　音楽６ 発表　学校図書館８ 発表　情報教育８	音楽，学校図書館，情報教育
	23. 8. 18 新潟テルサ	発表　生活３ 発表　図画工作８ 発表　給食６	生活，図画工作，給食
27	24. 8. 21 新潟テルサ	発表　社会６ 発表　家庭５ 発表　特別支援教育５	社会，家庭，特別支援教育
28	25. 8. 21 新潟テルサ	発表　総合学習５ 発表　特別活動５ 発表　学校事務６	総合学習，特別活動， 学校事務
29	26. 8. 20 新潟テルサ	発表　理科８ 発表　体育７ 発表　保健５	理科，体育，保健
	27. 8. 19 新潟テルサ	発表　国語８ 発表　道徳８ 発表　外国語活動４	国語，道徳，外国語活動
30	28. 8. 17 新潟テルサ	発表　算数６ 発表　音楽５ 発表　生徒指導７	算数，音楽，生徒指導
31	29. 8. 22 新潟テルサ	発表　生活３ 発表　図画工作５ 発表　学校図書館９	生活，図画工作，学校図書館
32	30. 8. 21 新潟テルサ	発表　社会10 発表　家庭３ 発表　情報教育４	社会，家庭，情報教育
	令和元. 8. 21 新潟テルサ	発表　総合学習９ 発表　特別支援教育７ 発表　給食・食育６	総合学習，特別支援教育， 給食・食育
	令和２. 8. 21 新潟テルサ	（令和３年度に延期）	

代	研　究　発　表　会		重　点　研　究　部　門
	期　日・会　場	内　　容（数字は発表者等の数）	
32	令和３．８．４ 新潟テルサ	発表　理科４ 発表　特別活動５ 発表　学校事務９	理科，特別活動，学校事務
33	令和４．８．２ 新潟テルサ	発表　国語12 発表　体育27 発表　保健７	国語，体育，保健
	令和５．８．２ 新潟テルサ	発表　算数６ 発表　外国語12 発表　道徳７	算数，外国語，道徳

⑵　新潟市小学校教育研究協議会規約

平成４年３月改正
平成11年３月改正
平成15年３月改正
平成18年４月改正
平成24年４月改正
平成29年４月改正
令和３年４月改正

第１章　総　　則

第１条　この会は新潟市小学校教育研究協議会といい，事務局を原則として会長在任校におく。

第２条　この会は小学校教育に関する諸般の事項について研究し，職能の向上を図り，教育の振興と文化の興隆に寄与することを目的とする。

第３条　この会は前条の目的を達成するために下の事項を行う。

1　小学校経営に関する研究協議
2　教科並びに教科外教育に関する研究協議
3　家庭教育・社会教育に関する研究協議
4　研究発表・講演会の開催，研究論文，研究物の紹介
5　見学視察・調査

第２章　組　　織

第４条　この会は新潟市の小学校・特別支援学校に在職する教職員及び附属諸学校の教職員をもって組織する。

第５条　この会には第３条の事業を行うに必要な研究部を置く。会員はいずれかの部に所属する。

第３章　機　　関

第６条　この会には下の機関を置き，会長がこれを招集する。

1　評議員会　　2　理事会　　3　理事部長会　　4　研究部
5　役員選考委員会

第７条　評議員会は毎年４月の外必要に応じて開催する。評議員会は評議員の過半数が出席しなければ，開くことができない。ただし，委任状をもって出席とすることができる。

第８条　評議員会は，次の事業を行う。

1　規約の制定並びに変更　　2　事業計画の審議決定
3　経費の予算，決算の審議決定　4　会長，副会長及び会計監査の選出
5　その他必要な事業の審議決定

2　前項の議決について，出席者の過半数をもって決する。

第９条　理事会は次の事業を行う。

1　各種会議の原案作成　2　組織委員会，研究委員会，広報委員会の運営
3　各研究部に対する支援と相談　　4　緊急事項の処理

第10条　理事部長会は，各研究部，主管事業との連絡・調整を行う。

第４章　役　　員

第11条　この会には以下の役員を置き，任期は原則２年とする。ただし，再任は妨げない。欠員が生じた場合は，直ちに後任を置く。

１　会長　　２　副会長　３名　　３　評議員　各学校より校長１名
４　理事　若干名　　５　会計監査　若干名
６　研究部長　各部１名　副部長　若干名
７　幹事　若干名　　８　学校代表　各校１名

２　評議員会までに役員選考委員会を適宜開催し，会長，副会長，会計監査の候補者を推薦する。なお，役員選考委員は８名で構成し，各区より校長１名がその任にあたる。

３　理事，研究部長，幹事は会長が委嘱する。

第12条　会長はこの会の業務を統理する。副会長は会長を補佐し，会長事故あるときはその任務を行う。

理事は当該研究部の事業推進について総括する。また，所属区校長会や部員所属校長との連絡・調整を行う。

会計監査はこの会の会計を監査する。

研究部長は会長の委嘱により，当該研究部の仕事を統轄する。

幹事は会長より委嘱された事務を分掌する。

学校代表は市小研の運営方針及び活動に関する情報などを会員に伝達するとともに連絡・調整を行う。

第５章　会　　計

第13条　この会の経費は研究委託金，負担金，会費，その他の収入で支弁する。

第14条　この会の会計年度は，毎年４月１日に始まり翌年３月31日で終わる。

『市小研の日について』　〈昭和46年度より実施　令和３年度改正〉

１　新潟市小学校教育研究協議会を「市小研」と略称し，全市的な活動を行う日を「市小研の日」とする。

２「市小研の日」は原則として部会ごとに，地区別，学年別，課題・領域別等の研究形態を工夫して全員で研修を行う。

⑴「市小研の日」の開催月は，５月・６月・７月・８月・９月・11月・12月・１月・２月の年９回とする。

⑵「市小研」の研究発表会は８月に開催し，全会員で構成する。

⑶　５月，２月の「市小研の日」は，原則として研究部役員会とする。その際，派遣依頼を出す。

⑷「市小研の日」の運営は，年度当初に各部が計画し，会長調整の下に実施する。

３「市小研の日」は原則として毎月第１週目か第２週目の水曜日に開催する。

４　長期休業中（市小研の日以外）に活動を行う場合は，すべて派遣依頼を出す。原則として，重点教科・副重点教科部のみ，１日程度（市小研の日以外）勤務時間内に活動できることとする。

あ と が き

令和５年度の新潟市小学校教育研究協議会の成果をまとめた「教育実践」第67号をお届けします。刊行に当たり，多くの皆様の御協力と御支援を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

令和５年は，新型コロナウイルス感染症，インフルエンザの同時流行の影響を受けながらも，各部が運営を工夫して部会や研究発表会を実施しました。オンライン形式と従来の対面形式をどう使い分けるか等，コロナ禍で蓄積した創意工夫の何を残し，何を元に戻すのか，各部が本当に大切なものとしていく活動を再構築し，展開した一年であったと思います。こうした会員の皆様の取組が新潟市教育ビジョンの目指す子どもの姿の具現に貢献しているものと確信します。

本誌には，今年度の研究発表会において，研修の成果を分かりやすく発表した重点教科・領域の「算数部」「外国語部」「道徳部」と来年度発表となる「生活部」「音楽部」「生徒指導部」６部会を中心に，その他の教科・領域14部会の研究実践が凝縮されています。各部の真摯な研究実践の成果を，会員の皆様から日々の教育活動に活用していただくことを願っています。

本誌の編集刊行に際し，玉稿を賜りました新潟市教育委員会　井崎　規之教育長　様はじめ，ご指導くださいました各部の指導者の皆様に厚く御礼申し上げます。
また，御多用の中，編集執筆に御協力くださいました会員の皆様に感謝申し上げます。

編集委員
広報委員長　　佐　藤　貴　子（鳥屋野小学校）
広報担当幹事　金　川　千　穂（鳥屋野小学校）
〃　　髙　橋　広　樹（鳥屋野小学校）

「教育実践」第67号

発　行　　新潟市小学校教育研究協議会
会長　山　田　哲　哉